



令和7年度 創造教育開発センター 年次報告書

独立行政法人国立高等専門学校機構
福井工業高等専門学校

令和7年度（2025年度） 創造教育開発センター活動のまとめ

令和7年度創造教育開発センター長 米田知晃

1. はじめに

本センター創造教育開発センターは、本校における教育改善、ファカルティ・ディベロップメント（FD）、教育課程の調査・検討、メディア教育、教員間の教育的連携等を推進する組織である。令和7年度は、第4期機関別認証評価の受審を見据え、成績評価の妥当性の担保や新しいICTツールの活用、さらには令和8年度の学科改組に向けた準備など、多岐にわたる教育改善活動に取り組んだ。

2. 令和7年度の主な活動

2-1. 教育改善、FD及び学習支援に関すること。

(1) FD研修会及び講演会の実施

教職員の資質向上と教育改善を目的として、以下のFD研修会等を企画・実施した。

- ・ 成績評価に関するFD講演会（8月）：成績評価の適切なレベル設定、モデルコアカリキュラム（MCC）やシラバスの書き方等に関する研修。
- ・ 福井高専ジュニアドクター育成塾に関するFD研修会（12月）：5年間の軌跡と成果の共有。
- ・ 生成AIに関するFD講演会（3月）：生成AIの教育現場での適切な活用や留意点についての講演会を実施した。

(2) 成績評価が適切に行われていることの組織的チェック（機関別認証評価対応）

高等専門学校機関別認証評価委員会のガイドライン（令和7年5月決定）に基づき、成績評価の客観性と厳格性を担保するための組織的措置を強化・運用した。科目担当者が作成した授業点検シートを別の教員が確認する仕組みで、その授業点検シートの集計を創造教育開発センターで実施している。今までは、集計を各学科のセンター員が実施していたが、今年度末から自動集計する仕組みに変更した。3月24日の教務委員会にて集計結果を報告したが、いくつかの不具合が判明したものの、集計自体は出来ている。これらを用いて提出状況の可視化と集計結果の一覧による改善を目指す。

- ・ 授業点検シートの改訂：「成績評価はシラバスどおり行いましたか？」などの確認項目を追加。
- ・ 成績エビデンスの点検・監査：ピアレビューに加え、センターによるサンプリング監査を実施。シラバスの評価割合と成績データが一致しているか、また、過去の試験問題と同一の設問（同一率80%以上）が出題されていないかの確認を徹底した。

(3) 授業評価アンケートと公開授業週間の実施

- ・ 前期および後期に「授業評価アンケート」を実施し、集計・分析結果を教員へフィードバックした。教員は授業点検シートを通じてアンケート結果に対する改善コメントを記述し、次年度の授業改善に繋げた。
 - ・ 前期・後期に「公開授業週間」を実施し、教員間の相互参観を促した。本センターはこれまでも学習支援に関して教員への支援を行ってきたが、昨年度設置された「学習支援室」との関係により、学習支援する教員への支援についてワークショップの実施などを含めて検討中である。
- (4) 新任教員へのサポート体制
- ・ 教員へのサポート体制を構築し、着任後の円滑な教育活動を支援した。

2-2. 教育課程の調査・検討に関すること。

- (1) 実験・実習の内容とレベルの確認
- ・ 各学科の実験・実習テーマについて、MCC のレベル 3 に相当する内容（実践的かつ高度なスキル）が含まれているかを組織的に確認し、「実験スキル評価シート」の作成・運用に向けた対応を行った。
- (2) 教育効果の測定（各種アンケートの実施・分析）
- ・ 3 月に本校独自の「卒業時・修了時アンケート」およびを機構からの依頼に基づく「高専での学びの状況に関するアンケート」を実施し、学生の学習実態の把握に努めた。
 - ・ 「卒業生・修了生アンケート」は 3 年に一度の実施であり、令和 8 年度は実施に向けて要項の確認を行った。
- (3) 令和 8 年度学科改組に伴うシラバス対応
- ・ 令和 8 年度からの新学科への改組を見据え、新しい教育課程（2026 教育課程）に対応した Web シラバスの入力準備作業を各学科と連携して進めた。
- (4) 数理・データサイエンス・AI プログラム自己点検
- ・ 令和 6 年度の実施状況に基づく同プログラムの自己点検を行い、課題の抽出と今後の対応について審議した。

2-3. メディア教育に関すること

- (1) 新しい ICT ツールの導入と支援
- ・ Computer Based Drill (CBD) の運用開始：学生の基礎学力定着に向けた新しいドリル型学習システムの運用を開始した。
 - ・ WebClass 活用ステップアップ説明会：全国の各高専に対して高専機構がオンライン

ンにて実施し、本校のWebClass管理者に参加を促した。

(2) 生成AIの教育利用に関する対応

- ・ 機構が定める「教育活動における生成AIの基本的な考え方」を学生および教職員に周知し、リスクを理解した上での適切な利用を促した。
- ・ 教員を対象に「生成AI利用に関するアンケート」を実施し、学内での利用実態を把握した。
- ・ 生成AIを活用して「過去の試験問題との同一性チェック」を自動化するプロンプトの検証を行うなど、業務効率化の可能性を探った。

2-4. 教員間の教育的連携に関すること（教員間ネットワーク会議）

専門分野や教育テーマごとの連携を深めるため、以下のネットワーク会議（および関連ワーキンググループ）を開催し、情報交換と教育内容の検討を行った。

- ・ 社会及び技術者倫理に関するネットワーク会議（工学倫理WG）
- ・ 数学に関するネットワーク会議（数理・データサイエンス・AI WG）
- ・ 物理に関するネットワーク会議（学際科目担当者打合せ）
- ・ 情報処理に関するネットワーク会議
- ・ 専門・複合科目に関するネットワーク会議（プロジェクト演習打合せ）
- ・ デザイン教育に関するネットワーク会議
- ・ コミュニケーション教育に関するネットワーク会議

3. 今後の改善課題など

令和7年度は、年度計画に掲げた各種施策（FD研修会・講演会の実施、成績評価の組織的チェック体制の構築・運用、新しいICTツールの活用検討、各種教育アンケートの実施、教員間ネットワーク会議等）を概ね計画どおりに実施することができた。

今後に向けた主な課題・推進事項は以下の通りである。

- ・ 成績評価チェック体制の効率化と高度化：現状は目視チェックに依存しており、計算式の未記載や確認漏れが散見される。提出フォーマットの統一化を徹底するとともに、将来的には教務システムを改修し、シラバスの評価割合と成績データが自動照合される仕組みの導入を目指す。
- ・ 同一試験問題チェックの定着：過去問題との同一性（80%の基準）チェックについて、教員の負担を軽減しつつ確実にを行うための体制整備と意識共有を継続する。
- ・ 新学科体制へのスムーズな移行：令和8年度の学科改組に伴う新しいシラバスの運用や、新たな教育課程の実施状況について、継続的に点検・評価を行っていく。

目 次

| | |
|---------------------------|----|
| ○ FD活動 | |
| ・創造教育開発センター関連実施行事 | 6 |
| ・福井高専のFD等取り組み概要(本校ホームページ) | 7 |
| ○ 公開授業 | 11 |
| ○ FD研修会(センター主催) | 19 |
| ○ 教員間ネットワーク会議 | 34 |
| ○ 各種アンケート | 36 |

FD 活動

FD研修会（授業改善に向けた成績評価の取組み）を開催しました。

令和7年9月10日(水)「授業改善に向けた成績評価の取組み」と題してFD研修会を開催しました。まず、芳賀教務主事から成績評価の適正化に向けて概要説明があり、続いて米田創造教育センター長から成績評価に関する注意点や試験問題の取扱い等、組織的チェックを達成するために今回修正した授業点検シート、授業担当者の手引きの変更の理由、今後の点検方法について説明がありました。

その後、質疑応答が行われ、参加者からは具体的な重点点検対象科目やWebシラバスへの記載方法について質問があり、成績評価の組織的チェックを強化することで授業の改善に繋がることを全体で確認する良い機会となりました。



FD研修会（福井高専ジュニアドクター育成塾5年間の軌跡）を開催しました。

令和7年12月17日(水)「(福井高専ジュニアドクター育成塾5年間の軌跡)」と題してFD研修会を開催しました。まず、電子情報工学科 小松貴大准教授からジュニアドクターとは何なのか？福井高専が応募するきっかけとなったことから採択までの流れについて概要説明があり、引き続いて採択後の波及効果（地域貢献・受講生の本校受験等入試への影響その他）、現在のジュニアドクターの経験を活かし、さらに各学科が協力してプログラムのバージョンアップを目指していること、令和7年度までに福井高専ジュニアドクター育成塾に関連した小中学生数名が福井高専に入学していることについても報告がありました。

その後、質疑応答が行われ、校長からは参加者が本校入学後、ガリレオの卵コンテスト、ガリレオコンテスト、ビジネスアイデアコンテスト等を通して核になる人材に育てて欲しい、との講評もあり、本校の取組みについて教員全体で確認する良い機会となりました。



FD研修会（生成 AI に関する研修会）を開催しました。

令和 8 年 3 月 24 日(火)「生成 AI 時代に「教える側」は何を判断すべきかー 高専教育における生成 AI 活用の線引きと設計 ー」と題して株式会社ヨネヤマ Bridge Works（情報システムチームリーダー）兼 新基幹システム開発プロジェクトマネージャー 石川 紗莉（いしかわさり）氏を講師に迎えて FD 研修会を開催しました。

まず、講師から海外（海外の大学、企業）での AI 使用に関する実情、評価方法について、評価は成果物から思考プロセスへ移っていることについて説明がありました。その後、日本における AI 活用の課題として求められるスキルが変化しているとし、評価はアウトプットでなく判断、どう考えたかを評価するため「何を書いたか」ではなく「どう判断したか」を評価する課題設計が重要であるとの考えが示されました。

研修会終盤には、個人ワークから参加者がペアを組んでワーク内容についてディスカッションを行い、最後に講師からのまとめの説明の後、質疑応答を通して AI 時代の教育についての理解を深めることができました。



公開授業

令和7年度「公開授業週間およびFDレポート」のまとめ

創造教育開発センター

1 公開授業の目的と公開授業週間

目的：授業参観時間の拡大を図り、他の教員の授業方法等を参考とする機会を増やすことで、各教員の授業改善の参考とする。

前期：令和7年 6月16日（月） ～ 6月20日（金）

後期：令和7年12月11日（木） ～ 12月17日（水）

2 参観教員数

表1 令和7年度前期公開授業週間参観状況

| 学科等名 | 現員数 | 参観者数 | レポート提出数 |
|-----------------|-------|-------|---------|
| 機械工学科 | 9 | 6 | 8 |
| 電気電子工学科 | 9 | 3 | 4 |
| 電子情報工学科 | 10 | 3 | 5 |
| 物質工学科 | 11 | 5 | 5 |
| 環境都市工学科 | 7 | 4 | 4 |
| 一般科目教室（自然科学系） | 13 | 7 | 8 |
| 一般科目教室（人文社会科学系） | 10 | 5 | 8 |
| 計 | 69 | 33 | 42 |
| 参観率（%） | 33/69 | 47.8% | |

表2 令和7年度後期公開授業週間参観状況

| 学科等名 | 現員数 | 参観者数 | レポート提出数 |
|-----------------|-------|-------|---------|
| 機械工学科 | 9 | 6 | 8 |
| 電気電子工学科 | 9 | 5 | 8 |
| 電子情報工学科 | 11 | 4 | 4 |
| 物質工学科 | 11 | 6 | 6 |
| 環境都市工学科 | 8 | 5 | 10 |
| 一般科目教室（自然科学系） | 13 | 5 | 6 |
| 一般科目教室（人文社会科学系） | 10 | 4 | 9 |
| 計 | 71 | 35 | 51 |
| 参観率（%） | 36/71 | 50.7% | |

現員数は短時間勤務教員を除く常勤教員数を掲載。

- 公開授業週間の参観者率の推移（過去3年間）について、令和5年度は前後期通して1回以上参観した教員の参加率は78.9%、令和6年度65.3%であった。令和7年度は62.0%と減少傾向にあるため、参加率の向上に努めたい。

3 参観したクラス

表3 どの学科・教室の公開授業に参加したか？（前期）

| | | 参観した授業（学科・教室・専攻科） | | | | | | | | 合計 | |
|---------|------|-------------------|------|------|----|------|----|----|----|----|-----|
| | | 機械 | 電気電子 | 電子情報 | 物質 | 環境都市 | 自然 | 人文 | 学際 | | 専攻科 |
| 参加教員の所属 | 機械 | 6 | | | | | 1 | | | 1 | 8 |
| | 電気電子 | | 2 | | | | 1 | 1 | | | 4 |
| | 電子情報 | | | 4 | | | 1 | | | | 5 |
| | 物質 | | | | 3 | | 1 | 1 | | | 5 |
| | 環境都市 | | | | | 3 | 1 | | | 1 | 4 |
| | 自然 | | | | 1 | | 3 | 4 | | | 8 |
| | 人文 | 1 | | | | | 4 | 3 | | | 8 |
| 合計 | | 7 | 2 | 4 | 4 | 3 | 11 | 9 | | 2 | 42 |

表4 どの学科・教室の公開授業に参加したか？（後期）

| | | 参観した授業（学科・教室・専攻科） | | | | | | | | 合計 | |
|---------|------|-------------------|------|------|----|------|----|----|----|----|-----|
| | | 機械 | 電気電子 | 電子情報 | 物質 | 環境都市 | 自然 | 人文 | 学際 | | 専攻科 |
| 参加教員の所属 | 機械 | 4 | | | | 1 | 1 | 2 | | | 8 |
| | 電気電子 | 1 | 5 | | | | 1 | 1 | | | 8 |
| | 電子情報 | | | 3 | | | 1 | | | | 4 |
| | 物質 | | | | 3 | | 3 | | | | 6 |
| | 環境都市 | 1 | | | | 6 | 3 | | | | 10 |
| | 自然 | | | | 1 | | 2 | 3 | | | 6 |
| | 人文 | 1 | | 1 | 1 | | | 6 | | | 9 |
| 合計 | | 7 | 5 | 4 | 5 | 7 | 11 | 12 | | | 51 |

○ 概ね、所属する学科・教室の授業を参観する傾向にあるが、参観された授業のうち40.1%が他学科の授業であった。これは令和6年度（27.8%）を大幅に上回っており、センターとしても、今後も自身の専門領域に拘らずに他学科・教科の授業も積極的に参観して頂くように働きかけたい。

表5 どの学年の公開授業に参加したか？（前期）

| | | 参観した学年 | | | | | | 合計 |
|---------|------|--------|----|----|----|----|-----|----|
| | | 1年 | 2年 | 3年 | 4年 | 5年 | 専攻科 | |
| 参加教員の所属 | 機械 | 1 | 1 | 3 | 2 | | | 7 |
| | 電気電子 | | 4 | | | | | 4 |
| | 電子情報 | | 2 | 2 | | 1 | | 5 |
| | 物質 | 1 | 1 | | 2 | 1 | | 5 |
| | 環境都市 | | | 2 | 1 | | 2 | 5 |
| | 自然 | 7 | | 1 | | | | 8 |
| | 人文 | 4 | 2 | 1 | | 1 | | 8 |
| 合計 | | 13 | 10 | 9 | 5 | 3 | 2 | 42 |

表6 どの学年の公開授業に参加したか？（後期）

| | | 参観した学年 | | | | | | 合計 |
|---------|------|--------|----|----|----|----|-----|----|
| | | 1年 | 2年 | 3年 | 4年 | 5年 | 専攻科 | |
| 参加教員の所属 | 機械 | 1 | 2 | 3 | 1 | 1 | | 8 |
| | 電気電子 | | 3 | 1 | 2 | 2 | | 8 |
| | 電子情報 | 1 | 3 | 1 | | | | 5 |
| | 物質 | | | 4 | 1 | | | 5 |
| | 環境都市 | | | 3 | 5 | 2 | | 10 |
| | 自然 | 3 | 1 | 2 | | | | 6 |
| | 人文 | 3 | 4 | | | 2 | | 9 |
| 合計 | | 8 | 13 | 14 | 9 | 7 | | 51 |

- 参観した学年について、令和7年度は前後期を通して件数の多い順に2年、3年各23件、1年21件、4年14件、5年10件、専攻科2件となった。低学年の参観数が多い傾向にある。

令和7年度(前期)公開授業週間「FDレポート」

| ※ 授業担当者の 学科(教室) | ※ クラス名 | ※ 科目名 | ※ 月日 | ※ 限目 | ■ 参考になった点 | | | | | | | ■その他 | |
|-----------------------|-----------|----------|----------|---------|---|---|--|--|---|---|---|---|---|
| | | | | | 板書やプロジェクタ・OHPの使い方 | 教員の説明 (声の大きさ・スピード等) | 授業の導入 (出席の取り方、前回の復習等) | 授業の運営方法 | 教材や配布物 (小テスト・プリント) | 課題や演習の時間配分 | 理解度の確認 | | その他 |
| 一般(人文) | F3 | 国語 I | 6月18日(水) | 2 | 板書は読みやすかった。 | ・音読を聞いたが、聞き取りやすいスピード、声の大きさがよかった。 | ・予定通りの小テストから、 ・タイマーをうまく使っていた。 ・自身のエピソードを交えながら、作者の紹介しつつ、机間巡視で、学生の準備状況を確認していた。かなりのベテランの風格がある。 | ・要所で、タイマーを使い、かなり準備された授業構成だと感じた。 ・2人組で音読させるなど、学生にも活動させていた。 ・とにかく、良く動いていた。教員が音読しているときも机間を回り、音読した国語の授業を思い出した。 | ・意味調べのプリントも準備され、学生はスムーズに活動できていた。 | ・時間配分は素晴らしい。 | ・今回は、理解度というよりは、活動の進み具合、音読の状況などを確認するため、非常に多くの時間で机間巡視をしていた。 | ・授業の進め方で、小出しに、少しずつ、これからの授業のことも伝えていた。「上手いな〜」と思って聞いていた。 | ■今回、単元の最初ということもあり、板書の量が少なく、十分にスペースがあったにもかかわらず、意味調べの時に書いた板書を消してしまっ。今回の授業では、板書を消すことなく進められたと思う。また、先生なら、感覚的に、書く場所が判断できたように思われた。 |
| 一般(人文) | F1 | 国語 I | 6月19日(木) | 2 | 板書は読みやすかった。 | ・音読を聞いたが、要所まで読むスピードを変えていたように感じた。非常に聞き取りやすかった。 | ・予定通りの小テストから、 ・単元に合わせた内容で、学生にFormsでアンケートを取っていた。次の授業の導入または、展開で使える準備にもなっていたように思う。 ・自身のエピソードを披露し、学生の興味を引き出した。 | ・学生の活動の進み具合を見ながら、時間を区切り、進めていた。 ・学生の活動を確認するための机間巡視では、学生に良く話しかけていて、学生の会話を授業にも活かしていた。 ・学生にも発表させ、授業への参加を促していた。良く準備されていたように感じた。 | | ・時間配分は、良かった。学生の活動の状況を把握しながら、進めていた。 | ・机間巡視しながら、学生に声をかけ、状況を確認していた。 | ・Formsのアンケート内容も、学生同士で共有(シェア)させていた。学生は違和感なく自分の回答をシェアしていたので、このような活動が普段から行われているように感じた。 ・学生によく声をかけていた。学生と関係性が良いように感じた。 | |
| 一般(人文) | 2E | 英語 II | 6月19日(木) | 3 | ・スライド1枚に対する量が適切であった。 | | ・前回の復習から行っていて分かりやすい導入であった。 | ・学生に解答してもらう形式で、クラスの雰囲気として発言しやすそうであった。 | ・学生が興味を持ちそうな話題のプリントを使用していた。 | | | | |
| 一般(人文) | F1 | 歴史 I | 6月20日(金) | 2 | | 教室後方までよく聞こえた | 前回の復習として、学生の授業の感想を取り入れるという工夫がされていた。 | | | | | | 単元の目的、その日の授業の目次を明確にしていた。 |
| 一般(人文) | F3 | 国語 I | 6月18日(水) | 2 | とくに大事なことを板書していた たて書きは(普段よ書きの自分にとって)新鮮だった | 声大きくて良い 音読聞きやすい | 作品に入る前に作者の紹介があった | まず教員が音読し、その後学生にペアで音読させていた 学生が考える時間にはタイマーを使って時間管理をしていた | 漢字テスト 語句調べのプリント | タイマーを用いた時間管理はわかりやすくて良い | 学生を指名して答えさせる 机間巡視で様子を確認 | | |
| 一般(人文) | F3 | 国語 I | 6月18日(水) | 2 | 板書が見やすい。 | 声の大きさ、スピード共に聞きやすい。 | 教員の指示、学生の活動、グループでの演習とメリハリがあった。 | | | | | 指名して理解を確認していた。 | 教員が楽しそうに授業をしているのが印象的だった。 |
| 一般(人文) | 2E | 英語 II | 6月20日(金) | 1 | 単語はまず1つずつ載せ、最後にすべての単語をまとめて載せていた。 | 声が後ろまで届いていた。退屈にならないようにテンポを良くしつつ、スライドをメモしたかを丁寧に確認していた。 | 課題の答え合わせをしながら復習をしていた。1人1人指名して解答してもらったスタイルで実施していた。 | 適宜学生とコミュニケーションをとりながら説明をしていた。学生には周りと話し合いを認めていた。 | 構文を活用できるように、並び替え、英文の日本語訳、語句を提示しない作文とタイプの違う問題を出していた。 | 授業中に配布したプリントを解く時間を10分設けていた。 | 単語や構文、文法などが出てくるたびに説明し、これまでの内容を思い出しやすく記憶も定着しやすい工夫をしていた。 | 構文の説明時、学生が話した日本語を即興で英語で書いて対応していた。 | |
| 一般(人文) | 5E1 | 英語 V | 6月18日(水) | 1 | ・最初に講義内容を板書にて説明していた。その場でipadの画面に記入をしたり、また、一部隠すなど工夫しておられた。 | ・様々な学生を頻りに指名し、英語発話の機会を多く与えていた。ただ、少々圧倒されている様子の学生もいた。 | ・講義開始時に講義の要点を説明。 | ・タスク(課題プリント配布)により、アクティブ・ラーニング(学生主体学習)の時間を設定する努力をしていた。 | ・世界的ベストセラーといえるテキスト(TOEIC対策他)を使用。 | ・学生の英語応答を確認し、理解度が低い場合に発話を無理強いないで、待ちの姿勢であった。 | ・やさしい英語と日本語とフレンドリーな姿勢で学生に接する努力をしていた。 | ・特になし。 | |
| 一般(人文) | 5C | 工学倫理 | 6月20日(金) | 3 | ・動画を使っていて、興味を引きやすい。 | ・ゆっくり話していた。 | ・出席番号で欠出確認していた。 | ・学生どうしのディスカッションがあった。 ・授業中に少しずつ課題を進めていた。 | ・課題提出用紙(A4用紙1枚) | ・授業中に5分弱×4。 | ・課題を与えて提出させていた。 | ・単純に聞いていて面白かった。社会人向けの講座にピッタリだと思った。 | |
| 一般(自然) | F3 | 基礎解析A | 6月18日(水) | 3 | 板書はほとんどされず、ipadの画面をスクリーンに投影する形で進められた。また、その場でipadの画面に記入をしたり、また、一部隠すなど工夫しておられた。 | ・徳に問題なし。 | 前回の授業で学習した内容を最後に簡単に復習した上で、導入をされていた。 | ちょうどよいペースで進めて度度学生に記入をさせるなど、工夫されていた。 | 特になし | 時間配分については、このような授業形式では各学生に合わせることは不可能なので、ここでは評価しない。 | 演習をおりませ、直前に学習したことをその場で復習させる形式で行われており、大変参考になった。 | 特になし | 口頭での説明が多いので、視覚的な効果もねらったほうがよいかもしれませんが、例えば、操作(代入や、移項等の式変形)を、視覚的に「動き」として実感させるような工夫をするよといと思います。 |
| 一般(自然) | 2C | 物理 | 6月16日(月) | 1 | ・板書の字がきれいで見やすい。 | | ・前回の復習から行っていて分かりやすい導入であった。 | | ・授業プリントを配布して、それと教科書が対応していて分かりやすい。 | | | | |
| 一般(自然) | F3 | 化学 | 6月19日(木) | 1 | | ゆっくり喋っておられた。教室の最後で聞き取れる声量だった | | 学生どうして教え合わせるところが良かった。 | 手書きのプリントが配布されていた。 | | 提出用の授業課題があった | | 物質工学科とSATPとSTPとNTPのすり合わせをしておく必要があるかもしれない |
| 一般(自然) | F2 | 基礎解析B | 6月17日(火) | 2 | 板書が整頓され、みやすい。 プロジェクタを活用していた。 | 非常に通る声で学生が聞きやすい。 | 小テストで前回の習熟度を確認してから先に進めていた。 | 学生に黒板で解答させるなど、飽きさせない工夫がされていた。 | オリジナルのプリントを使用。 | | 小テストを実施。 | 学生が楽しそうに授業を受けている姿が印象的だった。 | |
| 一般(自然) | F5 | 化学 | 6月20日(金) | 4 | | ・声の大きさとスピードは聞き取りやすかった。 | ・実験プリントを配布して器具の使い方と実験方法を説明していた。 | | | | | ・二酸化炭素、金属元素、そして塩素を検出する実験を通して、その化学反応式を書かせる問題もあった。 | ・安全ゴーグルを着用させて実験をしており、安全面の配慮があった。 |
| 一般(自然) | F1 | 基礎解析A | 6月17日(火) | 2 | 板書の式、解がきれいに書かれており見やすい。 | 声の大きさ、スピード共に聞きやすい。機間巡視でメリハリが効いている。 | | 説明と演習がバランスよく行われており、学生が授業に集中できていた。 | | | 適宜机間巡視、指名して解答させており、ミスがあった際にはその学生だけでなく、全体に注意喚起していた。 | aとαなど、間違えやすい文字を注意していた。 | ノートを取るべきところ、取らなくていいところを伝えてから説明していた。それにより、学生は今何をすべきかがわかりやすいようだった。 |
| 一般(自然) | F4 | 化学 I | 6月19日(木) | 2 | 図を用いての説明、わかりやすい。 | ちょうどよい。 | 前回の復習をプリントを用いて実施していた。 | 演習に取り組む時間が多くてよい。 | プリントを用いていた。 | バランスが良い。 | 課題棟で対応している様子だった。 | | |
| 一般(自然) | 3B | 応用物理 I | 6月19日(木) | 2 | ドットを見えやすいように白丸で書く、境界線を引いて異なる話題同士が混同しないようにするなどの工夫があった。 | 一番後ろまで声が届いていた。軽やかなテンポ。 | 冒頭で前回の復習をし、今回扱うトピックにつなげていった | | プリントのどの位置に書いた方がよいかを説明していた。図が書けるように空白を多く留めていた。 | | | (説明の続き)口頭で白丸はドットだと説明、計算は簡単なものからはじめて公式に当てはめており、分かりやすい。 | |
| 一般(自然) | F4 | 化学 I | 6月19日(木) | 2 | 板書を3等分に分割して見やすい。 | 教室の後ろまでしっかりと聞き取れる声で話されていた。 | 問題を課すことで前回の学習した部分の確認を行っている。 | 問題を解く時間と講義時間に分かれている。 | 問題プリントだけでなく板書プリントも配られている。 | | 問題を解くことで確認が行われていた。 | 学生が理解につまずくような概念説明を、アナロジーで説明したり、簡単な計算をさせることで確認するなど、工夫がこらされていた。 | |
| 一般(自然) | 3M | 解析 II | 6月20日(木) | 1 | 板書の字がきれいで見やすい | 個人的には少し聞き取りにくかった(年のせいかもしれない)。教室にピンマイクを常設したら数学の成績が上がるかも。 | 前回の復習から入っており、スムーズだった | 実例の説明で、学生ができると思わせてから演習に入るのが良かった | プリント | 30分かけて一題説明していた。これぐらいのペースが良いのかもしれないと思った。 | 学生に当てて確認していた | 割りばしのくじで当てる学生を選んでいたのは、日付より良いかもしれないと思った。 | |
| 一般(自然) | 3E1 | 解析 II | 6月18日(水) | 1 | スライドを使った授業で、一番後ろからでも見やすい大きさがよかった。 | 計算に必要な時間やスライドの内容を書き写す時間も適切であった。 | 前回の復習を含めた導入を30分ほど実施していた。 | 導入後に今週の課題・プリントを配るなどして、スライドを見ているだけでなく学生が手を動かすことができ、スライドを用いた授業の参考になった。 | | | 定期的に課題(宿題・レポート)を課していた。 | | いつも専門の授業ばかり見学させてもらっていましたが、一般科目の先生方の授業を見学させてもらうことで、高専生の基礎能力の向上に欠かせない科目だと改めて感じました。 |
| 機械 | 3M | 材料学 II | 6月19日(木) | 2 | PPが用意されていた。PPを使って授業を展開 | 説明のスピードはゆっくりと聞き取りやすかった。 | 2年生時の復習をPPと教科書を使って行った。 | 重要な場面では、ノートを取る時間が設けられていた。 | PPと教科書を組み合わせて説明していた。 | 大切な項目はPPを使って、時間を掛けて説明していた。 | | クラスとしては、落ち着いた雰囲気であった。 | |

令和7年度(前期)公開授業週間「FDレポート」

| ※ 授業担当者の 学科(教室) | ※ クラス名 | ※ 科目名 | ※ 月日 | ※ 限目 | ■ 参 考 に な っ た 点 | | | | | | | ■その他 | | |
|-----------------------|-----------|-------------|----------|---------|--|---------------------------------------|---|---|---|---|--|--|--|--|
| | | | | | 板書やプロジェクタ・OHPの使い方 | 教員の説明 (声の大きさ・スピード等) | 授業の導入 (出席の取り方、前回の復習等) | 授業の運営方法 | 教材や配布物 (小テスト・プリント) | 課題や演習の時間配分 | 理解度の確認 | | その他 | |
| 機械 | 2M | 機械製図 | 6月19日(木) | 3 | 板書と実物を使って説明。教員の描いた図面を提示していた。 | 大きな声でゆっくりと具休例を交えて説明されていた。 | 新しい項目であること。これまでのテーマと異なる点について説明があった。 | 複数の教員等が机間巡視をしながら作図の指導をしていた。 | 教科書の描いた図面を提示していた。 | 最初の説明の後、図面に組み立てていった。 | 個人個人に応じたアドバイスをしていた。 | | クラス全体として、落ち着いて課題に取り組んでいた。 | |
| 機械 | 1M | 専門基礎Ⅲ | 6月20日(金) | 2 | PPが用意されていた。PPを使って授業を展開 | 説明のスピードはゆっくりと聞き取りやすかった。 | 「情報デザイン」の新しい項目に入ることが説明されていた。 | 重要な場面では、ノートを取る時間が設けられていた。 | PPと教科書を組み合わせで説明していた。 | 例題を示し、その後演習問題に取り組みせていった。演習問題のレベルも難しいものではなかった。 | 演習問題を実施し、机間巡視しながら確認していた。 | 理解度が遅れがちな学生には、机間巡視中に声を掛けていた。 | 学生が1名、迷子になっていて、出席に間に合わなかった。教室の中の環境が落ち着かない雰囲気になっているのではないだろうか？ | |
| 機械 | 3M | 応用物理Ⅰ | 6月19日(木) | 1 | 板書において、色使いをはじめ、文字の大きさなど非常に見やすくなるよう工夫されていた。 | 学生が聞き取りやすい速さでスピーチしていた。 | 物理に関する数学の基礎から指導されていた。 | 配布プリントに板書を記入する方法で、配布プリントも見やすく、整理がい行き届いていた。 | あり | 最適 | 最適 | 報告者自身が一から受講したい授業形式であった。 | | |
| 機械 | 2M | 機工実習Ⅰ | 6月18日(水) | 1 | | ちょうどよい。 | ヒヤリハットから確認。 | メリハリがあった。教員が教えたことを学生が学生に説明する機会があった◎ | 教科書の代わりとなるプリントあり。学生はそれを見ながら説明を聞き作業を行う。 | バランスよい。 | 授業内で教員が尋ねるなど、学生の理解度をはかっていた。 | | 教えを受けた学生が、別の学生に教えるという手法は参考になった。座学とは異なる学生の表情を見ることができた。 | |
| 機械 | 4M | プロジェクト演習 | 6月20日(金) | 4 | プロジェクタの活用およびTeamsによりオンラインで他のクラスとつないで授業を進めていた。 | ・大きな声で全体に聞こえるように話していた。 | ・授業の内容を事前に説明し、目的を伝えていた。講師の方の経歴等を含め説明していた。 | | | | | | | |
| 機械 | 1PS | 生産システム工学演習Ⅰ | 6月19日(木) | 1 | | ・声が明瞭で聞きやすかった。 | | | | | ・グラフの意味を丁寧に教えていた。 | ・学生が質問しやすい雰囲気をつくっていた。 | | |
| 機械 | 4M | 機械設計法 | 6月17日(火) | 3 | 図を大きく板書しており、とても見やすかった | 声がよく通っており、大事な箇所を何度も説明していた | | | | | 都度学生に問いかけることで理解度を確認していた | | | |
| 電気電子 | 2E | 電気磁気学Ⅰ | 6月17日(火) | 4 | スライド主体、メリハリを意識し板書を使用スライドpdfはTeams配信でいつでも参照可(電子端末未使用可) | 適切 | 授業最初に、前回授業の内容を隣人同士で説明させる(復習)出欠は座席表で確認 | 前回復習(確認) ↓ 講義 ↓ (休憩5分) ↓ 演習 ↓ 答え、まとめ | ・スライドpdfをTeams配信 ・演習問題 ・まとめ用紙 | 講義45分 休憩5分 演習40分 | 最初の隣人説明 後半の演習 まとめ作成、隣人説明 | | 十分に作り込まれたスライドを使用して授業展開し、イメージしにくい電気磁気学をイメージしやすく工夫している | |
| 電気電子 | 2E | 電気磁気学Ⅰ | 6月17日(火) | 4 | パワーポイントのアニメーションが効果的で分かりやすかった。 | | 前回の内容を学生間で共有した後に、教師からの説明が入り、学生の理解が促進されそうであった。 | 学生の集中力の度合いを見て、効果的に休憩を挟んでいた。 | | | 復習課題に加え、授業の終わりに学生間で内容の共有を行っていた。 | | | |
| 電子情報 | 2EI | 情報工学基礎 | 6月18日(水) | 3 | | ・計算機の高速化を日頃の勉強に例えて考えさせていた。 | ・前回の復習をスライドを使って実施していた。 | | | | | | ・概念を理解させる単元であったため、学生のモチベーション、達成感を高めることが難しいと感じた。 | |
| 電子情報 | 5EI | 情報理論Ⅱ | 6月17日(火) | 1 | ・テーマ(発生状況)ごとに板書を3分割して書き記して、過程が分かりやすい。 | | ・遅刻学生が多い日であったが、最初に確実に出席を確認し、再度読み上げて確認していた。 ・前回の内容について口頭で簡潔に述べて、授業に入っていた。 | ・例題と分かりやすい事象を例に挙げて、説明と板書が展開されていた。 | | | 授業の最後に発展問題を提示し、理解度確認を図っていた。 | | | |
| 電子情報 | 3EI | プログラミング応用 | 6月16日(月) | 4 | PPTによる資料を投影しながら授業がされていて、当日のテーマが網羅的にわかる資料になっていた。 | | 前回のプログラムについて簡単に復習画面を提示してから、当日のテーマに入っていた。 | | | | 演習の画面を投影しながら説明し、説明後に適切に学生への演習のための時間をとっていた。 | | | |
| 電子情報 | 2EI | プログラミング基礎 | 6月20日(金) | 4 | PPT資料での説明と、プログラムのエディタ画面での実況説明を使い分け、分かりやすい説明だった。 | プログラミング初学者に向けても分かりやすさを意識したスピードの説明だった。 | 欠席確認は、何限目までいたのかなど、学生にも聞きながら、クラス全体を把握する工夫をしていた。 | | | 1テーマ説明をし、それに対して同テーマの演習を行い、理解の確認を促していた。 | | | | |
| 物質 | 3C | 物理化学Ⅰ | 6月20日(金) | 2 | 丁寧に理解しやすいパワーポイントであった。 | 一つ一つ丁寧に順を追って説明されていた。 | 前回話したポイントとなる部分を再度話された。 | 学生の写すスピードを随時確認しながら授業を進めていたのが良かった。 | 教科書に載っていないところは特に学生が写す時間を設けていた。 | 演習問題を解く時間があり、困っているような学生には丁寧に解き方を教えていた。 | 学生に理解出来ているか聞いていた。 | 試験勉強でのポイントを伝えていた。 | | |
| 物質 | 4C | 材料工学実験Ⅰ | 6月16日(月) | 3 | BYOD対応実験であり、実験ノート記録からデータ処理がパソコン上で行われている | | | 実験とパソコンが活用されていてすぐに考察ができる | | | | | | |
| 物質 | 4C | 材料工学実験Ⅰ | 6月17日(火) | 4 | ・個別に実験を進めて行くスタイル | ・教員2人での監視の徹底 | ・班ごとの活動がよくわかるように配慮されていた | ・自主的に実験を進められるようにアクティブラーニングの取り入れ | ・実験テキストと最終レポート | ・時間内で終了するように実験内容が考えられていた | ・学生に適宜話しかけていた。 | ・データ処理など話し合いながら積極的に進めていた | | |
| 物質 | 2C | 有機化学Ⅰ | 6月17日(火) | 1 | 板書の字は大きく、後ろからでも容易に認識できる。 | 声が高く、大きい。そのため、後ろにいても容易に認識できる。 | 授業開始5分間で小テストを実施していた(成績に反映されない)。小テストの内容は、おそらく前回の授業内容であると考えられる。小テストを行うことでウォーミングアップにもなるし、学生側も(有機)にスイッチしやすいと思う。自身の授業でも取り入れた復習方法だと感じた。 | | 板書時間を減らすために、教員が手書きで作成した資料を配布していた。その配布物に従って授業を進めていた。手書きである「意義」があるかと思うが、少し読みづらい箇所もあるので、word等で資料作成しても良いと思う。また、教科書も使った方が良いかと思う。 | 授業開始5分は小テストを実施していた。その後は講義。 | 毎週、授業の初めに小テスト形式で復習を行い、理解度の確認を行っていた。 | | | |
| 環境都市 | 1ES | 工学実験Ⅰ | 6月19日(木) | 2 | プロジェクタを利用した特別講演 | 教員が外部講師に依頼して特別講演実施 | 専攻科生を中心に、関係教職員に声掛けて実施 | 専門知識と経験談とを織り交ぜ実施 | | | 少人数で理解を確認しながら実施 | 事前に入念な打合せを行っていたと聞いている | | |
| 環境都市 | 4B | 建築環境Ⅰ | 6月20日(金) | 2 | スライドを用いた授業が行われていた。スクリーン全体が使えておらず(余白が多い)、スライドが小さいため、後方から文字(とくに数式の添え字)が読めないときがあった。 | 教室後方からも聞き取れる声の大きさを授業で語りかけていた。 | 空席の名前を確認して出欠確認を実施されていた。 | 教科書に沿って要点をおさえながら授業を運営されていた。ノートづくりを意図させる場合、もう少し時間をとってあげると良いと感じた。 | | | | 採光の授業。光量、光度、照度等、「建築士の試験では単位がひっかけ問題として出題されている傾向がある」などのコメントは学生にとって有用だと感じた。 | リモコンの拡大・縮小を併用する。あるいは、スライドのフォントサイズを大きくする等の工夫が必要。 | |
| 環境都市 | 3B | 環境都市計画論 | 6月17日(火) | 2 | ・プロジェクタの字がきれいで見やすい。 | ・声の大きさ、スピードとも聞き取りやすい。 | | ・学生の進捗状況を確認しながら進めていくので分かりやすかった。 | | | | | | |
| 環境都市 | 3B | 環境都市工学実験実習Ⅱ | 6月16日(月) | 2 | ・ホワイトボードを有効的に活用。 | ・学生の質問に応じて丁寧に説明。 | ・前時の内容を導入に活用。 | ・実習と説明のバランスが良い。 | ・適切な手引書を活用。 | ・時間配分が適切。 | ・適切な実習レポートを課していた。 | | | |

令和7年度（後期）公開授業週間「FDレポート」

| ※ 授業担当者の 学科(教室) | ※ クラス名 | ※ 科目名 | ※ 月日 | ※ 限目 | ■ 参考になった点 | | | | | | | | ■その他 |
|-----------------------|-----------|----------|-----------|---------|---|---|---|---|---|--|---|---|---|
| | | | | | 板書やプロジェクター・HPの使い方 | 教員の説明 (声の大きさ・スピード等) | 授業の導入 (出席の取り方、前回の復習等) | 授業の運営方法 | 教材や配布物 (小テスト・プリント) | 課題や演習の時間配分 | 理解度の確認 | その他 | |
| 一般(人文) | F1 | 歴史I | 12月16日(火) | 2 | ・キーワードのみを書いて、説明を聞かせている。 ・パワポと配布資料で穴埋めをさせている。 | ・学生の発表を、教員がまとめながら補足説明を加えている。 | ・前回の積み残して、グループ発表させながら、復習をさせていた。 | ・グループの発表者者に、出席番号、氏名を言わせていた。 ・個人ワークグループ学習→クラスで共有、という流れ。 ・学生に、聞きながら書く、ということもさせていた。 | ・授業の資料(史料)、穴埋め、ワークシート(記述)、それぞれ工夫して作られていた。 ※他のグループの意見も書くようになっていた。 | ・グループの話し合いは時間を区切って、発表せざるを得ない状況を自然と作っていた。 | ・ワークシートは提出させていたようだった。得点化していた。 | ・板書は、キーワードのみであったが、色を使い分けて、強調したり、区別したりしても良いと思った。 ・グループ学習では、机の配置(向き)が難しかったと感じた。 ・板書は少なく、学生も教員の説明をよく聞いていたように見えたが、もう少し(たまには)双方のやり取りがあっても良かった。 | |
| 一般(人文) | F4 | 特別活動 | 12月11日(木) | 4 | ガリタマの発表練習の時間を設け、学生に使用させていた | はきはきして良い | | | | | | | 特別活動の時間が有意義に使われていて良いと感じた |
| 一般(人文) | 2M | 倫理 | 12月12日(金) | 2 | プロジェクタ、黒板に要点だけまとめられていて学生が考えなければいけないポイントが分かりやすかった。 | 聞き取りやすく考える間をくれた。 | 前授業を休んでいた学生にもわかるように説明を学生にでもらっていた。 | 学生同士で考える時間があり、アウトプットの訓練もあった。 | | 学生同士で協力し合う時間が適切に設けられていた。 | 学生同士で相談後、全体に共有する場面が見受けられた。 | | |
| 一般(人文) | 5M | 日本文学論 | 12月12日(金) | 2 | 字が大きく、見やすい。 系図が書かれており、学生の興味を引いていた。学生が前を向いて話を聞く工夫がされていた。 | 若干遠いように感じたが、大きく聞きやすい。 | | 講義のあと、それを受け演習を行っていた。最後にまとめとして、学生の意見を取り入れ、そのうえで教員の考察を披露した。 講義から最後のまとめまでつながりのある展開だった。 | 配布資料2枚 | | 講義と資料の読み取りができていたかを演習の中で確認していた。 | 学生はさまざまな意見を述べていた。それらを認め、うまくフォローしながら自身の論につなげていた。 | 学生に課題を考えさせるときにはタイムリーに使用しており、緊張感を持たせていた。 |
| 一般(人文) | 2E | 国語II | 12月22日(月) | 1 | 字が見やすい。 配布プリントと対応している。 | 聞きやすい。 | | 理解確認のための問いを定期的に挟みつつ、読解を進めている。 | 問いや解説を記載したプリントを配布。 | | | | 読解のための問いを段階を踏んで提示している点が参考になりました。また文章を読む際に、単独で黙読させるのではなく、複数人で音読をさせるという点に工夫が見られました。 |
| 一般(人文) | F4 | 特別活動 | 12月11日(木) | 4 | 学生がパソコンの操作ができるようになるために、操作を一任させていた。 | 学生が自主的にパソコンを操作できるようサポートもしていた。 | ガリレオの卵コンテストが14日にあると伝え、その練習を学生と学生に伝えて、発表練習を実施していた。 | 学生の報告練習をクラス全体で聞く方法だが、テストも呼び、緊張感を持たせていた。 | | | | | |
| 一般(人文) | F4 | 国語I | 12月12日(金) | 4 | 穴埋めを学生に書いて授業を進める使い方も取り入れていた。 | 声が後ろまでよく届いていた。 | 音読や復習をこまめに取り入れていた。 | 個人作業と前後左右の人の話し合いによる作業をバランスよく実施していた。 | 授業内容の理解を助ける穴埋め式プリントを配布し、それを学生にさせていた。 | 集中力を欠くことがないよう、書く時間は短い時間で区切っていた。 | 授業中に当てて理解度を確認していた。 | | |
| 一般(人文) | 2M | 英語II | 12月17日(水) | 3 | コミュニケーションに必要な英文を黒板に書き、学生が適切に使えるように注意喚起していた。 | ペアワークの様子を巡回しながら、英語コミュニケーションができるようにサポートしていた。大事な点は黒板も使いながら説明していた。 | ペアワークが前回と同じペアにならないように工夫していた。 | イラストを配布し、ペアの相手がイラストのまま絵を描けるように英語で説明しようという内容だった。ペアワークを中心に、巡回しながら、英語でコミュニケーションできるように工夫していた。 | 絵を描くだけでなく、説明する際に分らない単語、構文などの振り返りができるようにプリントを配布していた。 | 時間をしっかりと区切った配分であった。 | AIも活用しながら、英語の文法や単語を確認していた。 | 学生が英語を使うことを嫌にさせない工夫がなされた授業スタイルで、大変参考になった。 | |
| 一般(人文) | 5EI | 英語V | 12月17日(水) | 2 | 講義概要を講義冒頭で説明していた。英語が理解できていないのか、消極的な受講姿勢の学生への対応が苦勞。 | 学生の指名の状況や英語発話の機会を多く与えている点は申し分ない。英語を使うように促すような授業運営がある。 | 外国人講師のため出席確認に慎重を要するが、学生が援助していた。 | 前回の授業参照同様、タスク(課題)プリント配布)により、アクティブラーニング(学生主体学習)の時間を設定していた。 | 世界的にベストセラーのテキスト(TOEIC®対策)を使用。 | 学生の英語応答を確認し、理解度が低い場合に発話を無理強いせず、待ちの姿勢であった。上記は大変評価できる。 | やさしい英語とフレンドリーな姿勢で学生に接するように努めていた。 | 前回の授業参加と比較しても適切な講義内容と判断できる。 | |
| 一般(人文) | 4M | 国語表現 | 12月18日(木) | 2 | 授業の場面に応じて、PPと板書を使い分けていた | 落ち着いたトーンとスピード | 1分間プレゼン評価の翌週 | PPと資料と板書を場面において使い分け、学生を随時指名しながら、授業を展開している。また、学生同士を絡ませる場面も設けている | PPと配布資料がきちんとリンクしており、学生が筆記用具を用いる場面もあった | 説明を理解させながら、授業開始60分過ぎに練習問題を実施している | 学生を随時指名しながら授業を展開しているため、その後の練習問題で理解度を確認している | | |
| 一般(人文) | F1 | 歴史I | 12月16日(火) | 2 | プリントの穴埋め用のキーワードを大きく見やすい文字で板書していた。 | 聞き取りやすいスピードと大きさを説明していた。 | 導入で、グループワークで前回の振り返りを行っていた。 | 導入で、前回の内容を思い出して、今回の説明を行っており、理解しやすい流れになっていた。 | 穴埋め式のプリントが配布されていた。 | 冒頭のグループワークに15分程度割いていた。また、大きなタイマーを設置して学生が時間を意識して議論するように工夫されていた。 | グループワークのあとに、各班のまとめを発表する機会を設けて、理解度を把握していた。 | | |
| 一般(人文) | 2E | 公共社会1 | 12月15日(月) | 3 | プロジェクタの資料は見やすかった。 | | | | 授業前にプリントを学生が自分で取りに行った。とても良い。 | | | 授業の最初はしっかり雰囲気をつめていた。 | 内容が死について話だったので、かなり配慮しながら進めていた。 |
| 一般(自然) | 3EI | 応用物理I | 12月16日(火) | 1 | ・板書は丁寧、ゆっくり、読みやすい。 | ・オーソドックスなスタイル | ・特記事項無し。 | ・オーソドックスなスタイル | | | | | ・オーソドックスなスタイル。 |
| 一般(自然) | 2M | 解析1 | 12月17日(水) | 2 | 板書を中心に授業を展開している。例題ごとにしっかりと板書されていた | 「部分積分法」の導入であるため、丁寧にゆっくりとした話しスピード | 「部分積分法」の導入で、特徴的な例題を4問解いた | 30分ほど、特徴的な例題4問を解き、その後演習問題を実際に解かせていた | 説明したA問題よりも少しレベルを上げた演習問題を5問、課していた | 授業の後半1時間ほどを演習問題に取り組みさせていたので、このくらいの時間が必要であると感じた | 演習問題に取り組みさせて、理解度を確認していた | 説明の途中、先生の板書にミスがいくつかあったが、何人かの学生が気が付き、ある学生がそのことをきちんと指摘できたのは、教員と学生の間の関係が日頃からの良いのだと感じた | |
| 一般(自然) | 2E | 解析I | 12月16日(火) | 2 | 第2演習室で、全て各PC端末からオンライン教材を使用。個人PC使用可(見学の範囲でWB・板書使用なし) | 各端末からの学生個人による動画教材使用。またはネット上の教材使用可(各学生はイヤホン持参) 教員は、質問対応のため待機 | 各学生が端末を起動し、学習に取り組み始める中を巡回視察し、3分程度で欠確認を完了 | 各学生が、右記①～③の教材を用いて各々のペースで学ぶ | すべてTeamsによる電子配信(①講義ノート、②解説動画、③課題プリント) | 教員側ではコントロールしていない(各学生による判断) | 課題プリントの提出期限を、授業冒頭で指示しており、これを用いて毎回の理解度を確認していると思われる | 電子教材(pdf、動画)の活用方法に関し、参考になった。特に、動画教材の準備に苦勞があるとのこと | 全編がオンデマンド形式の授業であることに驚いた。動画教材は、書面カメラ+Padを使用し、動画教材によるナレーションを入れて作成しているとのこと |
| 一般(自然) | 2EI | 物理 | 12月12日(金) | 1 | タブレットと黒板の併用・タブレットの場合、書いた文字の配置を変更できるところが良い。 ・教科書をスライドで映しながら説明し、わかりにくい説明は黒板で式や図を使って再度説明していた。 | ちょうどよい説明の速さ | | 演習問題を解き終わった学生が筆手制で黒板に解答を書く。(加減あり) / 初回授業で説明済 | | | 新たな概念の説明のあと、すぐに基本的な演習を行い理解度の確認をしていた。 | ベクトルや単位の扱いなど、間違いないように丁寧な説明をしていた。 | |
| 一般(自然) | 4C | 応用数学 | 12月17日(水) | 2 | ・最初十分な前復習から、プロジェクターを用いた見やすい板書をされていた。 | ・声量は十分で、常に学生のノート書きのスピードを気にしながら進められていた。 | ・出席は読み上げ、雑談も交えてリラックスさせていた。 | ・理論から実用的な例に進展させて説明されていた。 ・低学年時にならったことも思い出させていた。 | ・分りにくい図についてはプリントがあった。 | ・簡単な演習問題を随時組み入れていた。 | ・主に前席の学生のノートを確認していた。 | ・プリント配布時なども細かく学生に話しかけておられた。 | ・フレンドリーなリラックス感が心がけておられるようで学生は集中して聴いていた。 ・AirPlayをうまく使って効果的な授業と見受けられた。 |
| 一般(自然) | 3C | 応用物理I | 12月16日(火) | 1 | 板書の字が見やすかった。欲を言うと、下側からもう10cm程度使っていない範囲を拡大できると後ろに座っている学生さんにも読みやすくなるかなと思えました。 | 教室の後ろでも十分に聞き取れる音量で、かつスピードもゆっくりにしてわかりやすかったです。 | 説明の必要なところで、以前の学習内容の知識の補充がなされていました。 | 授業プリントに沿った内容でした。 | 穴埋め式ではない授業プリントで授業を受けながら完成させればノートが不要で良いと思いました。 | | | NIには左側と斜線に線を加える2派は知っていたのですが、文字のOとNを用いたベクトルの表記法として右側に線を加えるのは新鮮でした。 | |
| 一般(自然) | 4B | 解析III | 12月12日(金) | 1 | プロジェクターと配布資料の対応が分かりやすい | 明るい声で楽しそうであった | | | プリントの配布 | | | | |
| 一般(自然) | 3B | 解析II | 12月15日(月) | 4 | | 大きく聞きやすい | | | | | | | |
| 一般(自然) | 3B | 応用物理I | 12月16日(火) | 2 | 板書がとても見やすい | 聞き取りやすい音量であった | これまでの学習内容との相違点を要約していた | | プリントの配布 | | | | |

| 授業担当者の 学科(教室) | ※ クラス名 | ※ 科目名 | ※ 月日 | ※ 限目 | 板書やプロジェクタ・O HPの使い方 | 教員の説明 (声の大きさ・スピード 等) | 授業の導入 (出席の取り方、前回 の復習等) | 授業の運営方法 | 教材や配布物 (小テスト・プリント) | 課題や演習の時間配 分 | 理解度の確認 | その他 | ■その他 |
|------------------|-----------|---------------------|-----------|---------|--|---|---|--|--|--|---|---|---|
| 一般(自然) | F3 | 基礎解析 A | 12月16日(火) | 1 | 黒板を用いず、ipadの 画面をプロジェクタで投 影されていた。また、そ の場で画面に描画し、 説明されていた。 | しっかりと聞き取れ、ちょ うどよいと思います。 | 最初、前回の最後に指 示した問題をの答え合 わせから。前回の内容 を復習できるので、うま く導入されていると思 います。 | プリントを併用し、演習 の時間も取りながら、 進めていた。学生が手 を動かしながら学習し ており、大変よいと思 います。 | 適切であると思いま す。 | 演習の時間をうまく当 てておられた。 | | | |
| 一般(自然) | 3C | 解析II | 12月11日(木) | 3 | ・プロジェクタを適宜使 用、使用しない時は引 き込めるので黒板が 広く使えていた。 | ・ゆっくりはっきり話し ていた。 | ・小テストの返却、解説 を10分間ほど、ポイン トを絞って、全解答を 示していた。 | ・小テスト関連で30分 、残り60分が本題な ので学生は集中しやす いのではないと思う。 | ・課題は解答付きで問 題数も少なめ、次回小 テストの範囲となるの でモチベーションは保 てるかと思う。 | ・10分程度で長すぎず 短すぎず。 | ・毎回の課題が理解を 助けていると思われる。 | | |
| 機械 | 2M | 機械工作 実習I | 12月16日(火) | 1 | 機械の使い方、危険な 行為などをその都度丁 寧に説明していた。 | 各実習場所に必ず1名 は教員・技術職員を配 置し、学生に考えさせ ながらわからない点を 丁寧に説明していた。 | メモをするように伝え、 前回の内容を思い出す ことを注意喚起してい た。 | グループをつくり、ロー テーションを組みなが ら、全員が同じ実習が できるように運営してい た。 | 機械の扱いなどが書 かれたテキストを配布 し、メモ用のスペースも 用意していた。 | 機械を扱う時間も、説 明の時間も十分に確保 していた。 | テキストの朗読やなぜ 間違っているのかを問 う工夫をしていた。 | | |
| 機械 | 3M | 材料力学 I | 12月12日(金) | 4 | 黒板をきれいにする意 義を話しておられた。 図を何度も描き直して いた。色チヨークを多用 していた。 | ゆっくりとした説明口調 で、授業が新しい単元 の導入部でもあるため、 体の動きやぞうきん の絞りを例に出して 説明していた。 | 出席を取りながら課題 を返却し、学生の状態 を確認かめていた。 | ポイントとなる事項に 入るまで、20分を掛 け、ゆっくり丁寧に 展開していた。 | | | その都度、学生に理解 を確認していた | 最初に教室の空気の 入れ替えをしていた | 図を見ながら、材料が どのように変形するの か「想像して欲しい」と 促していた。 |
| 機械 | 3M | 材料学II | 12月15日(月) | 3 | 自作スライドでポイント を絞ったレクチャーが 分かりやすい | 教室の後ろまでよく聞 こえるボリュームを出 していた | 前回の復習として、 キーワードをスライド に写して記憶を呼び覚 ましていた | キーポイントをまとめた 自作スライドで説明し、 それをノートの写す授 業で、進捗スピードを工 夫されていた | | | わざと穴埋めのスライ ドを用意して、自学す る工夫をされていた | | |
| 機械 | 3M | 機械工作 実習II | 12月18日(木) | 1 | 加工物をつくるための 製作手順を学生自ら考 えるよう指導しており、 実践力が身につくよう 支援していた。 | 学生が作成した図面を 基に、加工物の加工方 法を確認していた。 | 6つのグループにわけ て、各部品ごとに役割 分担をしていた。 | | | | 学生はグループ内で ディスカッションをし ながら、お互いの理解 を高められるように取 組んでいた。 | | |
| 機械 | 2M | 機械工作 法I | 12月16日(火) | 4 | ・スライドの構成がわか りやすかった。 | ・声が明瞭で聞きやす かった。 | | ・ノートをとる時間を十 分にとっていた。 | | | | | |
| 機械 | 4M | 熱力学 | 12月12日(金) | 2 | 全てppt・プロジェクタ による講義(見学の範囲 では板書の使用なし) | 穏やかな語り口 スライドに合わせた説 明 | 座席表による出欠確認 続いて、前回演習課題 の解説(全12問) | 左記に続き、本日の授 業内容(10:52~11:05) テキスト例題演習 (11:05~11:15) 次のトピックス(11:15 ~) | Teamsによりスライド動 画を配信、学生は事前 に講義ノートを作成 事後に、Formsによる 演習課題配信(概ね毎 回) | 良好かと思えます | Formsを用いた演習結 果による確認 講義ノートの定期試験 答案の回収後、提出さ れば加点 | pptの活用方法に関し、 参考になった 事前準備は大家かと思 われる | 一度教材を作成すれば、 次の年度からはその改 訂程度で済む 板書を全く使用しない ことに驚いた |
| 機械 | 3M | 材料学II | 12月15日(月) | 3 | プロジェクタと配布資 料の対応が分かりやす い | 聞き取りやすい声量で あった | | | プリントの配布 | | | | |
| 電気電子 | 5E | 電気回路 IV | 12月15日(月) | 2 | ・黒板を4つのスペース に区切って用いていた | ・聞き取りやすいよう ゆっくり話していた | ・採点した小テストの返 却から始めていた | ・希望する学生が前へ 出て、板書を行い小テ スト問題の解説を行う | ・小テスト | ・小テスト解説に多く の時間を割いていた | ・毎小テストを与え、 提出させ、採点して返 却している | | |
| 電気電子 | 3E | 電気回路 II | 12月12日(金) | 2 | 教科書に沿ってまと めた資料を使用してい た。 | | | | | | 授業を録音して見返 せるようになっていた。 | | |
| 電気電子 | 4E | 情報通信 工学I | 12月11日(木) | 2 | ・プロジェクタの文字が 小さく後部からは見づ らい。 ・板書の文字が薄く、光 で反射して見づらい。 | ・ゆっくり話をされてい た。 | | 学生プレゼンを取り入 れているのが良い。 | | | | ・3人の学生プレゼン(5 分/一人)が非常に面白 い | ・毎回の授業の冒頭で、 情報通信に関する最新 技術に関して、学生自 ら調査、プレゼンを行 っている。 |
| 電気電子 | 5E | パワーエ レクトロ ニクス | 12月11日(木) | 3 | ・プロジェクタの画面設 定をパワボ、ブラウザ によって調整し、見や すく映っていた。 | | | 前半は座学や例題を 交えながら進めて、後 半に演習を行うような 組み立てで流れがスム ーズ | | | | | |
| 電気電子 | 2E | 電気回路 演習 | 12月17日(水) | 2 | ・黒板を何分割かして、 板書を進めておりノート が取りやすそうであ った。 | | | ・基本的には演習の解 説がメインであったが、 必要に応じて用語など の説明を入れており理 解しやすかった。 | | | | | |
| 電子情報 | F1 | 専門基礎 I | 12月19日(金) | 2 | 学生が大画面と小画面 で確認できる工夫がな されていた。 | 大きくないが、大きくな いからこそ、学生集中 して聞いているように思 われる。 | 出欠確認 前回の復習を視覚的に 確認。 | 講義を行った後、演 習、ポイント学生から 引き出す工夫がなされ ていた。 個別の質問を全体に シェアしていた。 | | | 二人体制で演習の理 解度を確認していた。 | 学生は教わるというよ うに自分で手を動かす ことで学びを深めてい た。 | ホワイトボードで説明 をしていたが、一部み えない学生がいた。柱 があるため教員が、こ のような状況は今後も 考えられるため、自分 の授業だったらどのよ うな工夫ができるか考 えるきっかけになった。 |
| 電子情報 | 2EI | プログラ ミング基 礎 | 12月16日(火) | 4 | Team経由で教員PCの 様子を配信して、スク リーンが見えない学生 に配慮していた | | | | | | ・机間巡視を行って学 生の状況を確認してい た。 | 技術職員との連携が うまくとれていた。 | |
| 電子情報 | 3EI | 電気磁気 学I | 12月23日(水) | 2 | プロジェクタと黒板を うまく使われていた。 | 後ろまで声が聞こえ やすく届いていた | 概要を先にスライドで 示しながら、詳しくは 黒板で書くというスタ イルがわかりやすかつ た。 | | | | | | |
| 電子情報 | 2EI | プログラ ミング基 礎 | 12月16日(火) | 4 | ・講義の投影資料とリ アルタイムの実演を合 わせて説明しており、 分かりやすかった。 | ・情報処理センターの 演習室内の奥まで届 く声で講義していた。 | | ・「デザイン思考」の 概念を取り入れた演習 を行っていて、デザイ ンマインドが育まれる と感じた。 | | | デザインマインドの実 践を兼ねた演習課題を 出題し、学生の理解が 進むように構築され ていた。 | 講義中に寝ている学 生がいた場合、演習時 間に巡回して、いま やるべきことを補足説 明し、進度調整してい てよかった。 | |
| 物質 | 2C | 物質工学 実験I | 12月15日(月) | 4 | 実験器具の扱い方を 丁寧に教えていた。 | 実験や実験結果のまと めをしているグルー プを巡回し、丁寧に説 明していた。 | | グループをつくり、ロー テーションを組みなが ら、全員が同じ実験が できるように運営してい た。 | 実験方法などが書かれ たテキストと、結果を まとめるノートを配布 していた。 | 実験時間と実験をま とめる時間をしっかりと 確保していた。 | 2人ないし3人1組の ペアをつくるが、全員 が説明できるまでレポ ートに合格点を与えな いようにしていた。そ のため、協力して書き 上げて、単に写すだけ でなく、適切に理解で きるような工夫がな されていた。 | 各グループを巡回し て丁寧に説明を していたが、実験その ものは、学生が自分 たちでできるように必 最低限の手助けがあ った。 | |
| 物質 | 3C | 生物化学 実験 | 12月15日(月) | 3 | | 声が大きくわかりやす い | | | 実験項目ごとの資料 があり非常にわかり やすい | | | | |
| 物質 | 3C | 化学工学 I | 12月17日(水) | 3 | 学生のレベルを考慮 した上で、途中式など を調整して書いていた | ゆっくりでわかりやす かった | 前半に前回の復習を 取り入れていた | | | 後半30分は演習 プリントに取り組み 時間としていた | 説明した後、すぐ例 題に取り組みさせ、 机間巡視の様子を 確認していた | 参考になった | |
| 物質 | 3C | 生化学I | 12月18日(木) | 2 | 板書への記載が中心 で、教科書の対応ペ ージを示していた | ゆっくりと語りかけ、 反復させていた | | 導入部分だったため、 解説が中心 | DNAの模型を準備 していた | | | | |
| 物質 | F1 | 専門基礎 II | 12月10日(木) | 3 | プロジェクタを使用 しており、学生が見 やすく、学生が理解 しやすい。 | よく聞こえる声で授 業を行っていた。 | 授業の導入時に内容 を説明していた。 | 丁寧に、順番に、説 明していた。 | | | 学生の進み具合を見 ながら(確認しながら)、 授業を進めていた。 | | |
| 環境都市 | 5B | 数値解析 | 12月17日(水) | 2 | 配付プリントをプロ ジェクタに写して説明 していた。 部分的に足りないこ ろを板書を用いて説 明していた。 | 分かりやすい声のト ーンではっきりと話し ていた。 | | スライドと配付 プリントを用いて運 営していた。 BYODを利用し、 コンピュータ上で解 析を行っていた。 | 解析方法や条件を示 したプリントを配布 していた。 | 前半、30分ほど課 題の条件やこれまでの 復習を実施し、その 後各自解析に取り 組む形をとっていた。 | 学生に解析条件につ いて正しいか間違 っているかを確認さ せて、理解度を確認 していた。 | | |
| 環境都市 | 4B | 設計製図 II | 12月12日(金) | 2 | プロジェクタを利用 しての特別講演 | 声が良く通る | 出席をとっている間 に学生はパソコンを 準備できるようにし ている | パソコン持参でCAD を操作しながら演 習 | | | 設計製図であるので 成果の確認しやすい | 建築士の雰囲気は伝 わる | 卒業生ということも あり、学生のことを よく理解している |

| 授業担当者の 学科(教室) | ※ クラス名 | ※ 科目名 | ※ 月日 | ※ 限目 | 板書やプロジェクタ・O HPの使い方 | 教員の説明 (声の大きさ・スピード 等) | 授業の導入 (出席の取り方、前回 の復習等) | 授業の運営方法 | 教材や配布物 (小テスト・プリント) | 課題や演習の時間配 分 | 理解度の確認 | その他 | ■その他 |
|------------------|-----------|-----------------------|-----------|---------|--|---|---|--|--|---------------------|--------------------------------------|-----|------|
| 環境都市 | 5B | 建築環境 II | 12月19日(金) | 1 | スライドを用いた授業であつた。基本的に教室後方からも見えるが濃い紫系のハッチング内の黒文字が後方からは見えなかつた。 | 教室の後方からでも充分に聞き取れる大ききさで話をされていた。丁寧な言葉遣いが印象に残つた。 | 出欠のシステムを用いて出欠確認されていた。音の性質についての復習をされていた。 | 音の周波数や伝わり方、音響・防音、音色等について具体例(ギター・エアコンの室外機)等を挙げてイメージを持たせていた。 | とくに資料配布は無かつた。 | | とくに理解度を確認してはいなかつたが、学生も聞きながら説明を聞いていた。 | | |
| 環境都市 | 4B | 構造力学 III | 12月16日(火) | 4 | プロジェクタを使用 | スライドをノートに転記させる時間を十分にとっている。 | 講義の導入で、前回までの授業内容の振り返り | 解析手法の理論と解法をスライドに図解して説明 | スライドに教科書の講義内容記載ページを示して、教科書と連携の取れた学習を実施 | 学生の状況を見ながら適切に配分していた | Homeworkによる理解度の確認 | | |
| 環境都市 | 5B | 建築法規 | 12月11日(木) | 3 | プロジェクタ使用文字見やすい。 | ・後方までしっかりと声が届いていた。 | | | 予習のプリント提出回収されていた。 | | ・授業の最後に課題を与えていた。 | | |
| 環境都市 | 4B | 建築計画 II | 12月12日(金) | 2 | プロジェクタ使用表示の図が少し小さく感じた。 | 丁寧に説明されていた。 | | ・説明と演習のバランス良い。 | | 演習時間が少し足りない。 | ・授業の最後に課題を与えていた。 | | |
| 環境都市 | 4B | 環境都市 工学設計 製図III | 12月15日(月) | 3 | ホワイトボードに図示しての説明わかりやすい。 | 丁寧に説明されていた。 | 振り返りと予定説明があつた。 | ・説明と演習のバランス良い。 | | | ・授業終了後も質問者対応されていた。 | | |

FD 研修会

令和7年度FD研修会（授業改善に向けた成績評価の取組み）

日時：令和7年9月10日（水） 16：20～17：30 大講義室

参加者：教職員 48名（校長含む）

講師：芳賀教務主事、米田創造教育開発センター長

内容：「授業改善に向けた成績評価の取組み」と題してまず、芳賀教務主事から成績評価の適正化に向けて概要説明があり、続いて米田創造教育センター長から成績評価の関する注意点や試験問題の取扱い等、組織的チェックを達成するために今回修正した授業点検シート、授業担当者の手引きの変更の理由、今後の点検方法について説明があった。

これを受けて、参加者からは具体的な重点点検対象科目や Web シラバスへの記載方法について質問があり、成績評価の組織的チェックを強化することで授業の改善に繋がることを確認した。

<FD研修会開催通知>

【9/10(水)教員会議終了後】

令和7年度FD研修会（授業改善に向けた成績評価の取組み）の開催について

令和7年9月4日

教員 各位

教務主事
創造教育開発センター長

令和7年度FD研修会（授業改善に向けた成績評価の取組み）の開催について

このことについて下記のとおり開催しますので参加願います。

記

内容：授業改善に向けた成績評価の取組みについて

次年度の機関別認証評価受審に対応するため、授業改善に向けた成績評価の取組みについてあらためて理解を深めていただきます。Web シラバス上の記載内容、出席点、端数処理等の成績評価に関する具体的な注意点に加え、今回、修正した授業点検シートを活用しつつ、卒業・進級判定会議の前には成績評価が適切に行われているか組織的なチェックを可能とすることを目的とした手順（担当教員、確認教員、センター員、教務委員会等の役割分担）の考え方について説明します。

日時：令和7年9月10日（水）教員会議終了後すぐに開催します。

開催場所：大講義室

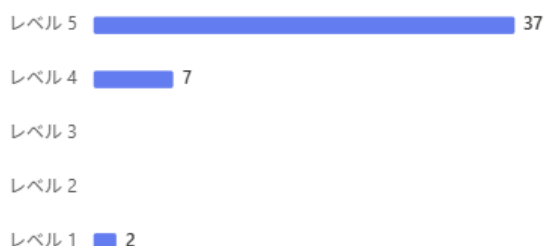
対象者：全教員



終了後アンケート（回答者 46 名）9/11 13:00 時点

1. 研修の内容は理解できましたか

[詳細情報](#)



2. 研修は参考になりましたか

[詳細情報](#)



全体を通してご意見があればおきかせください。

- 頑張りたいと思います。
- 作業していて分からないところが出てきたら質問します。
- 学生の個性に合わせた教育から乖離していく傾向がある。
- 自分が理解している内容と研修の内容を照らし合わせて確認ができたのがよかった。
- 今後の参考になるポイントが多くありました。ありがとうございました。
- 採点基準でガチガチに縛るのなら、マークシートで、1か0の採点にしたのと同じ結果になると思いました。
- 「成績の偏り」についてお話がありました。「偏り」と判断する客観的な基準があれば教えていただきたいです。
- 着任初年度ということもあり、評価方法の具体性を理解するよい機会となりました。自身の担当する科目における評価方法やシラバス記載の注意を改めて認識し、教育方法改善に繋がりたいと考えております。
- わかりやすい説明ありがとうございました。

令和7年度FD研修会（福井高専ジュニアドクター育成塾5年間の軌跡）

日 時：令和7年12月17日(水) 16:05～16:50

参加者：校長含む33名

説明者：電子情報工学科 准教授 小松 貴大

内 容：以下、開催通知記載のとおり。現在のジュニアドクターの経験を活かし、さらに各学科が協力してプログラムのバージョンアップを目指しているとのこと、そのために各学科から1名ずつ若手教員を集めたワーキンググループを立ち上げ、ジュニアドクターの後継プロジェクトであるSTELLAへの応募を検討中とのこと、令和7年度までに福井高専ジュニアドクター育成塾に関連した小中学生28名が福井高専に入学していることが報告された。また、入学した学生がガリレオコンテストやガリレオの卵コンテストにチャレンジしているとの報告もあった。最後に校長からは参加者がガリレオの卵コンテスト、ガリレオコンテスト、ビジネスアイデアコンテスト等を通して核になる人材に育てて欲しい、との講評があった。



<FD 研修会開催通知>

令和 7 年 12 月 10 日

教員 各位

総務・企画主事
創造教育開発センター長

令和 7 年度 F D 研修会（福井高専ジュニアドクター育成塾 5 年間の軌跡）の開催について
このことについて下記のとおり開催しますので参加願います。

記

内 容：福井高専ジュニアドクター育成塾 5 年間の軌跡

ジュニアドクターとは何なのか？福井高専が応募するきっかけとなったことから採択までの流れ、採択後の波及効果（地域貢献・受講生の本校受験等入試への影響その他）についてあらためて情報を共有し、理解していただくことを目的に説明します。

説明者：電子情報工学科 准教授 小松 貴大

日 時：令和 7 年 12 月 17 日(水) 教員会議終了後すぐに開催します。

開催場所：大講義室

対象者：全教員

その他：終了後、理解度及び満足度に関するアンケートにご協力をお願いします。

<https://forms.office.com/r/mAgthbOmWj>



終了後のアンケート結果（回答者 14 名）



全体を通してご意見があればおきかせください

○大変参考になる歯切れの良い御発表でした。小松先生の様々な御苦勞をお聴きし、改めて深く敬意を表します。小松先生と事務部御担当各位には重ねて深く感謝しております。本当にお疲れ様でございます。私が従事したのは講座企画提供のみでしたが、非常に充実した業務でした。

○Renew とのコラボを知らなかったなので、面白かったです。

○背景を知ることができてたいへん参考になりました。ご苦勞多かったです。

○小松先生のような先生方が未来の科学者を作っているんだと改めて思いました。今後も引き続き彼らを育てる場が高専にあればいいなと思います。

参加者が減っている現状には宣伝や有期というのものもあるかもしれませんが、地理的な問題もあるかもしれないと思いました。

○他でも問題になってますが、小中学生にどのように知らせるかが難しいと思います。

あまりたくさん来てもダメなので、申請書に電車やバスへの広告費など計上できないのでしょうか。

令和7年度新任教員研修会

日 時 令和8年3月17日(火) 11:00~12:00

場 所 地域連携セミナー室

出席者 米田センター長、小松 (E)、木下 (EI)、塚口 (B)、小玉 (B)、出口 (一般)

議題

1. 着任後の状況報告

- メンターのサポートにより、授業や公務の準備は順調に進んでいる
- 相談できる環境が整っていたことが大きかった
- 卒業生として学校には馴染みがあったが、教員としての準備と研究の時間配分に課題を感じた
- 常勤教員の退職に伴い、1年目で通年6科目を担当することになった
- 相談室員としての業務もあったが、前職の人事経験が活きた
- 学生の悩みの多様化を実感
- 教員の経験がなく、低学年の授業の進め方が最初は分からなかった
- メンターや他の先生方の授業見学を通じて、徐々に授業を合わせられるようになってきた
- 建築分野の不足している専門分野での採用
- 引き継ぎ資料が不足しており、手探りの状態が続いている
- 担当科目が通年で約10科目と平均より多い
- 学生との接触がまだ少ないため、授業を通じて自分の経験を伝える機会と捉えている
- シラバスや評価の仕組みについては、ある程度の自由度を期待

2. メンター制度とサポート体制

- - 1年目と2年目の教員にはメンター教員が配置される制度がある
- - 高専は個室制のため、他の教員の仕事の様子が見えにくい環境
- - 若手教員は積極的に先輩教員の仕事の仕方を学ぶ必要がある
- - 米田センター長からメンター制度について確認するよう提案

3. 授業準備のヒント

利用可能な教材・リソース

- - 工業高校の教科書は2~4年生向けの授業で活用できる
- - 指導用教材にはパワーポイント資料や動画が付属していることが多い
- - 大学の教科書にも教員向けの補助資料が提供されている場合がある
- - 高専機構のCBT (Computer Based Training) のドリル版が今年度から利用可能

引き継ぎ資料について

- - 1年目の授業準備は特に大変
- - ベテラン教員ほど引き継ぎ資料がない場合がある
- - 教員によって資料の整備状況に大きな差がある

4. 学生とのコミュニケーション

授業中の工夫

- - 自分の仕事経験や専門分野の話を学生に共有すると、学生の関心を引くことができる
- - 温泉、お酒、アイドル、競馬など、教員の個人的な趣味の話も親近感を持ってもらえる
- - 研修旅行の際のアドバイスなど、実用的な情報も喜ばれる

最近の学生の傾向

- - コミュニケーションが苦手な学生が増えている
- - Teamsなどででのやり取りが増え、直接話す機会が減少
- - 対教員だけでなく、学生同士のコミュニケーションも課題
- - 就職時にコミュニケーション能力がネックになるケースもあり、早めの指導が必要

5. 担任業務について

保護者対応のアドバイス

- - 心配な保護者対応の際は、主任やベテラン教員に同席してもらうことを推奨
- - 若手教員と経験豊富な教員では、同じ内容を伝えても保護者の受け止め方が異なる場合がある
- - 副担任や他の教員のサポートを積極的に活用すべき

主事団での活動

- - 主事団の会議は大体毎週開催される
- - 他学科の教員と交流し、学校全体の仕組みを理解する良い機会
- - 担任業務には学校全体の理解が必要

6. 教育・研究・校務のバランス

福井高専の特徴

- - 他の高専と比べてかなりきちんとしている
- - 教員は学生対応に熱心で、頑張りすぎる傾向がある
- - 認証評価など外部評価への対応で、以前より厳格な運営が求められている

バランスの見つけ方

- - 米田センター長自身、バランスを見つけるのに10~15年かかった
- - 研究テーマの確立にも時間がかかった
- - 着任数年間は準備に時間がかかるが、徐々に自分の軸を見つけることが重要

- - すべてを 100%でやると潰れるので、うまく手を抜くことも必要

7. ### 卒業研究の指導

テーマ設定

- - 理想は学生が主体的にテーマを設定することだが、実際には難しい
- - 学生は学術研究について知識がないため、適切なテーマを提案できないことが多い
- - 全員が学会発表レベルの研究をするわけではなく、1~2人程度
- - 残りの学生は学生実験レベルだが、研究プロセスを経験させることを重視

8. 指導のアプローチ

- - 最初の3ヶ月は基礎知識やツールの使い方を集中的に指導
- - 夏休み前から学生主体の作業に移行
- - 月1~2回の発表で進捗を確認し、方向性を修正
- - 厳しく指摘することもあるが、学生との信頼関係が重要

事例紹介

- - 1年目に2人の学生を受け持ち、夏休みまでは基礎知識（統計学など）の指導に集中
- - 週1回の課題を出し、学校に来ない時間を作らないよう工夫
- - 2年目は学生が自分でテーマを提案してくるケースも

学生のモチベーション維持

- - 4月からこまめに研究室を訪問することが重要
- - 週1回のゼミやディスカッションの時間を設定
- - 研究室合宿を実施している教員もいる

9. ### AI活用について

授業・研究での活用例

- - 画像編集でパース図を手書き風に変換
- - 文字起こし（古文書など歴史資料の解読）
- - 論文検索や手書きメモのデジタル化

事務作業での活用

- - 会議の議事録作成（録音からの自動作成）
- - メール文面の作成支援
- - エントリーシートや推薦書の添削サポート
- - 授業内容から選択問題の自動生成
- - 学生便覧などの資料を AI に読み込ませて質問対応

注意点

- - 学校としてはグレーな部分もある
- - 個人情報を含む場合は Microsoft 365 の Copilot を使用するのが安全

- - Google の Notebook LM も登録した情報のみを参照するため比較的安全
学生面談での活用

- - 面談を録音し、内容を要約して学生と共有
- - アクションプランを明確化し、誤解を防ぐ

10. その他

- - 来週、教員向けの生成 AI 活用 FD が開催予定
- - 何か困ったことがあれば、いつでも個別に相談可能
- - 多くの教員とコミュニケーションを取ることが最も効果的

令和7年度FD研修会（生成AIに関する研修会）

日 時：令和8年3月24日(火) 14:00~15:40

参加者：教職員34名（教育支援センター技術職員5名含む）

講 師：株式会社ヨネヤマ Bridge Works（情報システムチームリーダー）
兼 新基幹システム開発プロジェクトマネージャー 石川 紗莉 氏

内 容：センター長からの挨拶のあと、講師から海外（海外の大学、企業）でのAI使用に関する実情、評価方法について、評価は成果物から思考プロセスへ移っていることについて説明があった。その後、日本におけるAI活用の課題として求められるスキルが変化しているとし、評価はアウトプットでなく判断、どう考えたかを評価するため「何を書いたか」ではなく「どう判断したか」を評価する課題設計が重要であるとのことであった。研修会終盤には、個人ワークから参加者がペアを組んでワーク内容についてディスカッションを行い、最後に講師からのまとめの説明の後、質疑応答を通してAI時代の教育についての理解を深めることができた。



<FD 研修会開催通知>

【題名】【3/24（火） 14:00】

生成 AI に関する研修会の開催について

令和8年3月3日

教職員 各位

教務主事
造教育開発センター長

生成 AI に関する研修会の開催について

今回のFD研修では、まず昨年10月に実施した生成AIに利用に関するアンケートで明らかとなった課題意識を受けて、生成AI時代において、教員がどのような判断基準を持ち、それを学生にどう説明・指導すべきかを整理します。

それをふまえて生成AIの使い方ではなく、生成AIを前提とした教育・研究・評価をどう設計するかを、教員自身が判断できるようになるためミニワークを含めたFD研修を実施します。全教員(職員も参加可)を対象として開催しますので、ご多忙とは存じますがなるべく多くの先生方の参加をお願いいたします。

日時・場所：令和8年3月24日（火） 14:00～15:10(予定) 大講義室

講師：

株式会社ヨネヤマ Bridge Works (情報システムチームリーダー)
兼 新基幹システム開発プロジェクトマネージャー 石川 紗莉 氏

講演タイトル：

生成AI時代に「教える側」は何を判断すべきか
— 高専教育における生成AI活用の線引きと設計 —

準備物：可能な限りMicrosoft365にログイン可能なPCをご持参ください。
(生成AIの使い方講座ではありませんので、必須ではありません。)

その他：終了後、理解度及び満足度等に関するアンケートを実施しますので
ご協力をお願いします。

<https://forms.office.com/r/vFqzBNPkZ2>

<終了後のアンケート結果は後日、講師側から提供予定>

令和7年度FD研修会（生成AIに関する研修会）アンケート結果

※アンケート項目は講師が作成、一部不具合のあった設問は外して集計した。

【回答概要】

- アンケート回答数：26名
- 主な所属：機械工学科，電気電子工学科，物質工学科，環境都市工学科，一般科目教室ほか

【研修全体の満足度】

- 満足：16名
 - 非常に満足：8名
 - どちらとも言えない：2名
- 満足・非常に満足が大多数を占め、全体として高い評価が得られた。

【特に有用と感じられた内容（複数回答）】

- 学生への指導・評価の考え方：19名
- 課題設計に関する内容：15名
- 高等教育機関における活用事例：8名
- ワークショップ形式の取り組み：7名
- 生成AIの現状および今後の展開：6名
- 具体的な評価基準の話が非常に参考になった：1名

【活用が想定される場面（複数回答）】

- 結局は、生成AIを使うことに関する責任に自覚、だと思いました。：1名
- 課題（の文章）を工夫する、としても、やはり生成AIが作成した文章のコピペであるのか、学生自身が考えた（思考のプロセス）文章であるのか、最終の判断は成果物のみでは難しい、と感じました。：1名
- AIのサブスクの料金を高専機構が負担してくれない。：1名
- 学生への導入教育の内容検討と実施案作成：1名

【導入にあたっての主な意見・課題（自由記述要約）】

- 学生の思考プロセスが見えにくくなることへの懸念
- AI生成物と学生自身の成果の判別の難しさ
- 評価基準（課題文・ルーブリック等）の工夫の必要性
- 生成AI利用に関する責任・倫理教育、および費用面の課題

【導入にあたり懸念される点や課題がございましたらご記入ください（自由記述）】

結局は、生成 AI を使うことに関する責任に自覚、だと思いました。
課題（の文章）を工夫する、としても、やはり生成 AI が作成した文章のコピペであるのか、学生自身が考えた（思考のプロセス）文章であるのか、最終の判断は成果物のみでは難しい、と感じました。
AI のサブスクの料金を高専機構が負担してくれない、
学生への導入教育の内容検討と実施案作成

【今後の研修内容として期待されるテーマがございましたらご記入ください（自由記述）】

評価方法事例の研究
生成 AI の活用の具体例
具体的な活用方法と、学生に対して身につけさせるために行う授業方法など、答えはないかも知れませんが、興味はあります。
無料 AI と課金 AI の出力差
本校に導入可能な具体的な校務や教育での実践例

【本研修全体に関するご意見・ご感想がございましたらご記入ください（自由記述）】

判断できる力を育てるとするのは誰当たり前だが大事だと思いました。ありがとうございました。

【総括】

本研修は、生成 AI を単なるツールとしてではなく、教育・評価設計の観点から捉え直す内容であり、多くの教職員から高い評価を得た。今後は、具体的な活用事例や評価方法を共有しつつ、校内としての方針やルールを整理した上で、段階的な活用を進めていくことが重要である。

教員間ネットワーク会議

令和7年度教員間ネットワーク会議 出席者提出表 (赤字が座長)

| | (学科長確認) | (学科長確認) | (学科長確認) | (学科長確認) | (学科長確認) | (学科長確認) | (学科長確認) | (学科長確認) | (学科長確認) |
|--|-------------------------|---------------------|------------------------|----------------------|-----------------------|----------------------|---|--------------------|----------------------------|
| 所属学科・教室名 会議番号1, 2-3, 3, 4は、右記の WG・打合せ会議で 変わる | 1.社会及び技術者倫理に関するネットワーク会議 | 2-1.数学に関するネットワーク会議 | 2-2.物理に関するネットワーク会議 | 2-3.情報処理に関するネットワーク会議 | 3.専門・複合科目に関するネットワーク会議 | 4.デザイン教育に関するネットワーク会議 | 5.コミュニケーション教育に関するネットワーク会議 *プレゼンテーション教育を含む | 6.卒業研究に関するネットワーク会議 | 7.学科改組に伴う情報系科目に関するネットワーク会議 |
| | 工学倫理WG | | | 数理・データサイエンス・AI WG | 学際科目担当者打合せ | プロジェクト演習打合せ | | | |
| 座長 | 米田 | 高橋 | 福嶋 | 米田 | 高久 | 松野 | 青木 | 高橋 | 千徳 |
| 一般科目教室 (当該教科・科目) | 中谷内・出口 (社会) | 井之上・柳原 (数学・応用数学) | 長谷川・挽野・土田 (物理・応用物理) | 長水・相場 | | | 市村・木下 (英語・国語) | | |
| 機械工学科 | 金田 | 村中 | 林田 | 亀山 | 芳賀・亀山 | 亀山・橋本 | 藤田 | 高橋 | 千徳 |
| 電気電子工学科 | 米田・小松 | 荒川 | 松浦 | 米田・丸山 | 米田・堀川・佐藤 | 丸山・西城 | 濱住 | 荒川 | 松浦 |
| 電子情報工学科 | 青山 | 西 | 川上 | 西・川上 | 斉藤・西・高久 | 青山・堀井 | 小越 | 青山 | 小越 |
| 物質工学科 | 古谷 | 野元 | 西野 | 佐々 | 山脇・佐々・高山 | 松野・坂元 | 松井 | 松野 | 坂元 |
| 環境都市工学科 | 田安 | 蓑輪 | 蓑輪 | 辻子 | 樋口・辻野・津野 | 田安 | 吉田 | 樋口 | 辻子 |

*学際科目担当者 *プロジェクト演習担当者

(参考) 令和6年度教員間ネットワーク会議 出席者提出表 (赤字が座長)

| | (学科長確認) | (学科長確認) | (学科長確認) | (学科長確認) | (学科長確認) | (学科長確認) | (学科長確認) | (学科長確認) |
|--|-------------------------|---------------------|---------------------|----------------------|-----------------------|----------------------|---|---------|
| 所属学科・教室名 会議番号1, 2-3, 3, 4は、右記の WG・打合せ会議で 変わる | 1.社会及び技術者倫理に関するネットワーク会議 | 2-1.数学に関するネットワーク会議 | 2-2.物理に関するネットワーク会議 | 2-3.情報処理に関するネットワーク会議 | 3.専門・複合科目に関するネットワーク会議 | 4.デザイン教育に関するネットワーク会議 | 5.コミュニケーション教育に関するネットワーク会議 *プレゼンテーション教育を含む | |
| | 工学倫理WG | | | 数理・データサイエンス・AI WG | 学際科目担当者打合せ | プロジェクト演習打合せ | | |
| 座長 | 米田 | 千徳 | 高久 | 米田 | 山脇 | 西城 | 青木 | |
| 一般科目教室 (当該教科・科目) | 川畑・中谷内 (社会) | 柳原・井之上 (数学・応用数学) | 長谷川・土田 (物理・応用物理) | 相場・長水 | | 長水 | 宮本・大谷 (英語・国語) | |
| 機械工学科 | 金田 | 千徳 | 村中 | 亀山 | 芳賀・亀山 | 藤田・亀山 | 高橋 | |
| 電気電子工学科 | 米田 | 荒川 (電気数学担当者) | 福嶋 (強電科目担当者) | 米田 ・丸山 | 米田・堀川・佐藤 | 丸山・西城 | 濱住 (専攻科演習担当者) | |
| 電子情報工学科 | 青山 | 波多 | 高久 | 西 | 斉藤・西・高久 | 青山・堀井 | 小越 | |
| 物質工学科 | 古谷 | 西野 | 野元 | 佐々 | 山脇 ・佐々・高山 | 松野・坂元 | 川村 | |
| 環境都市工学科 | 大和 | 蓑輪 | 辻子 | 大和→ 蓑輪 | 樋口・辻野・津野 | 田安・芹川 | 吉田 | |

*学際科目担当者 *プロジェクト演習担当者

(参考) 令和5年度教員間ネットワーク会議 出席者提出表 (赤字が座長)

| | (学科長確認) | (学科長確認) | (学科長確認) | (学科長確認) | (学科長確認) | (学科長確認) | (学科長確認) |
|--|-------------------------|--------------------|--------------------------------|----------------------|-----------------------|----------------------|---|
| 所属学科・教室名 会議番号1, 2-3, 3, 4は、右記の WG・打合せ会議で 変わる | 1.社会及び技術者倫理に関するネットワーク会議 | 2-1.数学に関するネットワーク会議 | 2-2.物理に関するネットワーク会議 | 2-3.情報処理に関するネットワーク会議 | 3.専門・複合科目に関するネットワーク会議 | 4.デザイン教育に関するネットワーク会議 | 5.コミュニケーション教育に関するネットワーク会議 *プレゼンテーション教育を含む |
| | 工学倫理WG | | | 数理・データサイエンス・AI WG | 学際科目担当者打合せ | プロジェクト演習打合せ | |
| 座長 | 米田 | 千徳 | 挽野 | 亀山 | 山脇 | 亀山 | 野々村・西城 |
| 一般科目教室 (当該教科・科目) | 木村・中谷内・川畑 (社会) | 柳原・中谷 (数学・応用数学) | 挽野 ・長谷川・土田 (物理・応用物理) | 相場・長水 | | 長水 | 木下 (英語・国語) |
| 機械工学科 | 金田 | 千徳 | 村中 | 亀山 | 加藤・芳賀・亀山 | 藤田・ 亀山 | 高橋 |
| 電気電子工学科 | 米田 | 荒川 (電気数学担当) | 秋山 (強電系科目担当) | 米田・丸山 | 山本・米田・佐藤 | 秋山・西城 | 福嶋・ 西城 (工学演習担当) |
| 電子情報工学科 | 青山 | 波多 | 堀井 | 川上・西 | 斉藤・高久・西 | 青山・川上 | 小越 |
| 物質工学科 | 古谷 | 川村 | 西野 | 佐々 | 高山・ 山脇 ・佐々 | 川村・松野 | 後反・松井 |
| 環境都市工学科 | 大和 | 蓑輪 | 辻野 | 大和 | 樋口・辻野・奥村 | 奥村・芹川 | 野々村 ・吉田 |

*学際科目担当者 *プロジェクト演習担当者

各種アンケート

令和7年度前期授業評価アンケートの実施について

教務に関する申合せ「授業評価アンケート実施等に関する事項」に基づき、Microsoft Forms を利用して実施する。

1 目的

FD 活動の一環として、より良い教育を提供するために、教育改善及び教育環境改善に利用することを目的として実施する。集約した授業評価アンケート結果は各科目の授業点検シートに反映し、授業内容の改善につなげることとし、加えてアンケート結果を教学 IR における基礎データとして活用することで、本校全体のより質の高い教育改善及び教育環境改善を行うこと目指すものとする。

2 実施期間 令和7年7月15日（火）～7月29日（火）

【14週目から15週目（前期期末試験前）】

3 実施方法 学科及び専攻科ごとに授業評価アンケートを作成し、所属学生には創造教育開発センター員（専攻科生は教務係）が周知し、回答を依頼する。

4 質問項目

- この授業の内容や進度はシラバスに書かれている通りだった
- 教員の説明は分かりやすかった
- 演習問題、課題、レポート、小テスト等に無理なく取り組むことができた
- 授業の内容に興味を持つことができ、理解を深めることができた
- この授業に意欲的に取り組んだ
- この授業を受けることによって、学力の向上を実感できた
- （科目名）の授業の良かった点、また改善すべき点などありましたら、具体的、建設的に書いてください【自由記述】

5 集計結果について

1) 教務係にて下図のとおり分類し、通知する。

| | 通知先 |
|-------------|-----|
| 専門科目 | 学科長 |
| 専門基礎科目（1年生） | 学科長 |

| | |
|---------------|------------|
| 一般科目 | 一般科目教室主任 |
| (専攻科) 一般・専門科目 | 専攻科長 |
| 学際科目 | (該当する) 学科長 |

※学生の回答は無記名式として、学生の個人データは集計結果に含めない。

- 2-1) 各学科長、一般教育科目主任、専攻科長（以下「各学科長等」）から科目担当教員へデータ又は紙面で通知する。
 - ①コメント欄等には原則加工を加えない
 - ②学科長等の判断において、科目担当教員ごとの通知とせず、構成員全体（一般科目は教科ごと）へ周知することも可能
- 2-2) コメント欄を削除した集計結果をガルーンに掲載する。
- 2-3) HP では全科目の集計データを公表する。

6 アンケート実施にあたっての留意事項

- 1) Forms のフォーマットは各センター員が所属学科分を作成する。
専攻科に関しては教務係が作成する。
- 2) 集計後、分類することを念頭に、一般科目→専門科目→自学科の学際領域科目群→他学科の学際領域科目群の順番に作成する。
- 3) 専攻科1年生の工学実験 I 及び工学演習 I は各系に分けて作成する。

7 その他

- 1) 委員会
本会議にて実施及び運用方針を審議、決定し、教務委員会にて報告する。
- 2) データの取扱い
授業評価アンケート結果の集計処理・データ分析については、教学 IR 推進室、教務主事団、創造教育開発センターおよび教務係で行う。
- 3) 学生の授業評価アンケートに対するコメント
学生の授業評価アンケートに対して、授業点検シート内にコメントを記載し、必要であれば学生に対して授業改善のアナウンスを授業中に行う。

【学生向け通知文書】

令和7年度授業評価アンケートの実施について

学生の皆さんへ

- ・学生の皆さんに、より良い教育を提供するために、教育改善及び教育環境改善に利用することを目的とした授業アンケートに回答してください。学校や自宅で、パソコンやスマホから回答できます。各自が期限内に必ずアンケートに回答するようにしてください。

対象学生：本科・専攻科全学生

回答期限：令和7年7月15日（火）～7月29日（火）

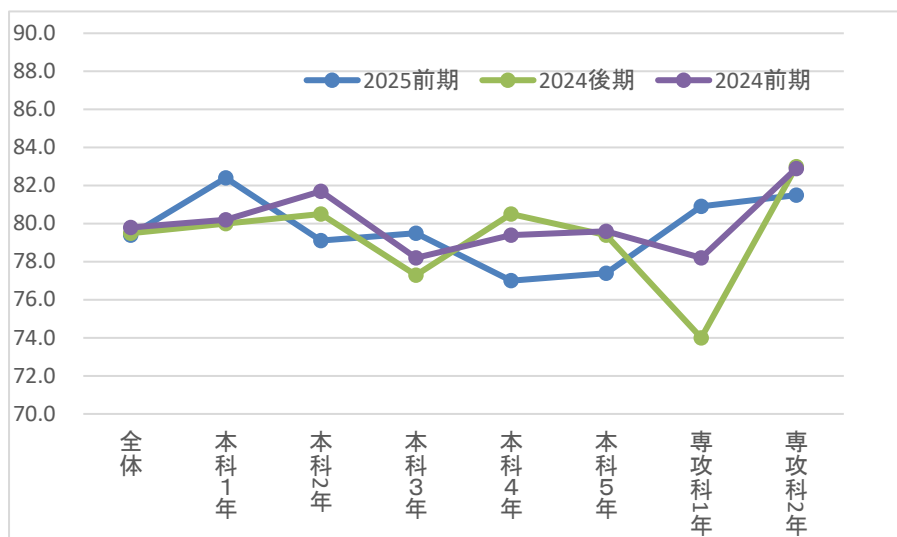
●アンケート回答方法

下記Microsoft Forms (URL)にアクセスし回答します。

※前期に受講した授業科目について回答してください。

回答内容は、担当教員にフィードバックするとともに、教学 IR における基礎データとして教育の質保証、授業改善等に利用しますので、誠意ある回答をお願いします。
履修登録を行ったものの、実際に受講していない科目は回答しないでください。

令和7年度前期授業評価アンケート集計結果について (全体・本科)



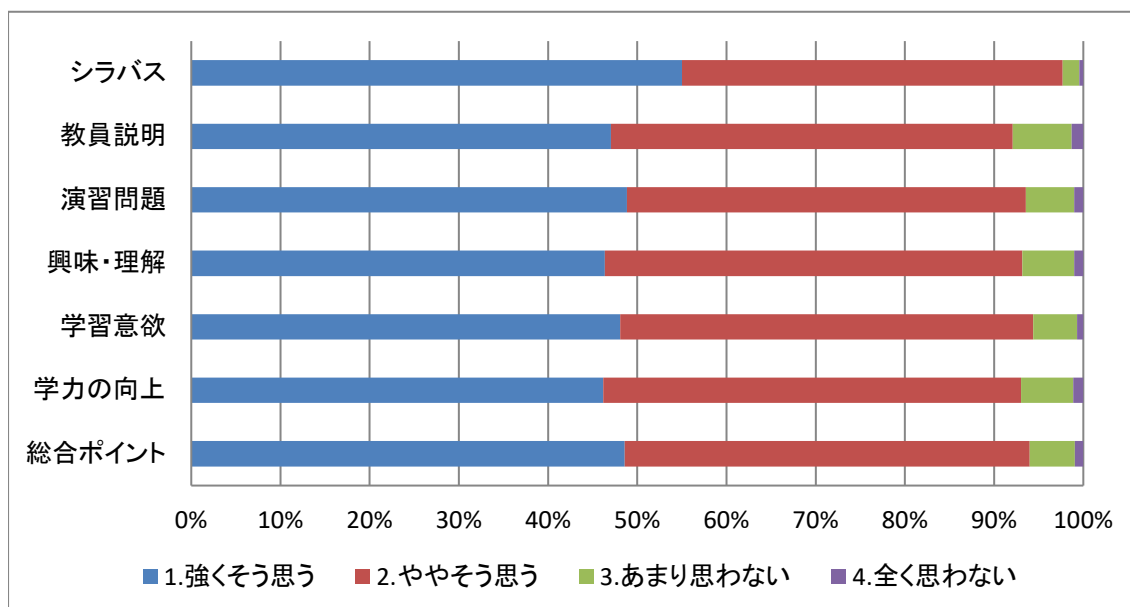
総合ポイント

| | 2025前期 | 2024後期 | 2024前期 |
|-------|--------|--------|--------|
| 全体 | 79.4 | 79.5 | 79.8 |
| 本科1年 | 82.4 | 80.0 | 80.2 |
| 本科2年 | 79.1 | 80.5 | 81.7 |
| 本科3年 | 79.5 | 77.3 | 78.2 |
| 本科4年 | 77.0 | 80.5 | 79.4 |
| 本科5年 | 77.4 | 79.4 | 79.6 |
| 専攻科1年 | 80.9 | 74.0 | 78.2 |
| 専攻科2年 | 81.5 | 83.0 | 82.9 |

令和7年度 前期授業評価アンケート

学年 [']
 学科 [']
 科目 [']
 除外科目 [' ']
 全体

| | 1.強く思う | 2.やや思う | 3.あまり思わない | 4.全く思わない | ポイント |
|--------|--------|--------|-----------|----------|------|
| シラバス | 7704 | 5973 | 264 | 62 | 84.1 |
| 教員説明 | 6632 | 6346 | 932 | 183 | 79.3 |
| 演習問題 | 6859 | 6277 | 763 | 143 | 80.5 |
| 興味・理解 | 6526 | 6592 | 820 | 143 | 79.5 |
| 学習意欲 | 6770 | 6515 | 695 | 98 | 80.6 |
| 学力の向上 | 6496 | 6583 | 823 | 159 | 79.4 |
| 総合ポイント | 40987 | 38286 | 4297 | 788 | 80.5 |



令和7年度 前期授業評価アンケート

学年 ['本科']

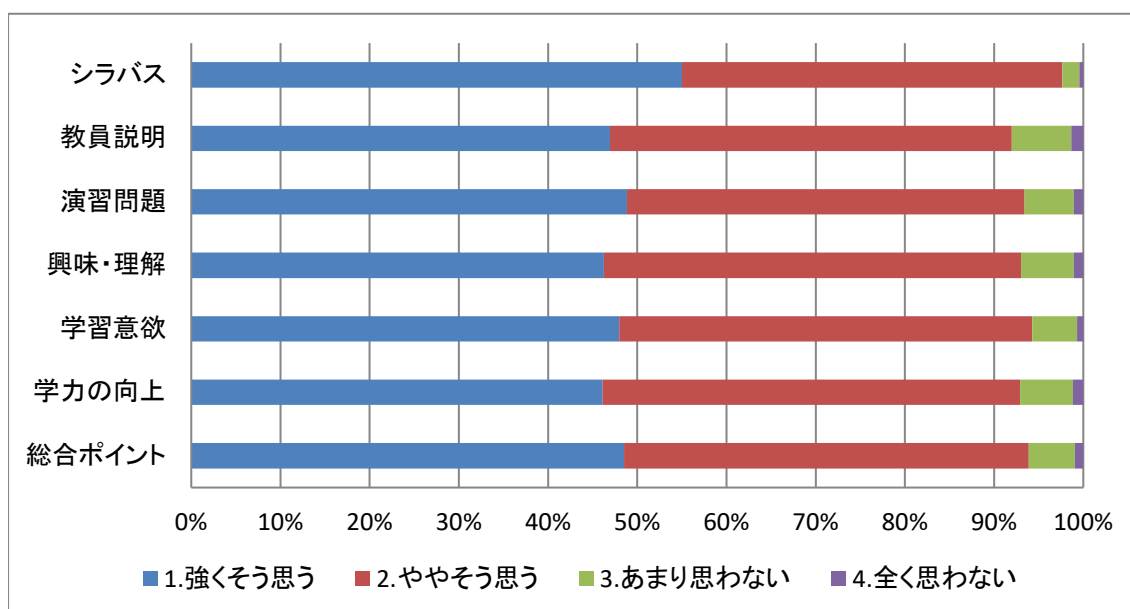
学科 [' ']

科目 [' ']

除外科目 [' ']

本科

| | 1.強く思う | 2.やや思う | 3.あまり思わない | 4.全く思わない | ポイント |
|--------|--------|--------|-----------|----------|------|
| シラバス | 7435 | 5759 | 255 | 62 | 84.1 |
| 教員説明 | 6383 | 6126 | 910 | 181 | 79.2 |
| 演習問題 | 6615 | 6041 | 750 | 143 | 80.4 |
| 興味・理解 | 6286 | 6355 | 804 | 142 | 79.4 |
| 学習意欲 | 6519 | 6290 | 681 | 96 | 80.5 |
| 学力の向上 | 6259 | 6350 | 804 | 157 | 79.3 |
| 総合ポイント | 39497 | 36921 | 4204 | 781 | 80.5 |



令和7年度 前期授業評価アンケート

学年 ['本科1年']

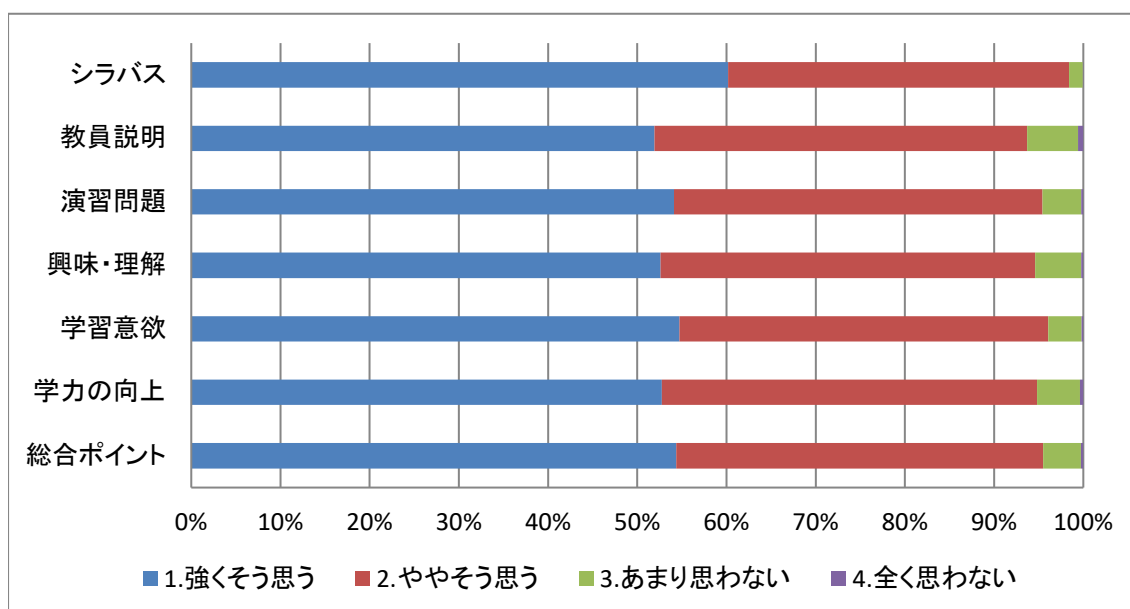
学科 [' ']

科目 [' ']

除外科目 [' ']

本科1年

| | 1.強く思う | 2.やや思う | 3.あまり思わない | 4.全く思わない | ポイント |
|--------|--------|--------|-----------|----------|------|
| シラバス | 1983 | 1259 | 51 | 2 | 86.2 |
| 教員説明 | 1736 | 1396 | 191 | 20 | 81.7 |
| 演習問題 | 1800 | 1374 | 144 | 8 | 83.1 |
| 興味・理解 | 1754 | 1399 | 172 | 8 | 82.3 |
| 学習意欲 | 1824 | 1377 | 125 | 6 | 83.5 |
| 学力の向上 | 1761 | 1404 | 161 | 12 | 82.4 |
| 総合ポイント | 10858 | 8209 | 844 | 56 | 83.2 |



令和7年度 前期授業評価アンケート

学年 ['本科2年']

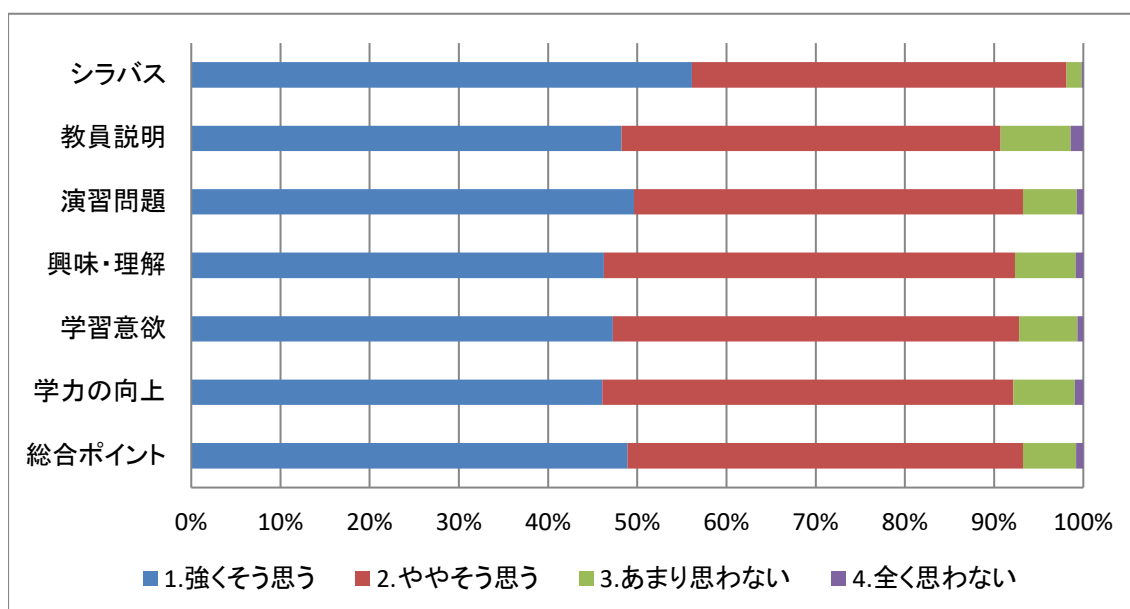
学科 [' ']

科目 [' ']

除外科目 [' ']

本科2年

| | 1.強く思う | 2.やや思う | 3.あまり思わない | 4.全く思わない | ポイント |
|--------|--------|--------|-----------|----------|------|
| シラバス | 1371 | 1026 | 41 | 5 | 84.7 |
| 教員説明 | 1182 | 1041 | 192 | 35 | 79.2 |
| 演習問題 | 1216 | 1069 | 148 | 18 | 80.7 |
| 興味・理解 | 1137 | 1133 | 167 | 21 | 79.2 |
| 学習意欲 | 1160 | 1118 | 161 | 16 | 79.8 |
| 学力の向上 | 1127 | 1127 | 169 | 23 | 79.1 |
| 総合ポイント | 7193 | 6514 | 878 | 118 | 80.5 |



令和7年度 前期授業評価アンケート

学年 ['本科3年']

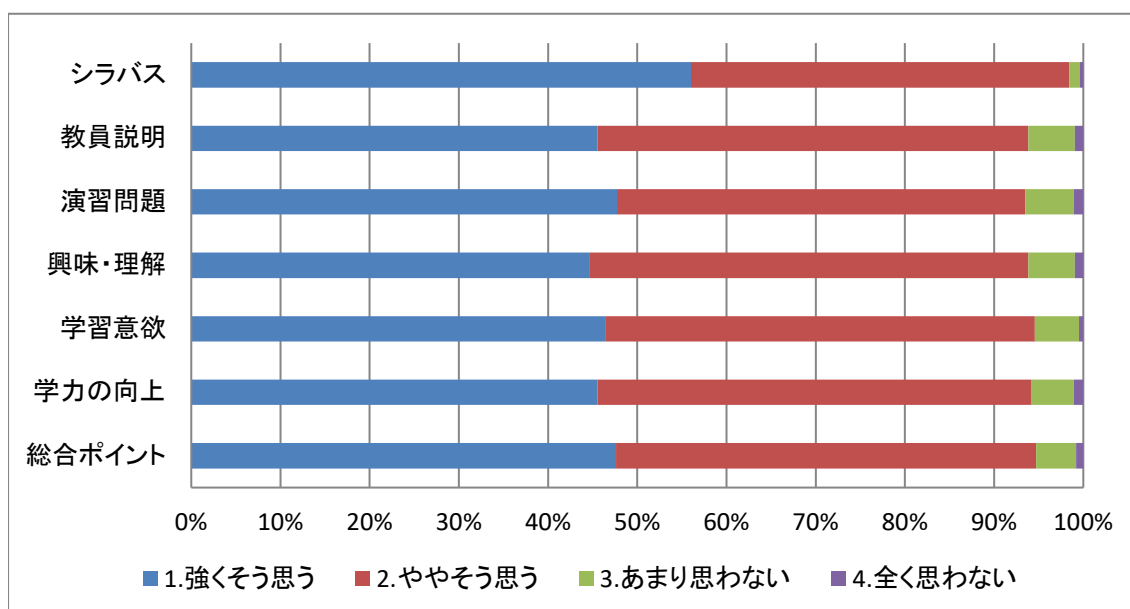
学科 [' ']

科目 [' ']

除外科目 [' ']

本科3年

| | 1.強く思う | 2.やや思う | 3.あまり思わない | 4.全く思わない | ポイント |
|--------|--------|--------|-----------|----------|------|
| シラバス | 1590 | 1204 | 33 | 11 | 84.7 |
| 教員説明 | 1303 | 1383 | 149 | 27 | 79.5 |
| 演習問題 | 1358 | 1303 | 155 | 30 | 80.0 |
| 興味・理解 | 1271 | 1404 | 148 | 27 | 79.2 |
| 学習意欲 | 1323 | 1373 | 141 | 14 | 80.2 |
| 学力の向上 | 1297 | 1385 | 137 | 30 | 79.5 |
| 総合ポイント | 8142 | 8052 | 763 | 139 | 80.5 |



令和7年度 前期授業評価アンケート

学年 ['本科4年']

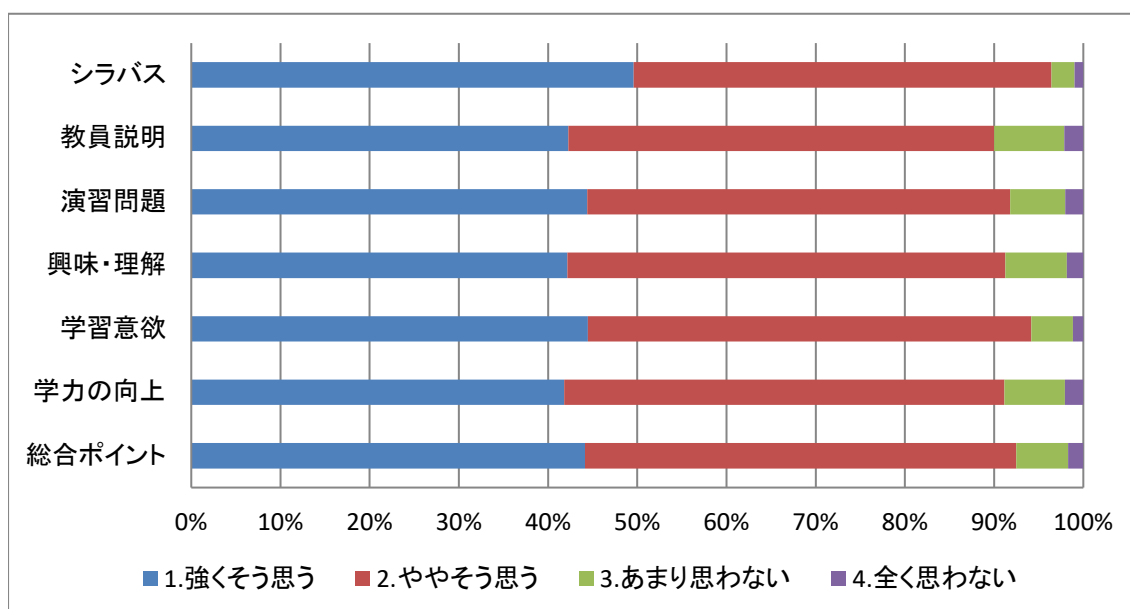
学科 [' ']

科目 [' ']

除外科目 [' ']

本科4年

| | 1.強く思う | 2.やや思う | 3.あまり思わない | 4.全く思わない | ポイント |
|--------|--------|--------|-----------|----------|------|
| シラバス | 1373 | 1296 | 72 | 27 | 81.7 |
| 教員説明 | 1170 | 1320 | 218 | 59 | 76.7 |
| 演習問題 | 1225 | 1308 | 170 | 56 | 78.1 |
| 興味・理解 | 1168 | 1360 | 191 | 51 | 77.2 |
| 学習意欲 | 1231 | 1377 | 129 | 32 | 79.2 |
| 学力の向上 | 1154 | 1362 | 187 | 57 | 77.0 |
| 総合ポイント | 7321 | 8023 | 967 | 282 | 78.3 |



令和7年度 前期授業評価アンケート

学年 ['本科5年']

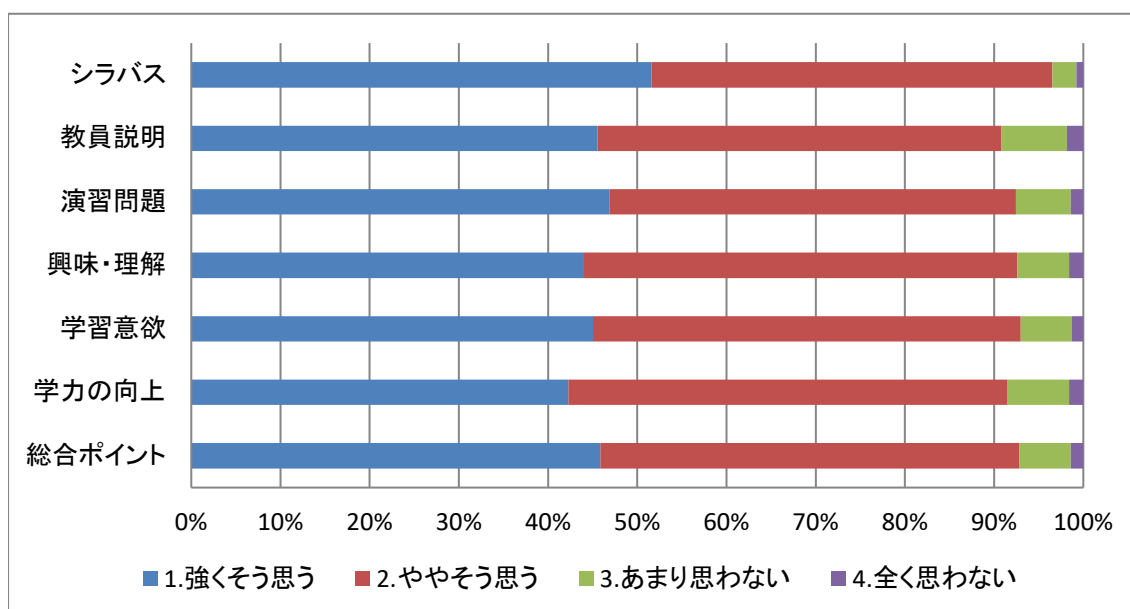
学科 [' ']

科目 [' ']

除外科目 [' ']

本科5年

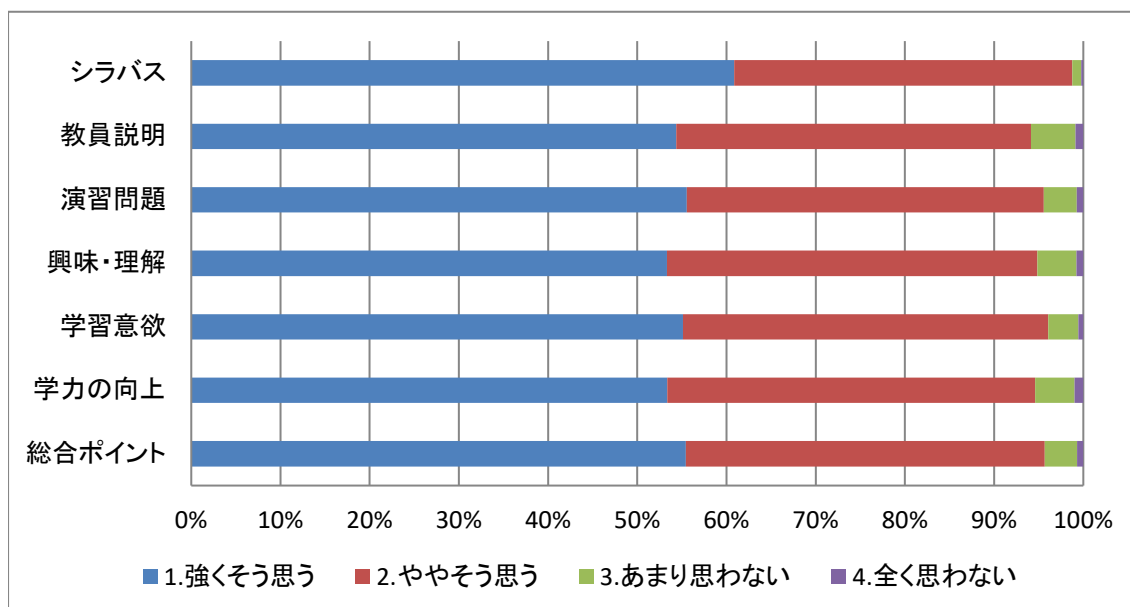
| | 1.強く思う | 2.やや思う | 3.あまり思わない | 4.全く思わない | ポイント |
|--------|--------|--------|-----------|----------|------|
| シラバス | 1118 | 974 | 58 | 17 | 82.5 |
| 教員説明 | 992 | 986 | 160 | 40 | 78.2 |
| 演習問題 | 1016 | 987 | 133 | 31 | 79.3 |
| 興味・理解 | 956 | 1059 | 126 | 35 | 78.3 |
| 学習意欲 | 981 | 1045 | 125 | 28 | 78.9 |
| 学力の向上 | 920 | 1072 | 150 | 35 | 77.4 |
| 総合ポイント | 5983 | 6123 | 752 | 186 | 79.1 |



令和7年度 前期授業評価アンケート

学年 [']
 学科 [機械工学科]
 科目 [']
 除外科目 [']
 機械工学科

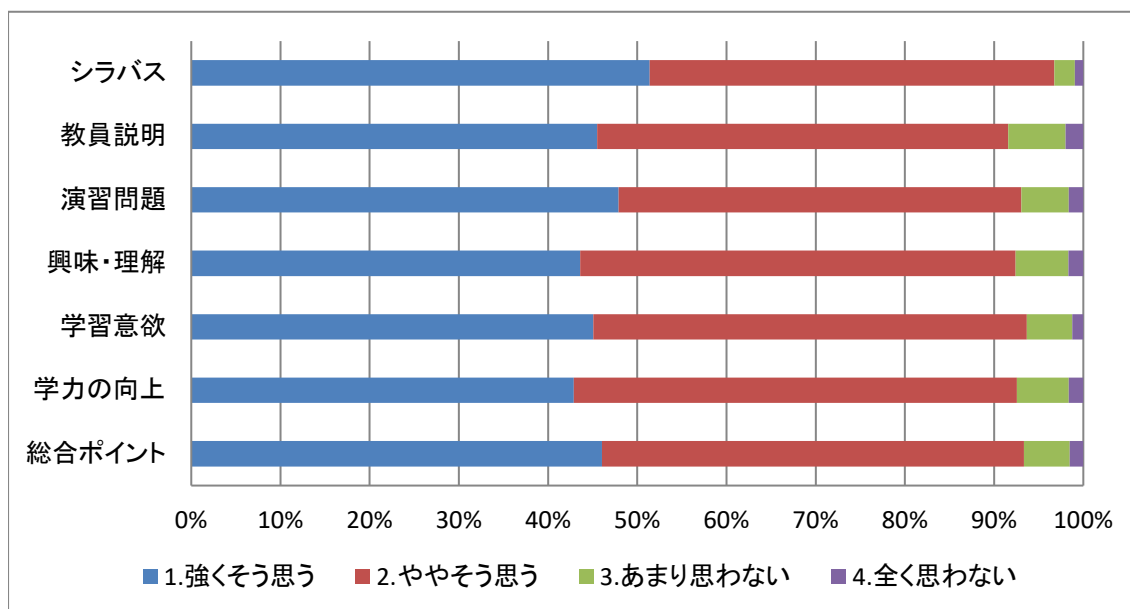
| | 1.強く思う | 2.やや思う | 3.あまり思わない | 4.全く思わない | ポイント |
|--------|--------|--------|-----------|----------|------|
| シラバス | 1320 | 822 | 22 | 5 | 86.5 |
| 教員説明 | 1180 | 863 | 108 | 19 | 82.5 |
| 演習問題 | 1201 | 865 | 80 | 16 | 83.5 |
| 興味・理解 | 1157 | 901 | 95 | 17 | 82.5 |
| 学習意欲 | 1197 | 889 | 73 | 12 | 83.6 |
| 学力の向上 | 1155 | 893 | 96 | 21 | 82.3 |
| 総合ポイント | 7210 | 5233 | 474 | 90 | 83.5 |



令和7年度 前期授業評価アンケート

学年 []
 学科 [電気電子工学科]
 科目 []
 除外科目 []
 電気電子工学科

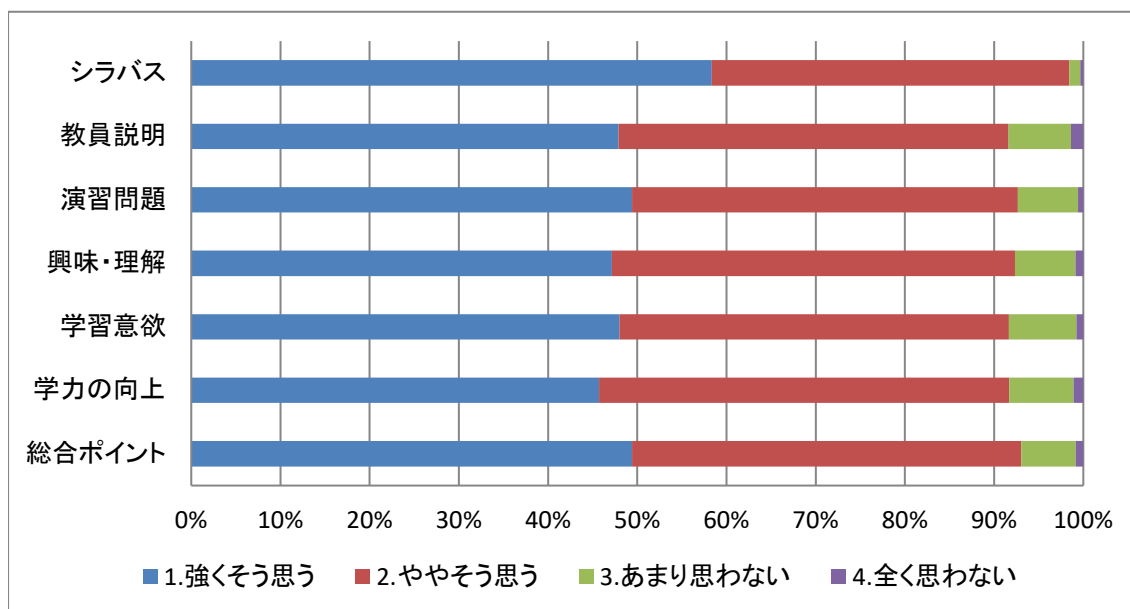
| | 1.強く思う | 2.やや思う | 3.あまり思わない | 4.全く思わない | ポイント |
|--------|--------|--------|-----------|----------|------|
| シラバス | 937 | 827 | 42 | 17 | 82.4 |
| 教員説明 | 839 | 850 | 118 | 37 | 78.4 |
| 演習問題 | 883 | 832 | 98 | 30 | 79.8 |
| 興味・理解 | 804 | 900 | 109 | 31 | 78.1 |
| 学習意欲 | 831 | 896 | 94 | 23 | 79.2 |
| 学力の向上 | 790 | 915 | 107 | 30 | 77.9 |
| 総合ポイント | 5084 | 5220 | 568 | 168 | 79.3 |



令和7年度 前期授業評価アンケート

学年 []
 学科 [電子情報工学科]
 科目 []
 除外科目 []
 電子情報工学科

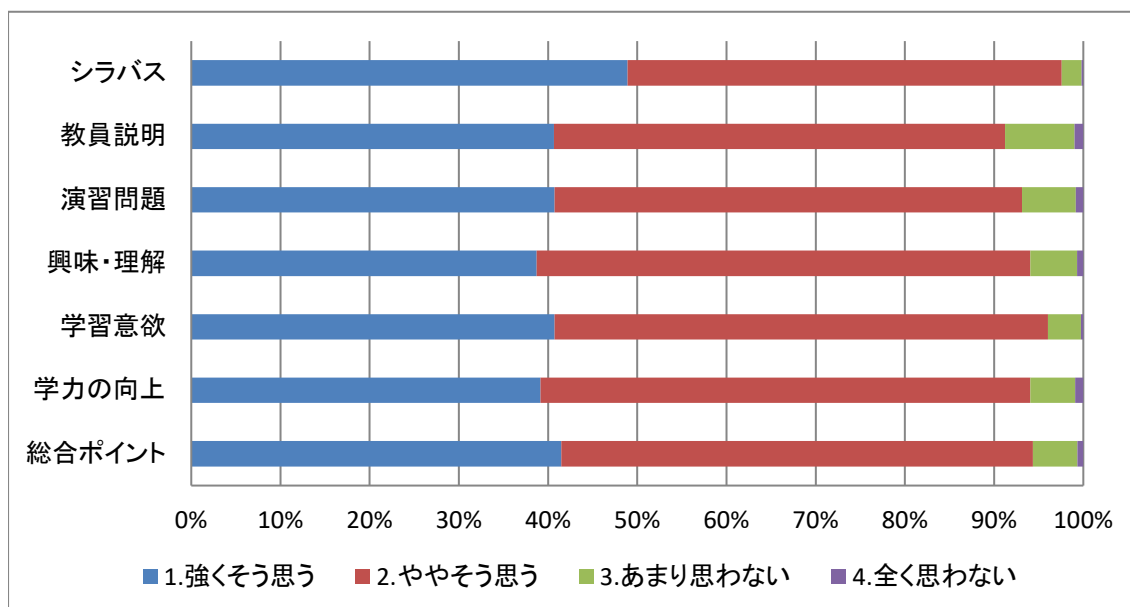
| | 1.強く思う | 2.やや思う | 3.あまり思わない | 4.全く思わない | ポイント |
|--------|--------|--------|-----------|----------|------|
| シラバス | 1332 | 915 | 28 | 8 | 85.5 |
| 教員説明 | 1108 | 1010 | 162 | 32 | 79.4 |
| 演習問題 | 1139 | 997 | 155 | 14 | 80.5 |
| 興味・理解 | 1094 | 1048 | 158 | 20 | 79.5 |
| 学習意欲 | 1113 | 1012 | 175 | 18 | 79.6 |
| 学力の向上 | 1058 | 1064 | 167 | 25 | 78.8 |
| 総合ポイント | 6844 | 6046 | 845 | 117 | 80.5 |



令和7年度 前期授業評価アンケート

学年 [']
 学科 [物質工学科]
 科目 [']
 除外科目 [']
 物質工学科

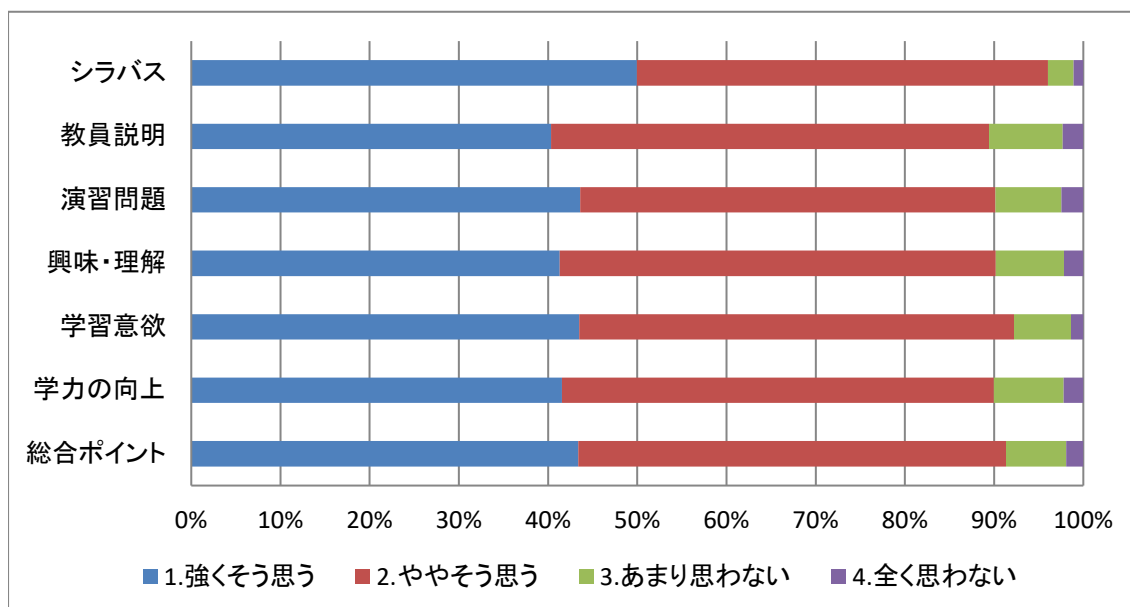
| | 1.強く思う | 2.やや思う | 3.あまり思わない | 4.全く思わない | ポイント |
|--------|--------|--------|-----------|----------|------|
| シラバス | 1033 | 1028 | 47 | 4 | 82.1 |
| 教員説明 | 859 | 1068 | 164 | 21 | 77.0 |
| 演習問題 | 858 | 1103 | 127 | 18 | 77.7 |
| 興味・理解 | 817 | 1168 | 110 | 15 | 77.4 |
| 学習意欲 | 860 | 1167 | 78 | 6 | 78.8 |
| 学力の向上 | 825 | 1157 | 106 | 19 | 77.4 |
| 総合ポイント | 5252 | 6691 | 632 | 83 | 78.4 |



令和7年度 前期授業評価アンケート

学年 []
 学科 [環境都市工学科]
 科目 []
 除外科目 []
 環境都市工学科

| | 1.強く思う | 2.やや思う | 3.あまり思わない | 4.全く思わない | ポイント |
|--------|--------|--------|-----------|----------|------|
| シラバス | 1204 | 1111 | 70 | 26 | 81.6 |
| 教員説明 | 972 | 1182 | 199 | 56 | 75.8 |
| 演習問題 | 1043 | 1114 | 177 | 59 | 77.1 |
| 興味・理解 | 990 | 1173 | 183 | 52 | 76.4 |
| 学習意欲 | 1043 | 1169 | 153 | 33 | 78.1 |
| 学力の向上 | 995 | 1159 | 187 | 53 | 76.4 |
| 総合ポイント | 6247 | 6908 | 969 | 279 | 77.6 |



令和7年度 前期授業評価アンケート

学年 [']

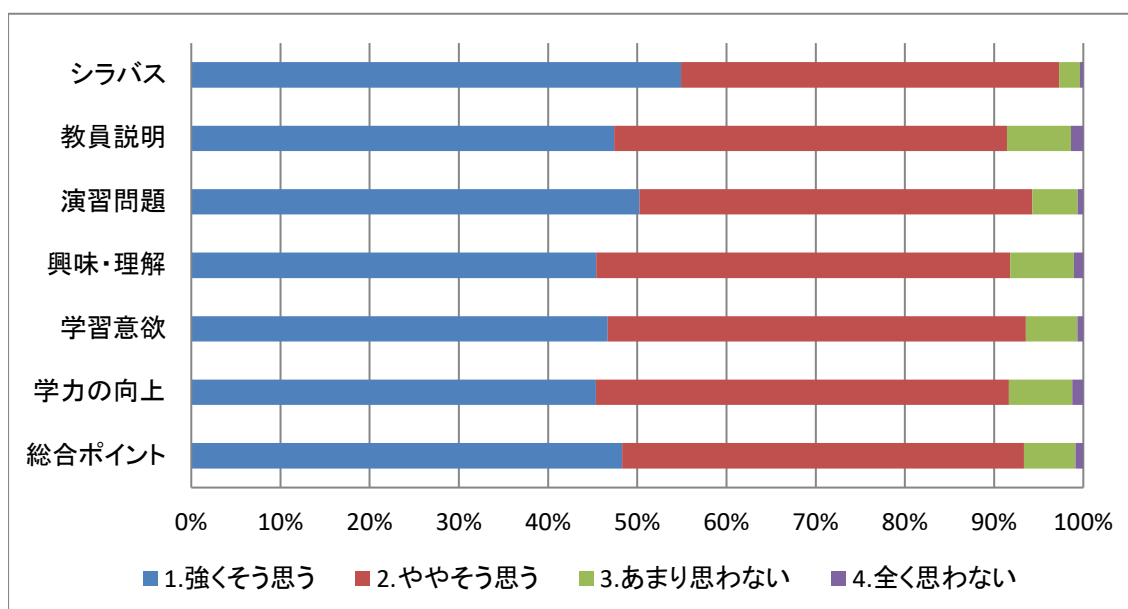
学科 [']

科目 [']

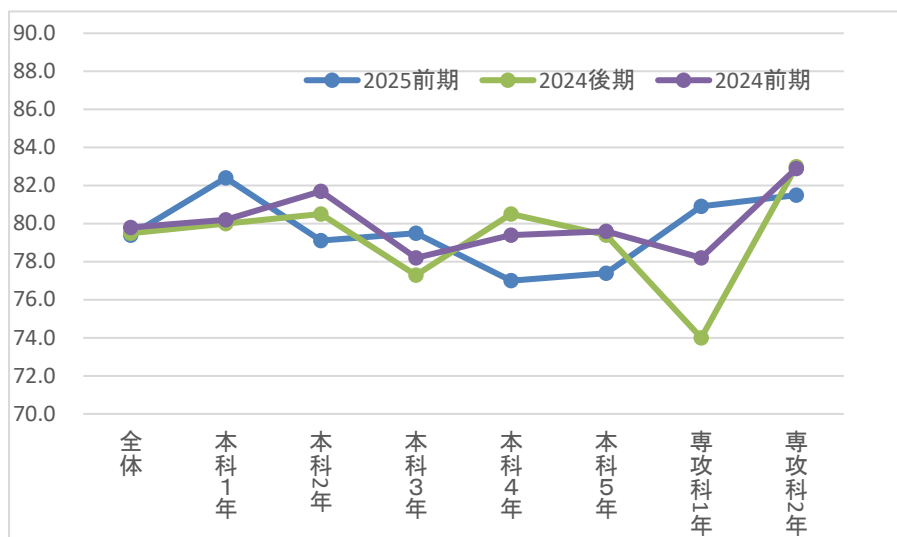
除外科目 ['専門基礎', '卒業研究', 'プロジェクト演習', '実験', '実習', '工業英語', '機械', '材料', 'C

一般科目

| | 1.強く思う | 2.やや思う | 3.あまり思わない | 4.全く思わない | ポイント |
|--------|--------|--------|-----------|----------|------|
| シラバス | 3785 | 2921 | 161 | 26 | 83.9 |
| 教員説明 | 3295 | 3061 | 499 | 97 | 79.1 |
| 演習問題 | 3485 | 3056 | 352 | 44 | 81.3 |
| 興味・理解 | 3152 | 3225 | 496 | 73 | 78.7 |
| 学習意欲 | 3241 | 3256 | 401 | 45 | 79.9 |
| 学力の向上 | 3145 | 3212 | 493 | 85 | 78.6 |
| 総合ポイント | 20103 | 18731 | 2402 | 370 | 80.3 |



令和7年度前期授業評価アンケート集計結果について (全体・専攻科)



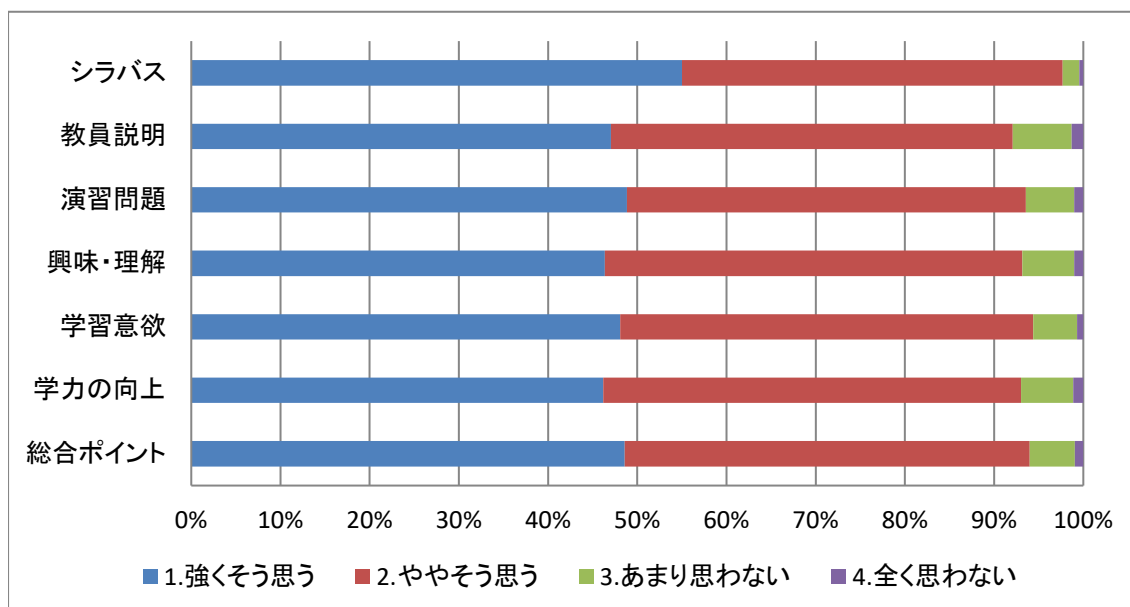
総合ポイント

| | 2025前期 | 2024後期 | 2024前期 |
|-------|--------|--------|--------|
| 全体 | 79.4 | 79.5 | 79.8 |
| 本科1年 | 82.4 | 80 | 80.2 |
| 本科2年 | 79.1 | 80.5 | 81.7 |
| 本科3年 | 79.5 | 77.3 | 78.2 |
| 本科4年 | 77.0 | 80.5 | 79.4 |
| 本科5年 | 77.4 | 79.4 | 79.6 |
| 専攻科1年 | 80.9 | 74 | 78.2 |
| 専攻科2年 | 81.5 | 83 | 82.9 |

令和7年度 前期授業評価アンケート

学年 [']
 学科 [']
 科目 [']
 除外科目 [' ']
 全体

| | 1.強く思う | 2.やや思う | 3.あまり思わない | 4.全く思わない | ポイント |
|--------|--------|--------|-----------|----------|------|
| シラバス | 7704 | 5973 | 264 | 62 | 84.1 |
| 教員説明 | 6632 | 6346 | 932 | 183 | 79.3 |
| 演習問題 | 6859 | 6277 | 763 | 143 | 80.5 |
| 興味・理解 | 6526 | 6592 | 820 | 143 | 79.5 |
| 学習意欲 | 6770 | 6515 | 695 | 98 | 80.6 |
| 学力の向上 | 6496 | 6583 | 823 | 159 | 79.4 |
| 総合ポイント | 40987 | 38286 | 4297 | 788 | 80.5 |



令和7年度 前期授業評価アンケート

学年 [専攻科]

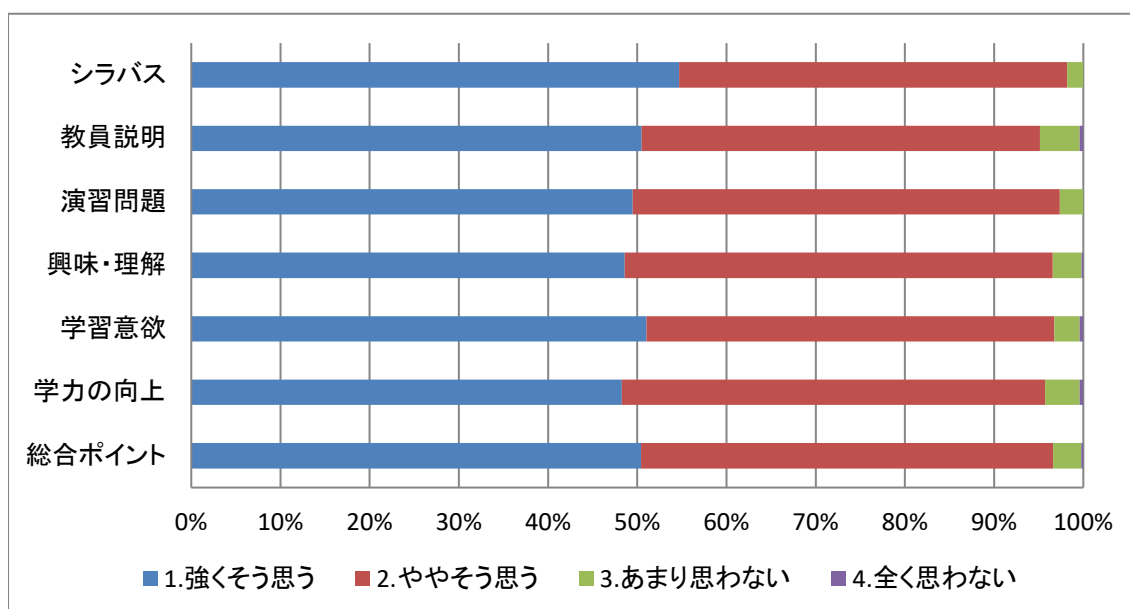
学科 []

科目 []

除外科目 []

専攻科

| | 1.強く思う | 2.やや思う | 3.あまり思わない | 4.全く思わない | ポイント |
|--------|--------|--------|-----------|----------|------|
| シラバス | 269 | 214 | 9 | 0 | 84.3 |
| 教員説明 | 249 | 220 | 22 | 2 | 81.7 |
| 演習問題 | 244 | 236 | 13 | 0 | 82.3 |
| 興味・理解 | 240 | 237 | 16 | 1 | 81.7 |
| 学習意欲 | 251 | 225 | 14 | 2 | 82.5 |
| 学力の向上 | 237 | 233 | 19 | 2 | 81.2 |
| 総合ポイント | 1490 | 1365 | 93 | 7 | 82.3 |



令和7年度 前期授業評価アンケート

学年 [専攻科1年]

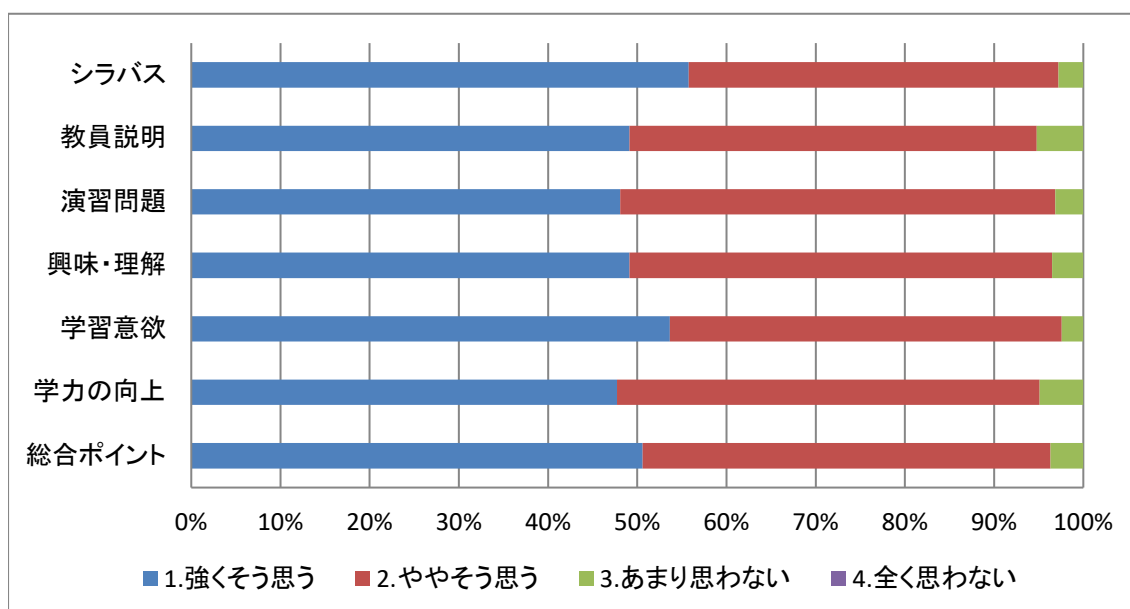
学科 []

科目 []

除外科目 []

専攻科1年

| | 1.強く思う | 2.やや思う | 3.あまり思わない | 4.全く思わない | ポイント |
|--------|--------|--------|-----------|----------|------|
| シラバス | 160 | 119 | 8 | 0 | 84.3 |
| 教員説明 | 141 | 131 | 15 | 0 | 81.3 |
| 演習問題 | 138 | 140 | 9 | 0 | 81.7 |
| 興味・理解 | 141 | 136 | 10 | 0 | 81.9 |
| 学習意欲 | 154 | 126 | 7 | 0 | 83.7 |
| 学力の向上 | 136 | 135 | 14 | 0 | 80.9 |
| 総合ポイント | 870 | 787 | 63 | 0 | 82.3 |



令和7年度 前期授業評価アンケート

学年 [専攻科2年]

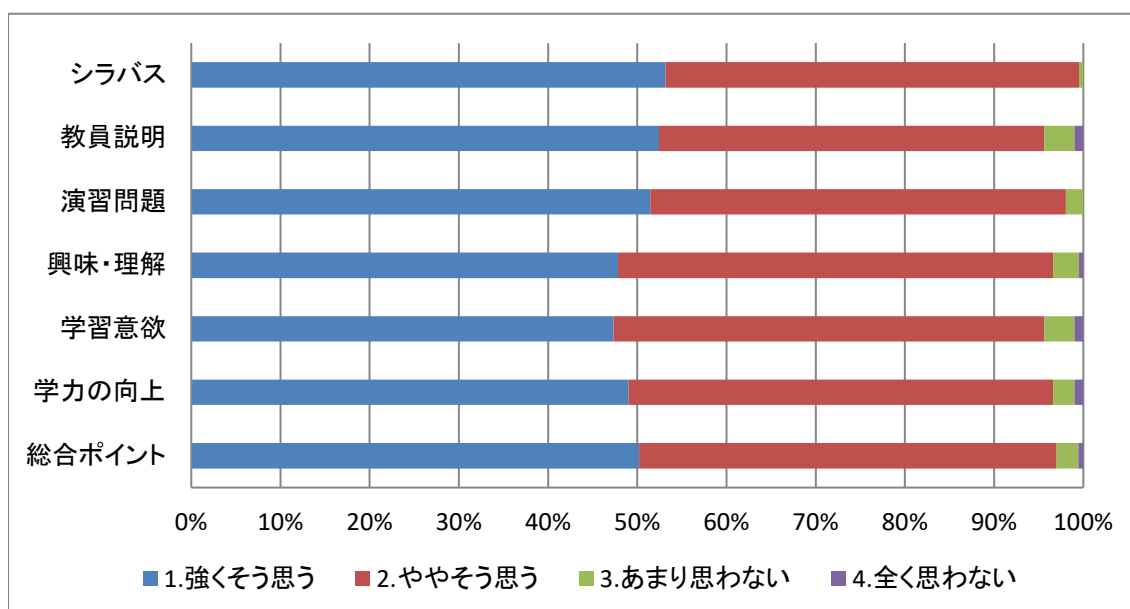
学科 []

科目 []

除外科目 []

専攻科2年

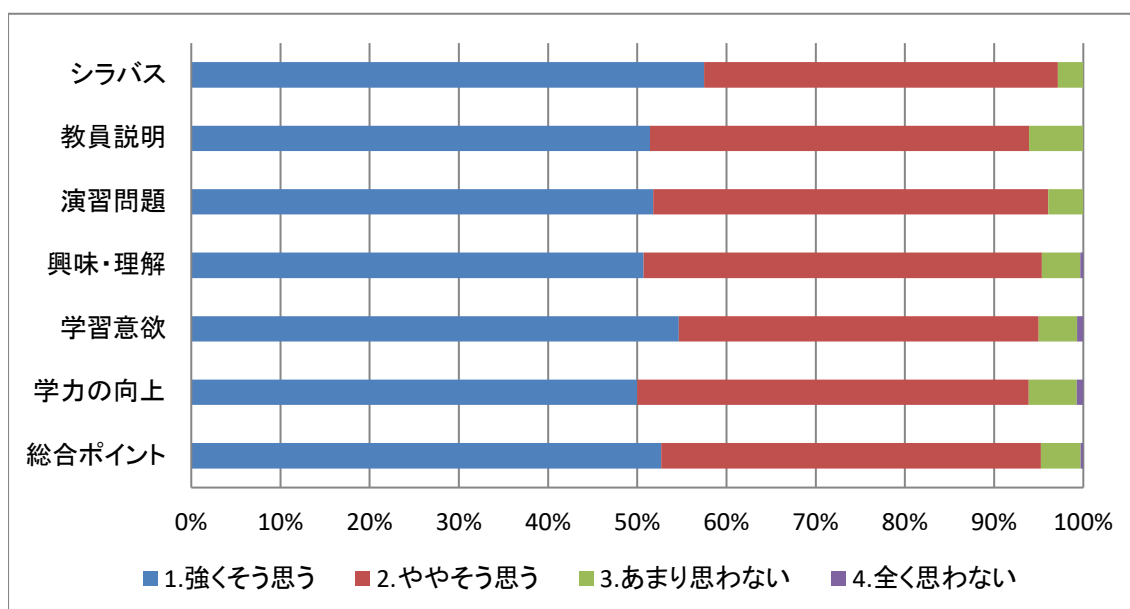
| | 1.強く思う | 2.やや思う | 3.あまり思わない | 4.全く思わない | ポイント |
|--------|--------|--------|-----------|----------|------|
| シラバス | 109 | 95 | 1 | 0 | 84.2 |
| 教員説明 | 108 | 89 | 7 | 2 | 82.4 |
| 演習問題 | 106 | 96 | 4 | 0 | 83.2 |
| 興味・理解 | 99 | 101 | 6 | 1 | 81.3 |
| 学習意欲 | 97 | 99 | 7 | 2 | 80.7 |
| 学力の向上 | 101 | 98 | 5 | 2 | 81.5 |
| 総合ポイント | 620 | 578 | 30 | 7 | 82.2 |



令和7年度 前期授業評価アンケート

学年 []
 学科 ['生産システム工学']
 科目 []
 除外科目 []
 生産システム工学

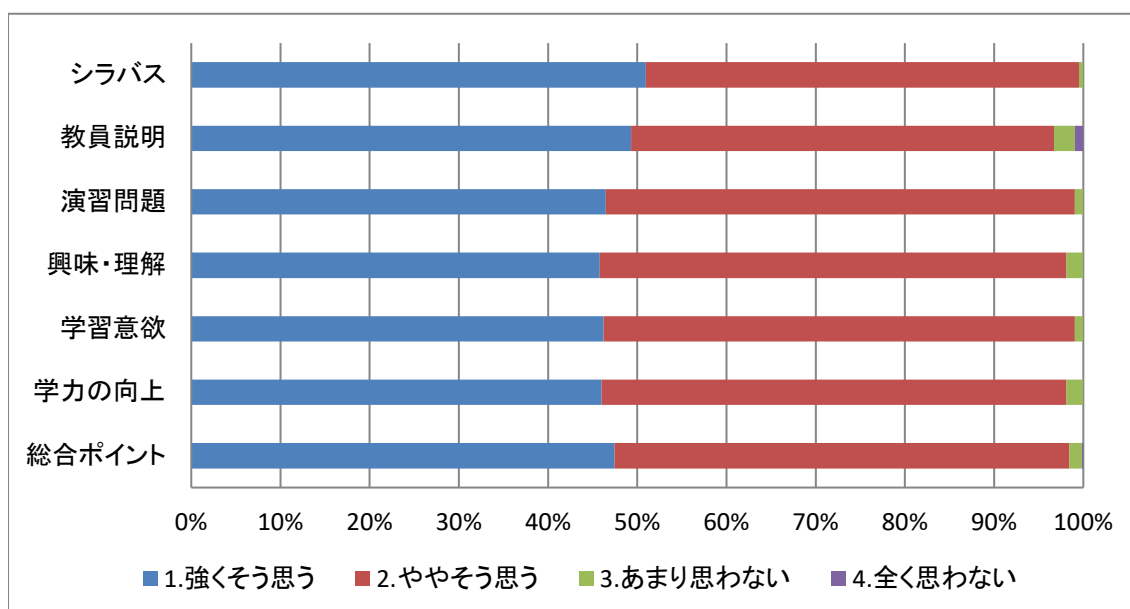
| | 1.強く思う | 2.やや思う | 3.あまり思わない | 4.全く思わない | ポイント |
|--------|--------|--------|-----------|----------|------|
| シラバス | 161 | 111 | 8 | 0 | 84.9 |
| 教員説明 | 144 | 119 | 17 | 0 | 81.8 |
| 演習問題 | 145 | 124 | 11 | 0 | 82.6 |
| 興味・理解 | 142 | 125 | 12 | 1 | 81.9 |
| 学習意欲 | 153 | 113 | 12 | 2 | 83.0 |
| 学力の向上 | 139 | 122 | 15 | 2 | 81.1 |
| 総合ポイント | 884 | 714 | 75 | 5 | 82.5 |



令和7年度 前期授業評価アンケート

学年 []
 学科 [環境システム工学]
 科目 []
 除外科目 []
 環境システム工学

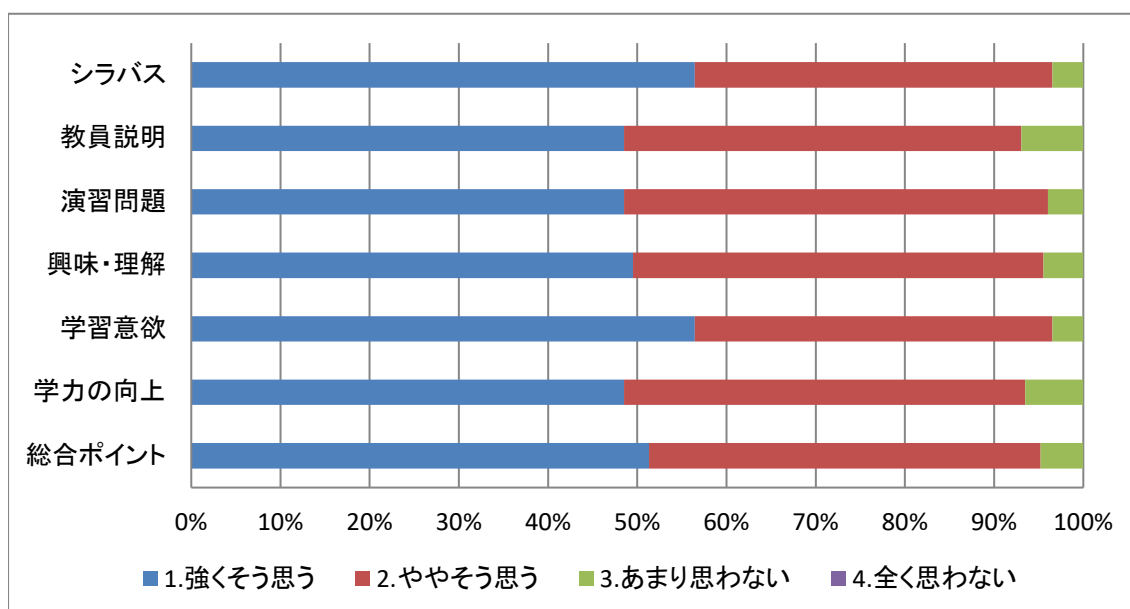
| | 1.強く思う | 2.やや思う | 3.あまり思わない | 4.全く思わない | ポイント |
|--------|--------|--------|-----------|----------|------|
| シラバス | 108 | 103 | 1 | 0 | 83.5 |
| 教員説明 | 105 | 101 | 5 | 2 | 81.7 |
| 演習問題 | 99 | 112 | 2 | 0 | 81.8 |
| 興味・理解 | 98 | 112 | 4 | 0 | 81.3 |
| 学習意欲 | 98 | 112 | 2 | 0 | 81.8 |
| 学力の向上 | 98 | 111 | 4 | 0 | 81.4 |
| 総合ポイント | 606 | 651 | 18 | 2 | 81.9 |



令和7年度 前期授業評価アンケート

学年 [専攻科1年]
 学科 [生産システム工学]
 科目 []
 除外科目 []
 1PS

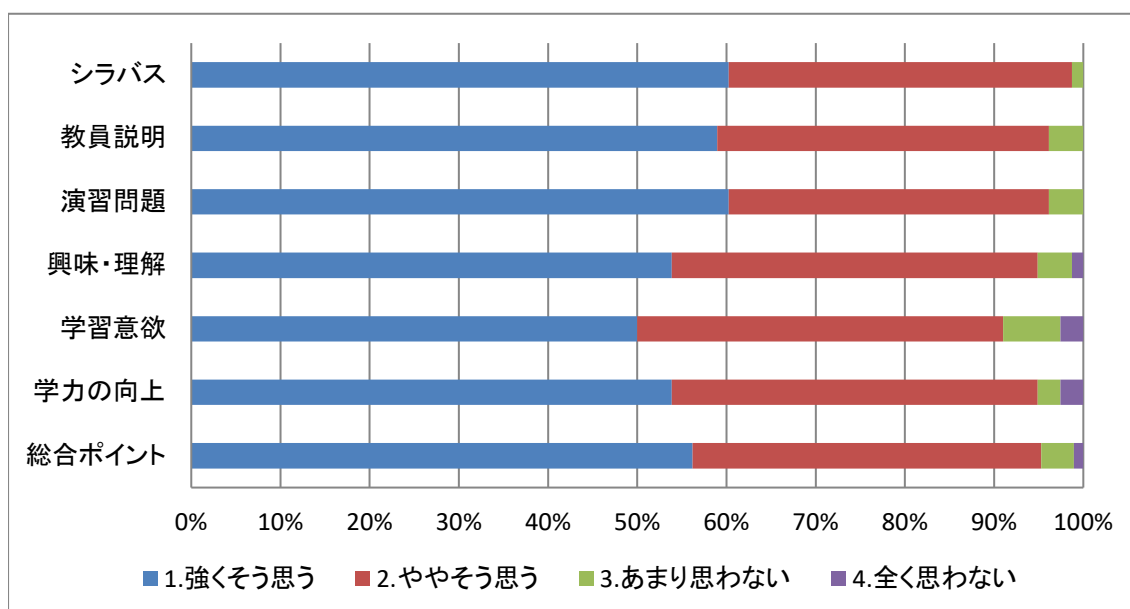
| | 1.強く思う | 2.やや思う | 3.あまり思わない | 4.全く思わない | ポイント |
|--------|--------|--------|-----------|----------|------|
| シラバス | 114 | 81 | 7 | 0 | 84.3 |
| 教員説明 | 98 | 90 | 14 | 0 | 80.5 |
| 演習問題 | 98 | 96 | 8 | 0 | 81.5 |
| 興味・理解 | 100 | 93 | 9 | 0 | 81.7 |
| 学習意欲 | 114 | 81 | 7 | 0 | 84.3 |
| 学力の向上 | 97 | 90 | 13 | 0 | 80.7 |
| 総合ポイント | 621 | 531 | 58 | 0 | 82.2 |



令和7年度 前期授業評価アンケート

学年 [専攻科2年]
 学科 [生産システム工学]
 科目 []
 除外科目 []
 2PS

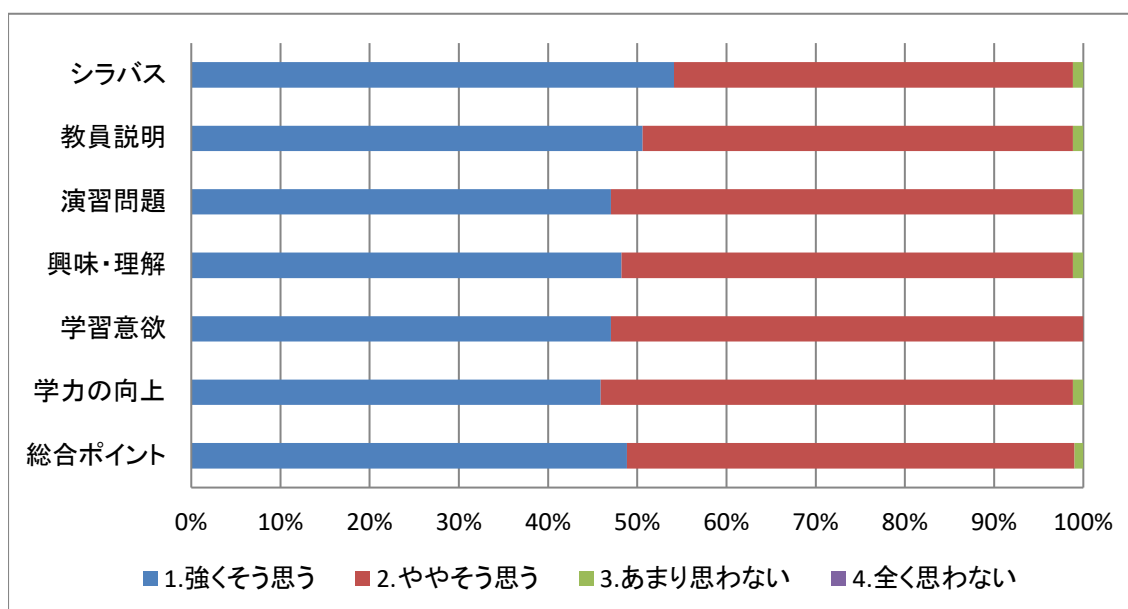
| | 1.強く思う | 2.やや思う | 3.あまり思わない | 4.全く思わない | ポイント |
|--------|--------|--------|-----------|----------|------|
| シラバス | 47 | 30 | 1 | 0 | 86.3 |
| 教員説明 | 46 | 29 | 3 | 0 | 85.0 |
| 演習問題 | 47 | 28 | 3 | 0 | 85.5 |
| 興味・理解 | 42 | 32 | 3 | 1 | 82.5 |
| 学習意欲 | 39 | 32 | 5 | 2 | 79.5 |
| 学力の向上 | 42 | 32 | 2 | 2 | 82.0 |
| 総合ポイント | 263 | 183 | 17 | 5 | 83.5 |



令和7年度 前期授業評価アンケート

学年 [専攻科1年]
 学科 [環境システム工学]
 科目 []
 除外科目 []
 1ES

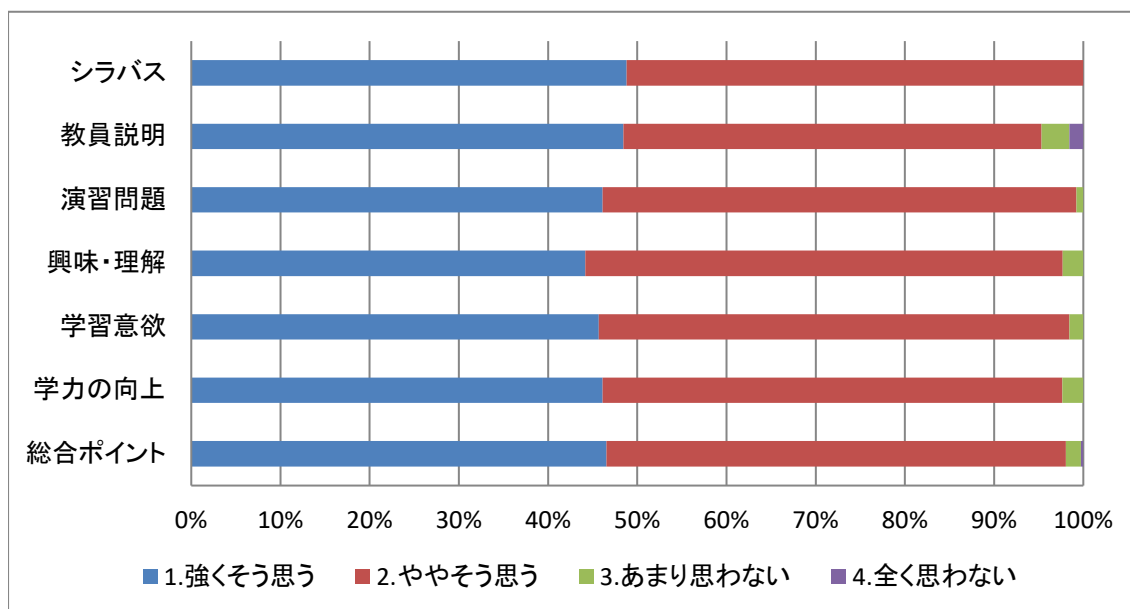
| | 1.強く思う | 2.やや思う | 3.あまり思わない | 4.全く思わない | ポイント |
|--------|--------|--------|-----------|----------|------|
| シラバス | 46 | 38 | 1 | 0 | 84.3 |
| 教員説明 | 43 | 41 | 1 | 0 | 83.1 |
| 演習問題 | 40 | 44 | 1 | 0 | 82.0 |
| 興味・理解 | 41 | 43 | 1 | 0 | 82.3 |
| 学習意欲 | 40 | 45 | 0 | 0 | 82.3 |
| 学力の向上 | 39 | 45 | 1 | 0 | 81.6 |
| 総合ポイント | 249 | 256 | 5 | 0 | 82.6 |



令和7年度 前期授業評価アンケート

学年 [専攻科2年]
 学科 [環境システム工学]
 科目 []
 除外科目 []
 2ES

| | 1.強く思う | 2.やや思う | 3.あまり思わない | 4.全く思わない | ポイント |
|--------|--------|--------|-----------|----------|------|
| シラバス | 62 | 65 | 0 | 0 | 82.9 |
| 教員説明 | 62 | 60 | 4 | 2 | 80.7 |
| 演習問題 | 59 | 68 | 1 | 0 | 81.8 |
| 興味・理解 | 57 | 69 | 3 | 0 | 80.6 |
| 学習意欲 | 58 | 67 | 2 | 0 | 81.4 |
| 学力の向上 | 59 | 66 | 3 | 0 | 81.2 |
| 総合ポイント | 357 | 395 | 13 | 2 | 81.4 |



令和7年度後期授業評価アンケートの実施について

教務に関する申合せ「授業評価アンケート実施等に関する事項」に基づき、Microsoft Forms を利用して実施する。

1 目的

FD 活動の一環として、より良い教育を提供するために、教育改善及び教育環境改善に利用することを目的として実施する。集約した授業評価アンケート結果は各科目の授業点検シートに反映し、授業内容の改善につなげることとし、加えてアンケート結果を教学 IR における基礎データとして活用することで、本校全体のより質の高い教育改善及び教育環境改善を行うこと目指すものとする。

2 実施期間 令和8年1月22日（木）～2月5日（木）

【14週目から15週目（後期期末試験前）】

3 実施方法 学科及び専攻科ごとに授業評価アンケートを作成し、所属学生には創造教育開発センター員（専攻科生は教務係）が周知し、回答を依頼する。

4 質問項目

- この授業の内容や進度はシラバスに書かれている通りだった
- 教員の説明は分かりやすかった
- 演習問題、課題、レポート、小テスト等に無理なく取り組むことができた
- 授業の内容に興味を持つことができ、理解を深めることができた
- この授業に意欲的に取り組んだ
- この授業を受けることによって、学力の向上を実感できた
- （科目名）の授業の良かった点、また改善すべき点などありましたら、具体的、建設的に書いてください【自由記述】

5 集計結果について

1) 教務係にて下図のとおり分類し、通知する。

| | 通知先 |
|-------------|-----|
| 専門科目 | 学科長 |
| 専門基礎科目（1年生） | 学科長 |

| | |
|---------------|------------|
| 一般科目 | 一般科目教室主任 |
| (専攻科) 一般・専門科目 | 専攻科長 |
| 学際科目 | (該当する) 学科長 |

※学生の回答は無記名式として、学生の個人データは集計結果に含めない。

- 2-1) 各学科長、一般教育科目主任、専攻科長（以下「各学科長等」）から科目担当教員へデータ又は紙面で通知する。
 - ①コメント欄等には原則加工を加えない
 - ②学科長等の判断において、科目担当教員ごとの通知とせず、構成員全体（一般科目は教科ごと）へ周知することも可能
- 2-2) コメント欄を削除した集計結果をガルーンに掲載する。
- 2-3) HP では全科目の集計データを公表する。

6 アンケート実施にあたっての留意事項

- 1) Forms のフォーマットは各センター員が所属学科分を作成する。
専攻科に関しては教務係が作成する。
- 2) 集計後、分類することを念頭に、一般科目→専門科目→自学科の学際領域科目群→他学科の学際領域科目群の順番に作成する。
- 3) 専攻科1年生の工学実験 I 及び工学演習 I は各系に分けて作成する。

7 その他

- 1) 委員会
本会議にて実施及び運用方針を審議、決定し、教務委員会にて報告する。
- 2) データの取扱い
授業評価アンケート結果の集計処理・データ分析については、教学 IR 推進室、教務主事団、創造教育開発センターおよび教務係で行う。
- 3) 学生の授業評価アンケートに対するコメント
学生の授業評価アンケートに対して、授業点検シート内にコメントを記載し、必要であれば学生に対して授業改善のアナウンスを授業中に行う。

【学生向け通知文書】

令和7年度授業評価アンケートの実施について

学生の皆さんへ

- ・学生の皆さんに、より良い教育を提供するために、教育改善及び教育環境改善に利用することを目的とした授業アンケートに回答してください。学校や自宅で、パソコンやスマホから回答できます。各自が期限内に必ずアンケートに回答するようにしてください。

対象学生：本科・専攻科全学生

回答期限：令和8年1月22日（木）～2月5日（木）

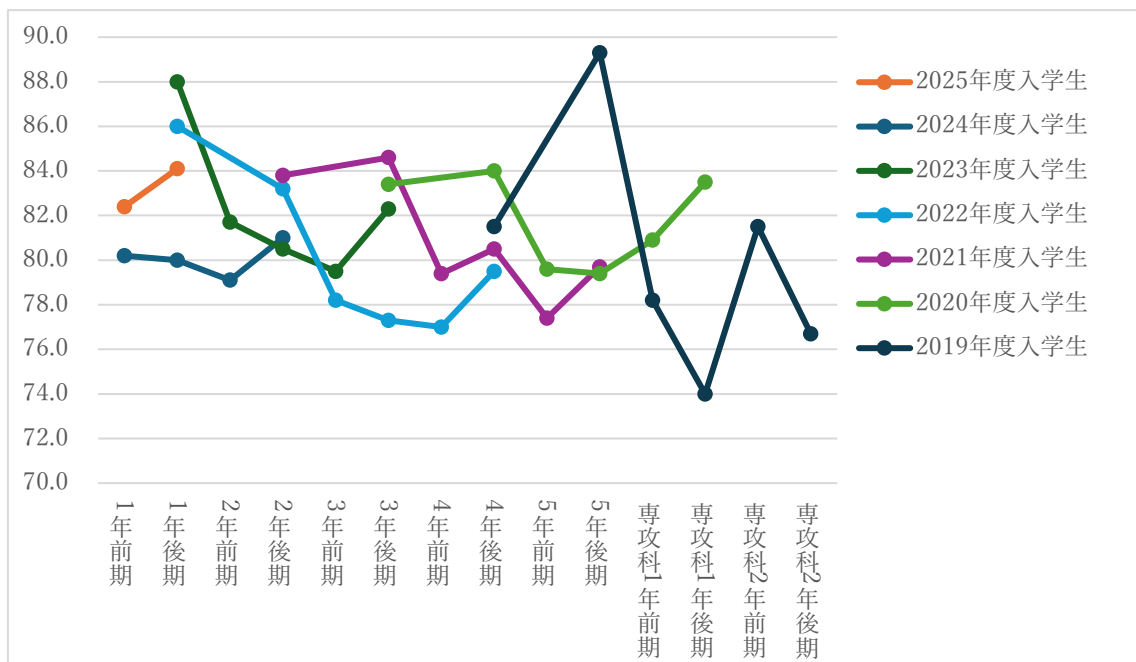
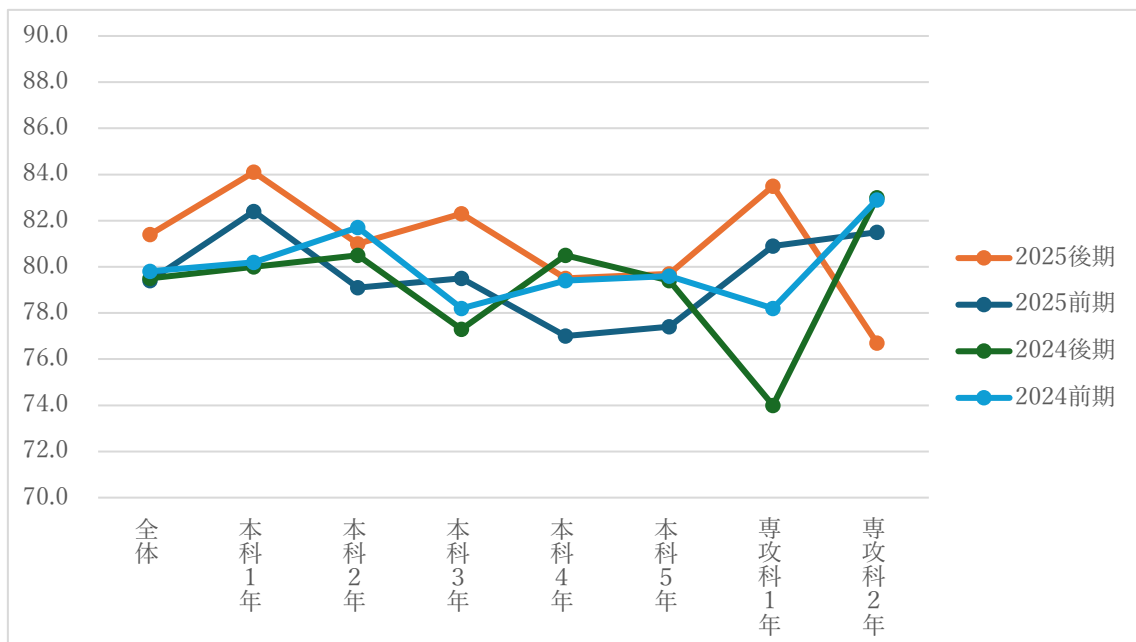
●アンケート回答方法

下記Microsoft Forms (URL)にアクセスし回答します。

※後期に受講した授業科目について回答してください。

回答内容は、担当教員にフィードバックするとともに、教学 IR における基礎データとして教育の質保証、授業改善等に利用しますので、誠意ある回答をお願いします。
履修登録を行ったものの、実際に受講していない科目は回答しないでください。

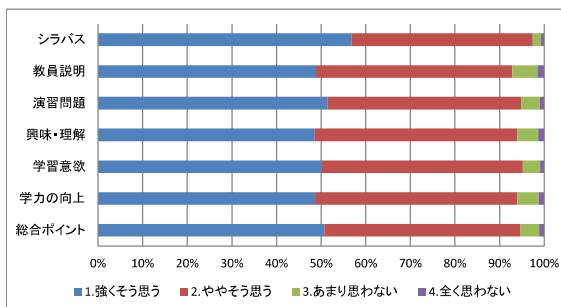
令和7年度後期授業評価アンケート集計結果について(全体・本科)



令和7年度 後期授業評価アンケート

学年 []
 学科 []
 科目 []
 除外科目 []
 全科目

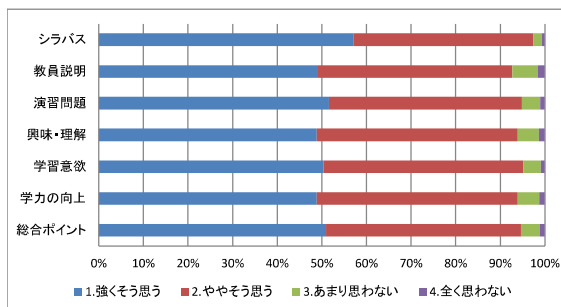
| | 1.強く思う | 2.やや思う | 3.あまり思わない | 4.全く思わない | ポイント |
|--------|--------|--------|-----------|----------|------|
| シラバス | 7002 | 5020 | 234 | 85 | 84.5 |
| 教員説明 | 6046 | 5440 | 703 | 188 | 80.0 |
| 演習問題 | 6370 | 5383 | 515 | 121 | 81.8 |
| 興味・理解 | 6020 | 5627 | 580 | 169 | 80.4 |
| 学習意欲 | 6213 | 5580 | 488 | 110 | 81.5 |
| 学力の向上 | 6030 | 5613 | 587 | 159 | 80.5 |
| 総合ポイント | 37681 | 32663 | 3107 | 832 | 81.4 |



令和7年度 後期授業評価アンケート

学年 [本科]
 学科 []
 科目 []
 除外科目 []
 本科目

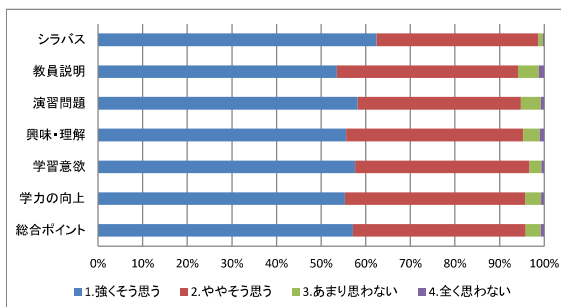
| | 1.強く思う | 2.やや思う | 3.あまり思わない | 4.全く思わない | ポイント |
|--------|--------|--------|-----------|----------|------|
| シラバス | 6787 | 4801 | 222 | 83 | 84.6 |
| 教員説明 | 5834 | 5224 | 687 | 186 | 80.0 |
| 演習問題 | 6158 | 5164 | 498 | 120 | 81.8 |
| 興味・理解 | 5834 | 5389 | 559 | 167 | 80.5 |
| 学習意欲 | 6017 | 5341 | 476 | 108 | 81.5 |
| 学力の向上 | 5839 | 5378 | 568 | 158 | 80.5 |
| 総合ポイント | 36469 | 31297 | 3010 | 822 | 81.5 |



令和7年度 後期授業評価アンケート

学年 [本科1年]
 学科 []
 科目 []
 除外科目 []
 本科1年

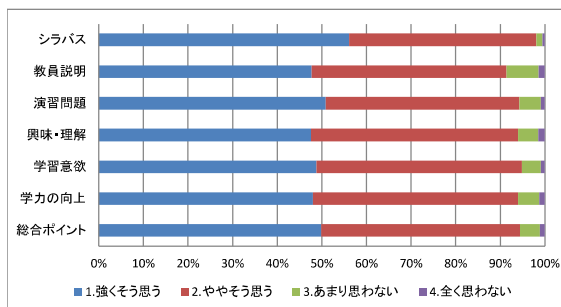
| | 1.強く思う | 2.やや思う | 3.あまり思わない | 4.全く思わない | ポイント |
|--------|--------|--------|-----------|----------|------|
| シラバス | 1565 | 911 | 25 | 7 | 87.0 |
| 教員説明 | 1360 | 1032 | 119 | 30 | 82.2 |
| 演習問題 | 1478 | 929 | 114 | 20 | 84.0 |
| 興味・理解 | 1416 | 1008 | 97 | 24 | 83.3 |
| 学習意欲 | 1466 | 994 | 69 | 15 | 84.6 |
| 学力の向上 | 1408 | 1029 | 92 | 17 | 83.5 |
| 総合ポイント | 8693 | 5903 | 516 | 113 | 84.1 |



令和7年度 後期授業評価アンケート

学年 [本科2年]
 学科 []
 科目 []
 除外科目 []
 本科2年

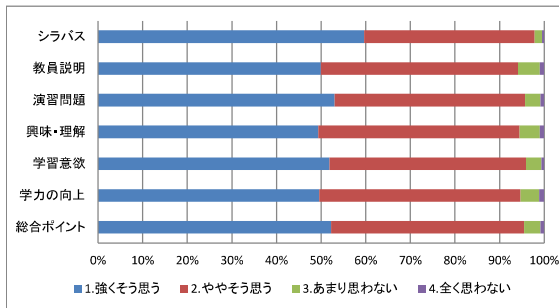
| | 1.強く思う | 2.やや思う | 3.あまり思わない | 4.全く思わない | ポイント |
|--------|--------|--------|-----------|----------|------|
| シラバス | 1458 | 1090 | 36 | 14 | 84.5 |
| 教員説明 | 1243 | 1139 | 187 | 38 | 79.2 |
| 演習問題 | 1328 | 1132 | 127 | 23 | 81.4 |
| 興味・理解 | 1241 | 1212 | 119 | 39 | 80.0 |
| 学習意欲 | 1272 | 1203 | 110 | 24 | 80.9 |
| 学力の向上 | 1253 | 1199 | 123 | 34 | 80.2 |
| 総合ポイント | 7795 | 6975 | 702 | 172 | 81.0 |



令和7年度 後期授業評価アンケート

学年 [本科3年]
 学科 []
 科目 []
 除外科目 []
 本科3年

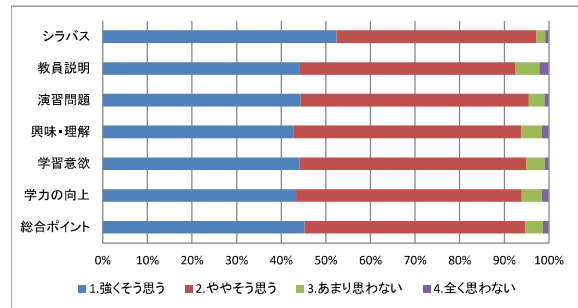
| | 1.強く思う | 2.やや思う | 3.あまり思わない | 4.全く思わない | ポイント |
|--------|--------|--------|-----------|----------|------|
| シラバス | 1628 | 1043 | 45 | 13 | 85.7 |
| 教員説明 | 1361 | 1204 | 133 | 27 | 81.0 |
| 演習問題 | 1446 | 1165 | 95 | 22 | 82.6 |
| 興味・理解 | 1348 | 1230 | 124 | 27 | 81.0 |
| 学習意欲 | 1412 | 1199 | 96 | 16 | 82.4 |
| 学力の向上 | 1352 | 1230 | 115 | 30 | 81.0 |
| 総合ポイント | 8547 | 7071 | 608 | 135 | 82.3 |



令和7年度 後期授業評価アンケート

学年 [本科4年]
 学科 []
 科目 []
 除外科目 []
 本科4年

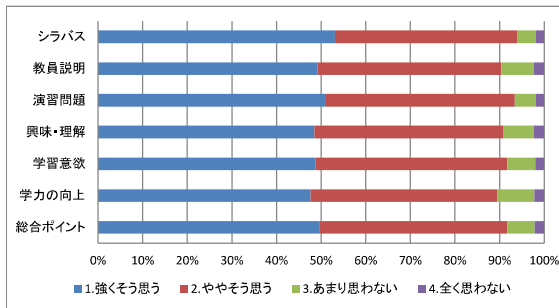
| | 1.強く思う | 2.やや思う | 3.あまり思わない | 4.全く思わない | ポイント |
|--------|--------|--------|-----------|----------|------|
| シラバス | 1317 | 1127 | 51 | 20 | 82.9 |
| 教員説明 | 1106 | 1208 | 136 | 54 | 78.1 |
| 演習問題 | 1113 | 1282 | 89 | 25 | 79.6 |
| 興味・理解 | 1076 | 1281 | 115 | 40 | 78.4 |
| 学習意欲 | 1109 | 1278 | 104 | 22 | 79.4 |
| 学力の向上 | 1087 | 1270 | 111 | 42 | 78.5 |
| 総合ポイント | 6808 | 7446 | 606 | 203 | 79.5 |



令和7年度 後期授業評価アンケート

学年 [本科5年]
 学科 []
 科目 []
 除外科目 []
 本科5年

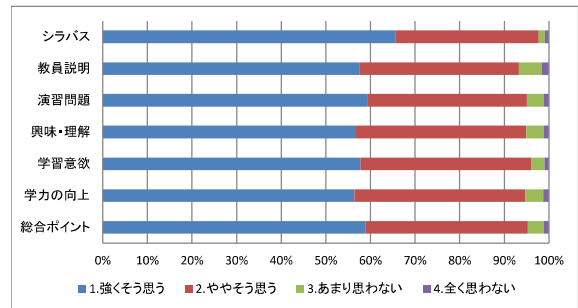
| | 1.強く思う | 2.やや思う | 3.あまり思わない | 4.全く思わない | ポイント |
|--------|--------|--------|-----------|----------|------|
| シラバス | 819 | 630 | 65 | 29 | 81.7 |
| 教員説明 | 764 | 641 | 112 | 37 | 79.1 |
| 演習問題 | 793 | 656 | 73 | 30 | 80.8 |
| 興味・理解 | 753 | 658 | 104 | 37 | 79.0 |
| 学習意欲 | 758 | 667 | 97 | 31 | 79.5 |
| 学力の向上 | 739 | 650 | 127 | 35 | 78.3 |
| 総合ポイント | 4626 | 3902 | 578 | 199 | 79.7 |



令和7年度 後期授業評価アンケート

学年 []
 学科 [機械工学科]
 科目 []
 除外科目 []
 機械工学科

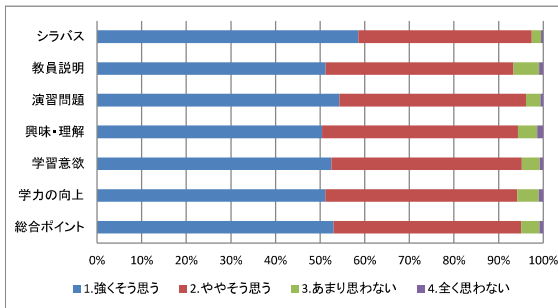
| | 1.強く思う | 2.やや思う | 3.あまり思わない | 4.全く思わない | ポイント |
|--------|--------|--------|-----------|----------|------|
| シラバス | 1252 | 612 | 27 | 17 | 87.5 |
| 教員説明 | 1102 | 687 | 99 | 30 | 83.1 |
| 演習問題 | 1140 | 683 | 71 | 24 | 84.4 |
| 興味・理解 | 1087 | 738 | 75 | 23 | 83.4 |
| 学習意欲 | 1107 | 732 | 59 | 18 | 84.3 |
| 学力の向上 | 1081 | 734 | 77 | 25 | 83.3 |
| 総合ポイント | 6769 | 4186 | 408 | 137 | 84.3 |



令和7年度 後期授業評価アンケート

学年 []
 学科 [電気電子工学科]
 科目 []
 除外科目 []
 電気電子工学科

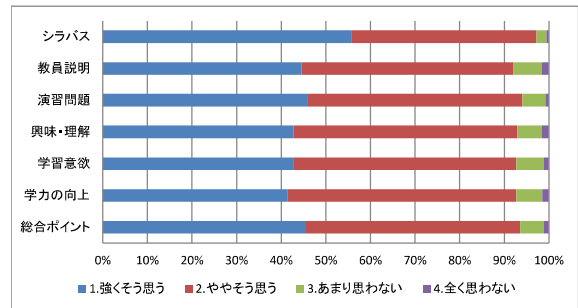
| | 1.強く思う | 2.やや思う | 3.あまり思わない | 4.全く思わない | ポイント |
|--------|--------|--------|-----------|----------|------|
| シラバス | 1130 | 750 | 41 | 9 | 85.2 |
| 教員説明 | 988 | 811 | 112 | 17 | 81.2 |
| 演習問題 | 1050 | 808 | 63 | 12 | 83.3 |
| 興味・理解 | 975 | 848 | 84 | 26 | 81.1 |
| 学習意欲 | 1014 | 824 | 78 | 15 | 82.3 |
| 学力の向上 | 988 | 831 | 94 | 19 | 81.4 |
| 総合ポイント | 6145 | 4872 | 472 | 98 | 82.4 |



令和7年度 後期授業評価アンケート

学年 []
 学科 [電子情報工学科]
 科目 []
 除外科目 []
 電子情報工学科

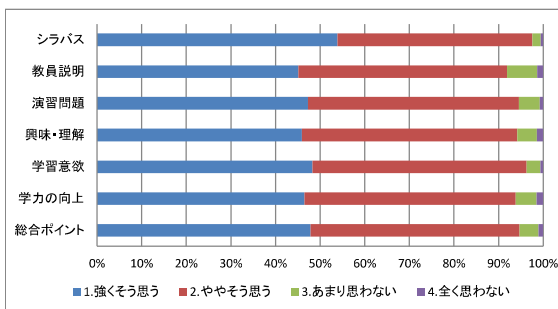
| | 1.強く思う | 2.やや思う | 3.あまり思わない | 4.全く思わない | ポイント |
|--------|--------|--------|-----------|----------|------|
| シラバス | 1069 | 793 | 43 | 10 | 84.2 |
| 教員説明 | 855 | 911 | 123 | 31 | 78.3 |
| 演習問題 | 882 | 922 | 101 | 14 | 79.8 |
| 興味・理解 | 821 | 962 | 107 | 30 | 78.0 |
| 学習意欲 | 820 | 961 | 120 | 21 | 78.1 |
| 学力の向上 | 797 | 984 | 111 | 29 | 77.6 |
| 総合ポイント | 5244 | 5533 | 605 | 135 | 79.3 |



令和7年度 後期授業評価アンケート

学年 []
 学科 [物質工学科]
 科目 []
 除外科目 []
 物質工学科

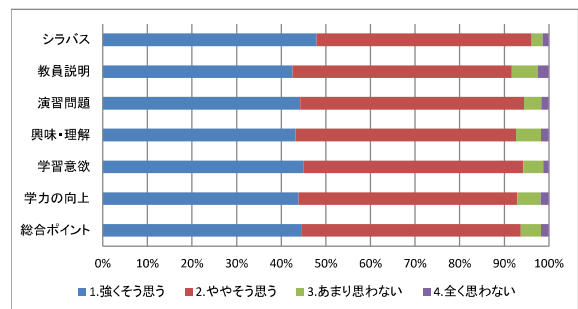
| | 1.強く思う | 2.やや思う | 3.あまり思わない | 4.全く思わない | ポイント |
|--------|--------|--------|-----------|----------|------|
| シラバス | 1008 | 817 | 35 | 10 | 83.7 |
| 教員説明 | 843 | 872 | 127 | 25 | 78.6 |
| 演習問題 | 883 | 882 | 88 | 14 | 80.4 |
| 興味・理解 | 858 | 903 | 81 | 27 | 79.6 |
| 学習意欲 | 902 | 897 | 58 | 12 | 81.3 |
| 学力の向上 | 870 | 884 | 88 | 28 | 79.6 |
| 総合ポイント | 5364 | 5255 | 477 | 116 | 80.5 |



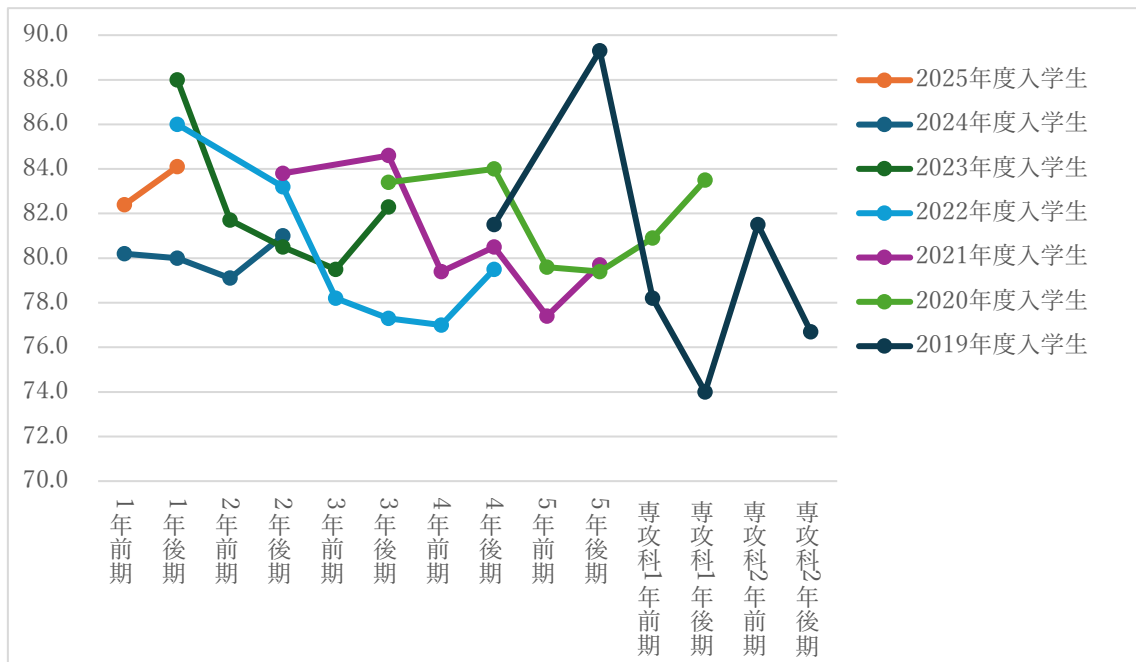
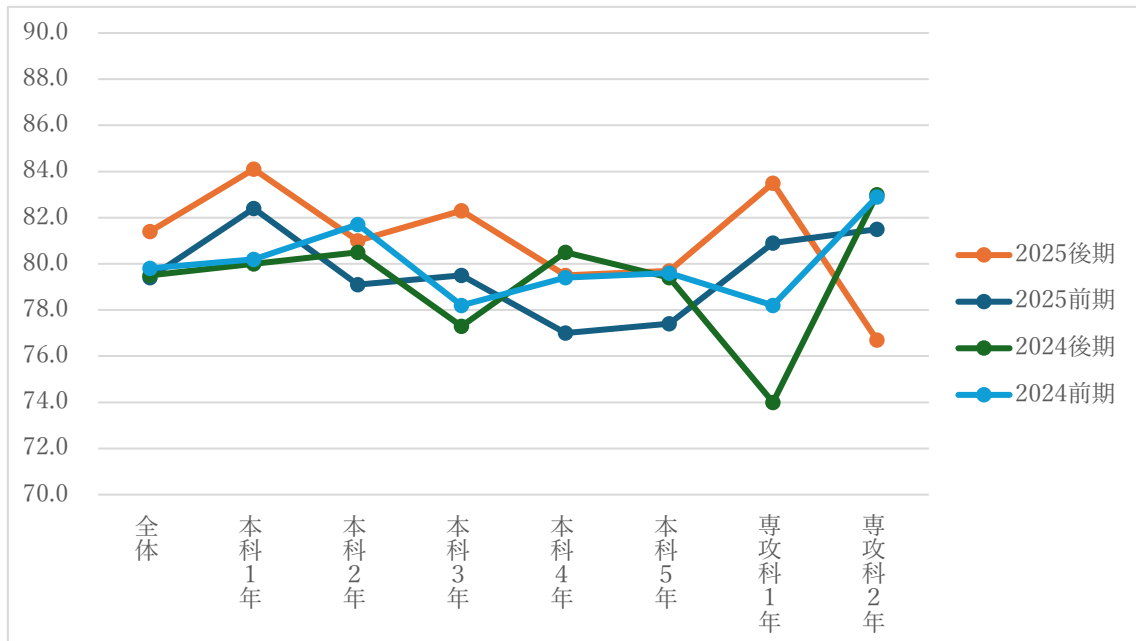
令和7年度 後期授業評価アンケート

学年 []
 学科 [環境都市工学科]
 科目 []
 除外科目 []
 環境都市工学科

| | 1.強く思う | 2.やや思う | 3.あまり思わない | 4.全く思わない | ポイント |
|--------|--------|--------|-----------|----------|------|
| シラバス | 1056 | 1063 | 55 | 31 | 80.9 |
| 教員説明 | 937 | 1084 | 127 | 56 | 77.2 |
| 演習問題 | 979 | 1107 | 86 | 38 | 79.0 |
| 興味・理解 | 954 | 1091 | 124 | 39 | 78.0 |
| 学習意欲 | 995 | 1087 | 98 | 28 | 79.4 |
| 学力の向上 | 968 | 1082 | 115 | 41 | 78.3 |
| 総合ポイント | 5889 | 6514 | 605 | 233 | 78.8 |



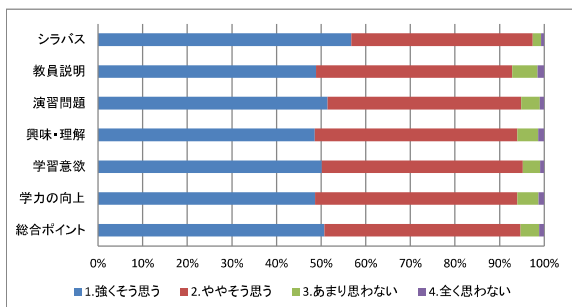
令和7年度後期授業評価アンケート集計結果について(全体・専攻科)



令和7年度 後期授業評価アンケート

学年 []
 学科 []
 科目 []
 除外科目 []
 全科目

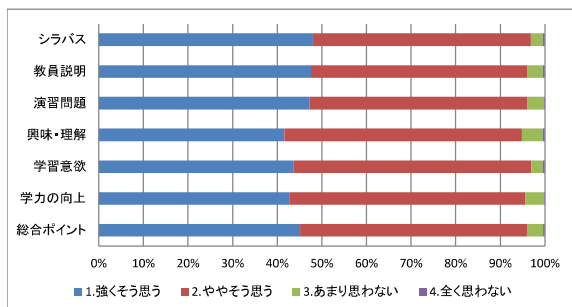
| | 1.強く思う | 2.やや思う | 3.あまり思わない | 4.全く思わない | ポイント |
|--------|--------|--------|-----------|----------|------|
| シラバス | 7002 | 5020 | 234 | 85 | 84.5 |
| 教員説明 | 6046 | 5440 | 703 | 188 | 80.0 |
| 演習問題 | 6370 | 5383 | 515 | 121 | 81.8 |
| 興味・理解 | 6020 | 5627 | 580 | 169 | 80.4 |
| 学習意欲 | 6213 | 5580 | 488 | 110 | 81.5 |
| 学力の向上 | 6030 | 5613 | 587 | 159 | 80.5 |
| 総合ポイント | 37681 | 32663 | 3107 | 832 | 81.4 |



令和7年度 後期授業評価アンケート

学年 [専攻科]
 学科 []
 科目 []
 除外科目 []
 専攻科

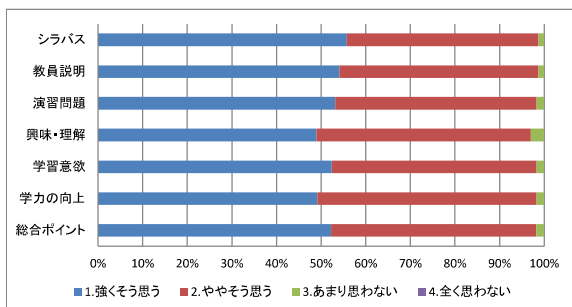
| | 1.強く思う | 2.やや思う | 3.あまり思わない | 4.全く思わない | ポイント |
|--------|--------|--------|-----------|----------|------|
| シラバス | 215 | 219 | 12 | 2 | 81.5 |
| 教員説明 | 212 | 216 | 16 | 2 | 81.0 |
| 演習問題 | 212 | 219 | 17 | 1 | 81.0 |
| 興味・理解 | 186 | 238 | 21 | 2 | 78.7 |
| 学習意欲 | 196 | 239 | 12 | 2 | 80.0 |
| 学力の向上 | 191 | 235 | 19 | 1 | 79.4 |
| 総合ポイント | 1212 | 1366 | 97 | 10 | 80.3 |



令和7年度 後期授業評価アンケート

学年 [専攻科1年]
 学科 []
 科目 []
 除外科目 []
 専攻科1年

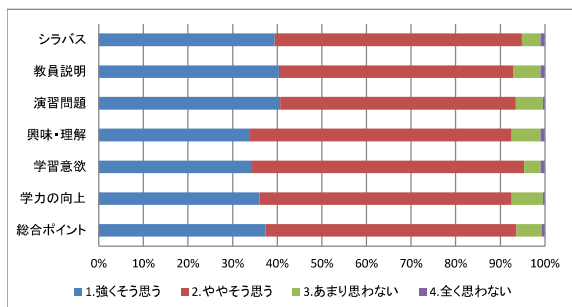
| | 1.強く思う | 2.やや思う | 3.あまり思わない | 4.全く思わない | ポイント |
|--------|--------|--------|-----------|----------|------|
| シラバス | 131 | 101 | 3 | 0 | 84.8 |
| 教員説明 | 126 | 104 | 3 | 0 | 84.3 |
| 演習問題 | 125 | 106 | 4 | 0 | 83.8 |
| 興味・理解 | 114 | 112 | 7 | 0 | 82.0 |
| 学習意欲 | 123 | 108 | 4 | 0 | 83.5 |
| 学力の向上 | 114 | 114 | 4 | 0 | 82.5 |
| 総合ポイント | 733 | 645 | 25 | 0 | 83.5 |



令和7年度 後期授業評価アンケート

学年 [専攻科2年]
 学科 []
 科目 []
 除外科目 []
 専攻科2年

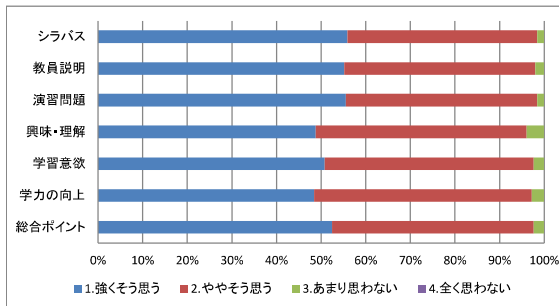
| | 1.強く思う | 2.やや思う | 3.あまり思わない | 4.全く思わない | ポイント |
|--------|--------|--------|-----------|----------|------|
| シラバス | 84 | 118 | 9 | 0 | 77.8 |
| 教員説明 | 86 | 112 | 13 | 0 | 77.5 |
| 演習問題 | 87 | 113 | 13 | 0 | 77.9 |
| 興味・理解 | 72 | 126 | 14 | 0 | 75.1 |
| 学習意欲 | 73 | 131 | 8 | 0 | 76.2 |
| 学力の向上 | 77 | 121 | 15 | 0 | 76.0 |
| 総合ポイント | 479 | 721 | 72 | 0 | 76.7 |



令和7年度 後期授業評価アンケート

学年 []
 学科 [生産システム工学]
 科目 []
 除外科目 []
 生産システム工学

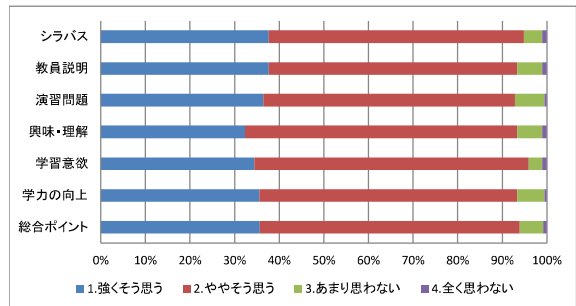
| | 1.強く思う | 2.やや思う | 3.あまり思わない | 4.全く思わない | ポイント |
|--------|--------|--------|-----------|----------|------|
| シラバス | 142 | 108 | 4 | 0 | 84.8 |
| 教員説明 | 139 | 108 | 5 | 0 | 84.4 |
| 演習問題 | 141 | 109 | 4 | 0 | 84.7 |
| 興味・理解 | 123 | 119 | 10 | 0 | 81.6 |
| 学習意欲 | 129 | 119 | 6 | 0 | 82.8 |
| 学力の向上 | 122 | 123 | 7 | 0 | 81.9 |
| 総合ポイント | 796 | 686 | 36 | 0 | 83.4 |



令和7年度 後期授業評価アンケート

学年 []
 学科 [環境システム工学]
 科目 []
 除外科目 []
 環境システム工学

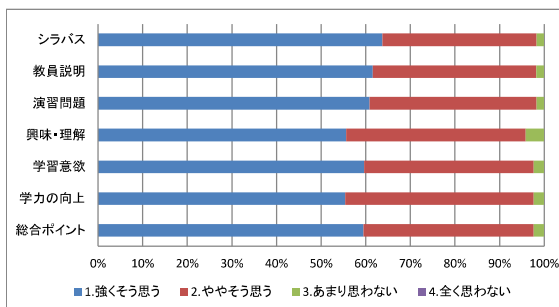
| | 1.強く思う | 2.やや思う | 3.あまり思わない | 4.全く思わない | ポイント |
|--------|--------|--------|-----------|----------|------|
| シラバス | 73 | 111 | 8 | 0 | 77.2 |
| 教員説明 | 73 | 108 | 11 | 0 | 76.6 |
| 演習問題 | 71 | 110 | 13 | 0 | 76.2 |
| 興味・理解 | 63 | 119 | 11 | 0 | 74.9 |
| 学習意欲 | 67 | 120 | 6 | 0 | 76.4 |
| 学力の向上 | 69 | 112 | 12 | 0 | 76.1 |
| 総合ポイント | 416 | 680 | 61 | 0 | 76.2 |



令和7年度 後期授業評価アンケート

学年 [専攻科1年]
 学科 [生産システム工学]
 科目 []
 除外科目 []
 1PS

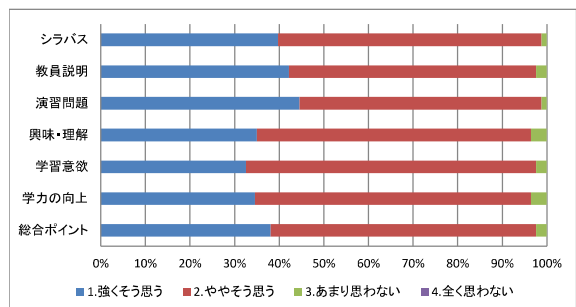
| | 1.強く思う | 2.やや思う | 3.あまり思わない | 4.全く思わない | ポイント |
|--------|--------|--------|-----------|----------|------|
| シラバス | 109 | 59 | 3 | 0 | 87.3 |
| 教員説明 | 104 | 62 | 3 | 0 | 86.6 |
| 演習問題 | 104 | 64 | 3 | 0 | 86.3 |
| 興味・理解 | 94 | 68 | 7 | 0 | 83.8 |
| 学習意欲 | 102 | 65 | 4 | 0 | 85.8 |
| 学力の向上 | 93 | 71 | 4 | 0 | 84.3 |
| 総合ポイント | 606 | 389 | 24 | 0 | 85.7 |



令和7年度 後期授業評価アンケート

学年 [専攻科2年]
 学科 [生産システム工学]
 科目 []
 除外科目 []
 2PS

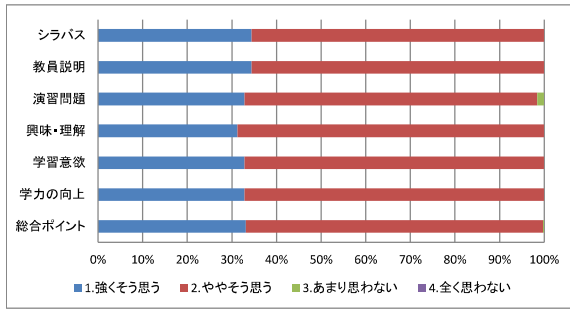
| | 1.強く思う | 2.やや思う | 3.あまり思わない | 4.全く思わない | ポイント |
|--------|--------|--------|-----------|----------|------|
| シラバス | 33 | 49 | 1 | 0 | 79.5 |
| 教員説明 | 35 | 46 | 2 | 0 | 79.9 |
| 演習問題 | 37 | 45 | 1 | 0 | 81.1 |
| 興味・理解 | 29 | 51 | 3 | 0 | 77.1 |
| 学習意欲 | 27 | 54 | 2 | 0 | 76.7 |
| 学力の向上 | 29 | 52 | 3 | 0 | 77.0 |
| 総合ポイント | 190 | 297 | 12 | 0 | 78.6 |



令和7年度 後期授業評価アンケート

学年 [専攻科1年]
 学科 [環境システム工学]
 科目 []
 除外科目 []
 1ES

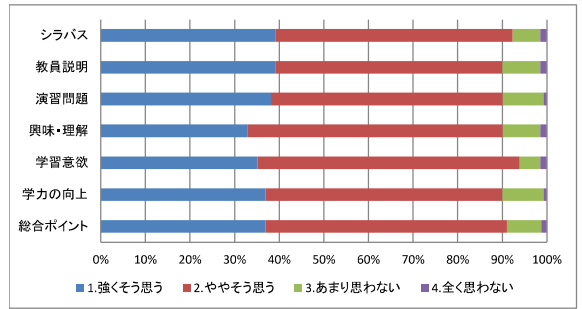
| | 1.強く思う | 2.やや思う | 3.あまり思わない | 4.全く思わない | ポイント |
|--------|--------|--------|-----------|----------|------|
| シラバス | 22 | 42 | 0 | 0 | 78.1 |
| 教員説明 | 22 | 42 | 0 | 0 | 78.1 |
| 演習問題 | 21 | 42 | 1 | 0 | 77.1 |
| 興味・理解 | 20 | 44 | 0 | 0 | 77.1 |
| 学習意欲 | 21 | 43 | 0 | 0 | 77.6 |
| 学力の向上 | 21 | 43 | 0 | 0 | 77.6 |
| 総合ポイント | 127 | 256 | 1 | 0 | 77.6 |



令和7年度 後期授業評価アンケート

学年 [専攻科2年]
 学科 [環境システム工学]
 科目 []
 除外科目 []
 2ES

| | 1.強く思う | 2.やや思う | 3.あまり思わない | 4.全く思わない | ポイント |
|--------|--------|--------|-----------|----------|------|
| シラバス | 51 | 69 | 8 | 2 | 76.7 |
| 教員説明 | 51 | 66 | 11 | 2 | 75.9 |
| 演習問題 | 50 | 68 | 12 | 1 | 75.8 |
| 興味・理解 | 43 | 75 | 11 | 2 | 73.8 |
| 学習意欲 | 46 | 77 | 6 | 2 | 75.8 |
| 学力の向上 | 48 | 69 | 12 | 1 | 75.4 |
| 総合ポイント | 289 | 424 | 60 | 10 | 75.6 |



令和7年度「高専での学びの状況」に関するアンケート集計結果について

対 象：本科・専攻科全学生

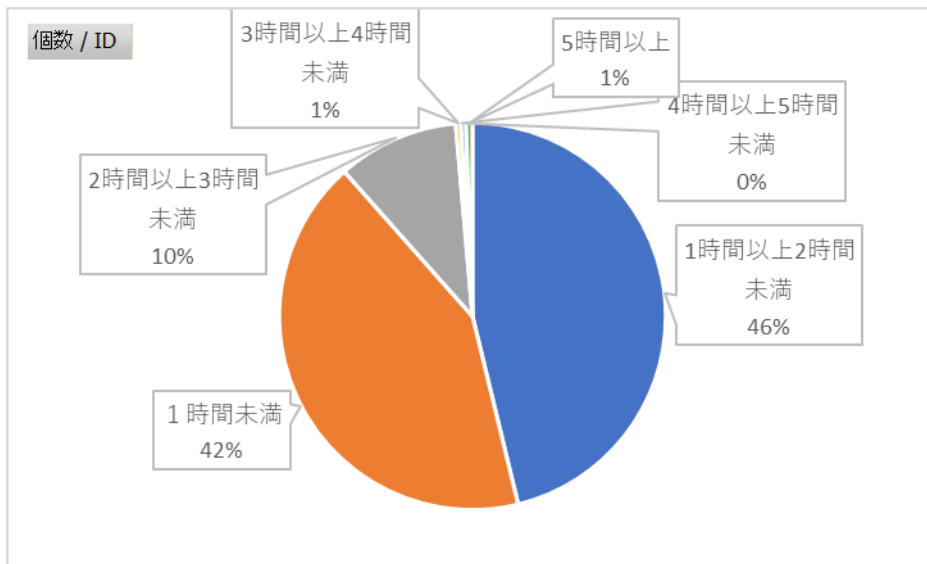
実施期間：令和7年10月1日～10月17日

回答率：90.6%（935名/1032名中） ※全高専回答率63.2%

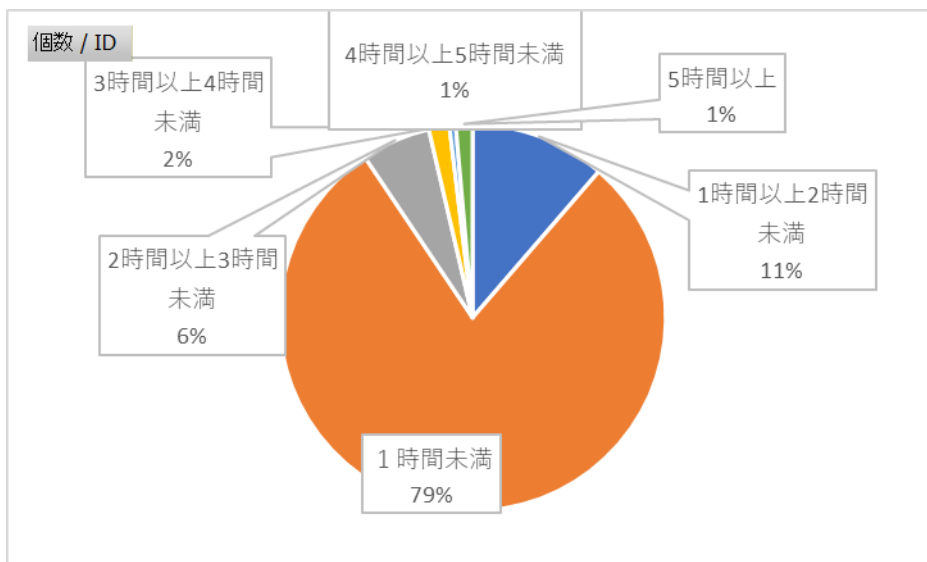
質問項目：

授業期間中（長期休暇や試験期間を除く）の「平均的な平日」の授業時間以外の活動について、1日の活動時間の内、最も近い項目を選んでください。

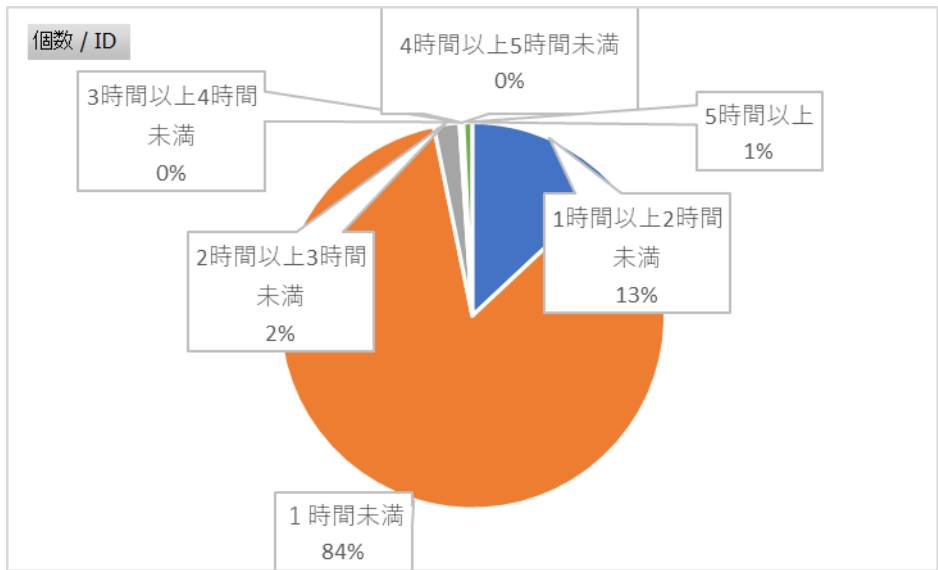
【授業にかかわる学習活動（予習復習、レポート課題等の作業も含む）】



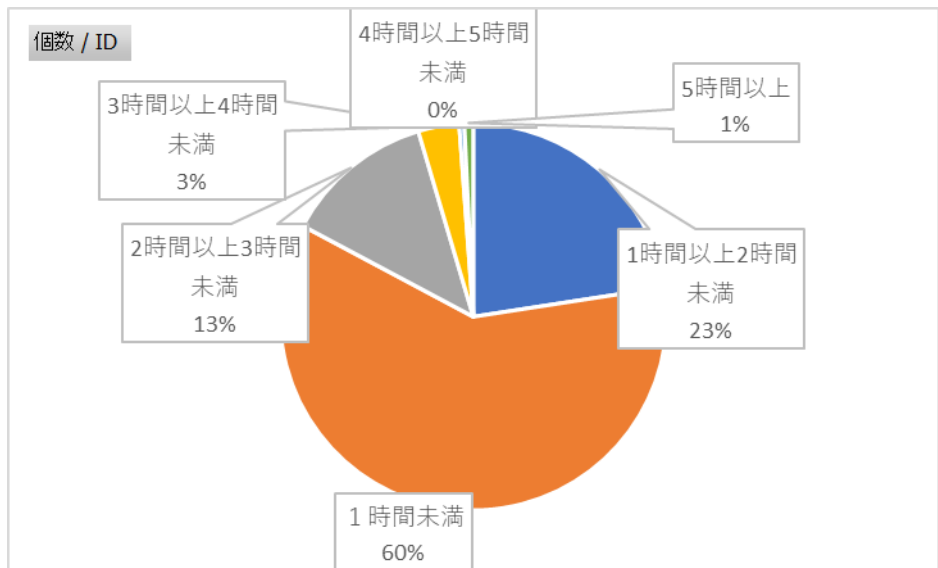
【研究活動（卒業研究や特別研究）】



【授業に直接関わらない学習活動（資格取得等）】

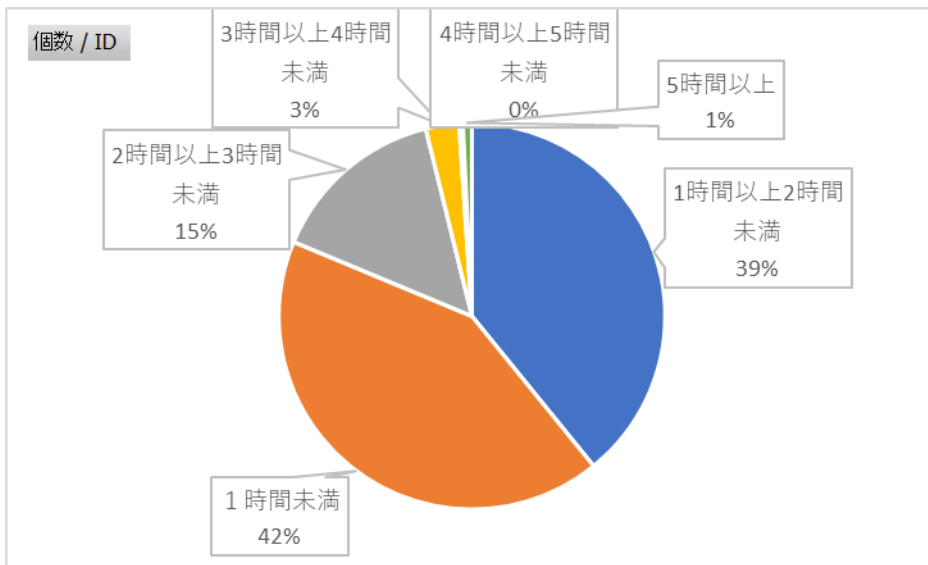


【課外活動（クラブや部活等）】

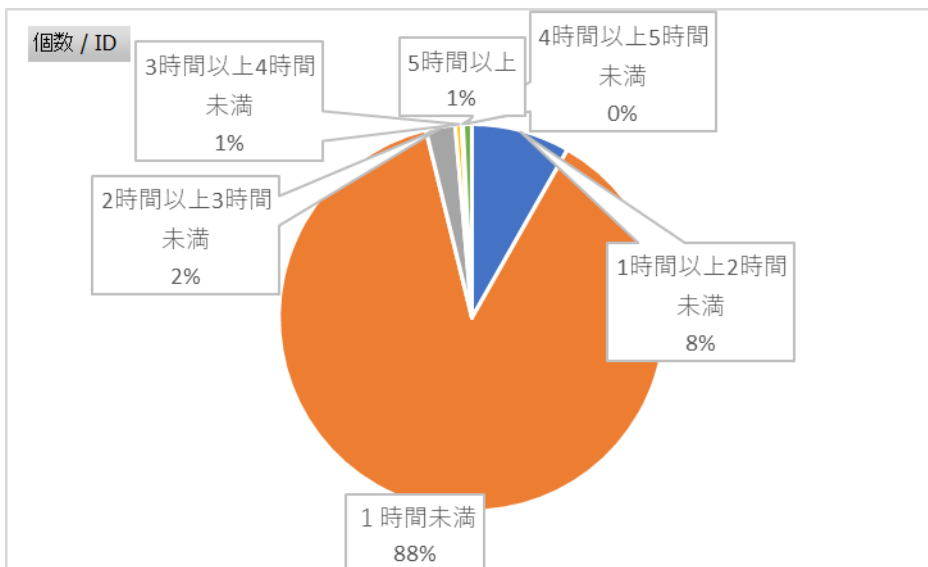


授業期間中（長期休暇や試験期間を除く）の「平均的な休日（土日祝日等）」の授業時間以外の活動について、1日の活動時間の内、最も近い項目を選んでください。

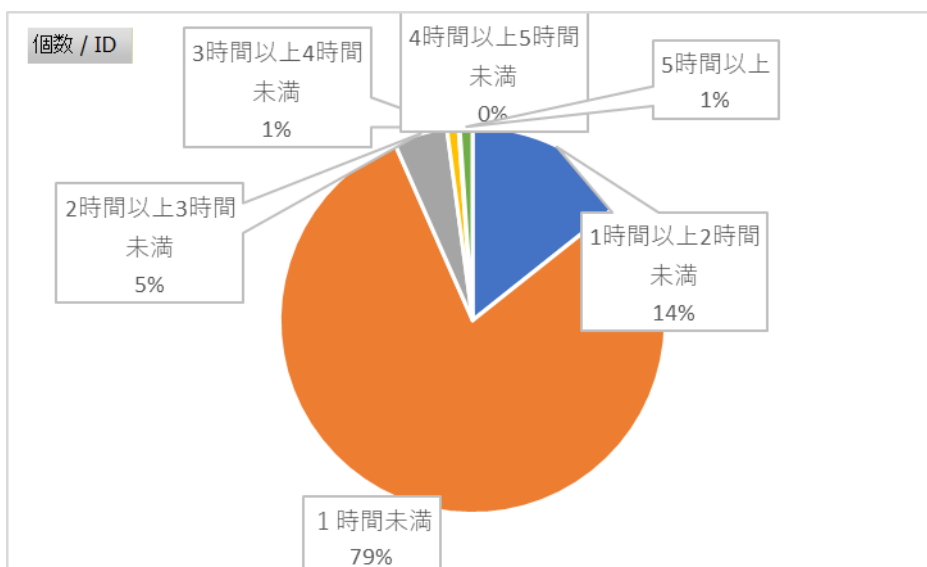
【授業にかかわる学習活動（予習復習，レポート課題等の作業も含む）】



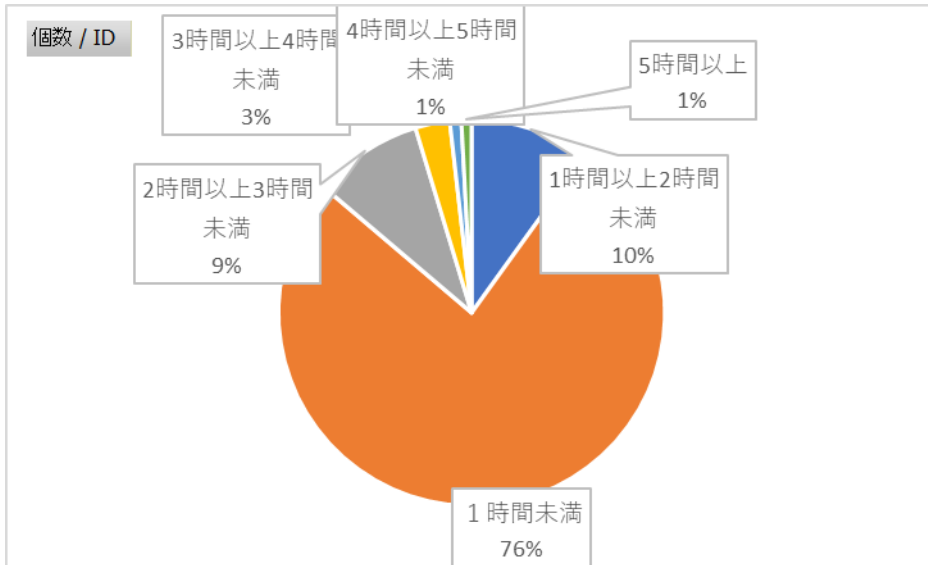
【研究活動（卒業研究や特別研究）】



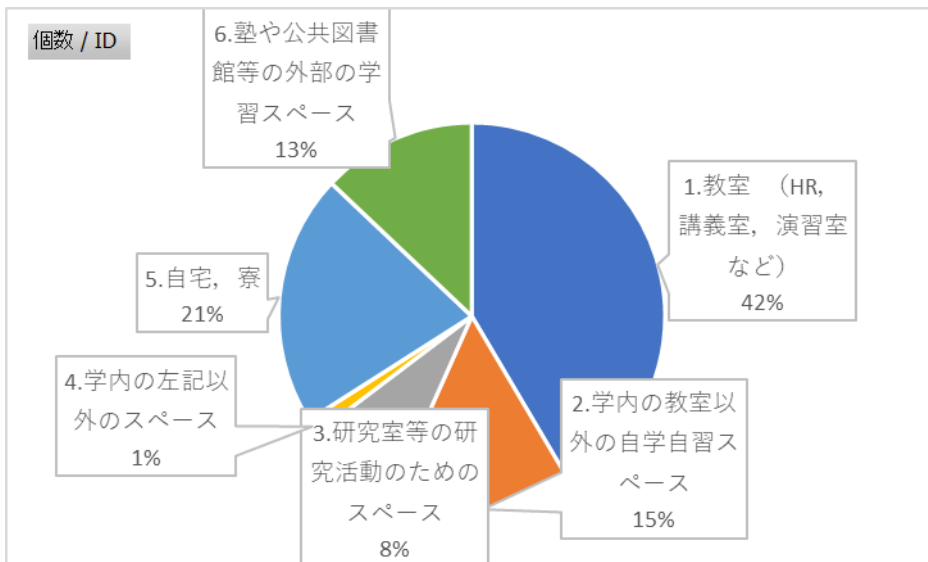
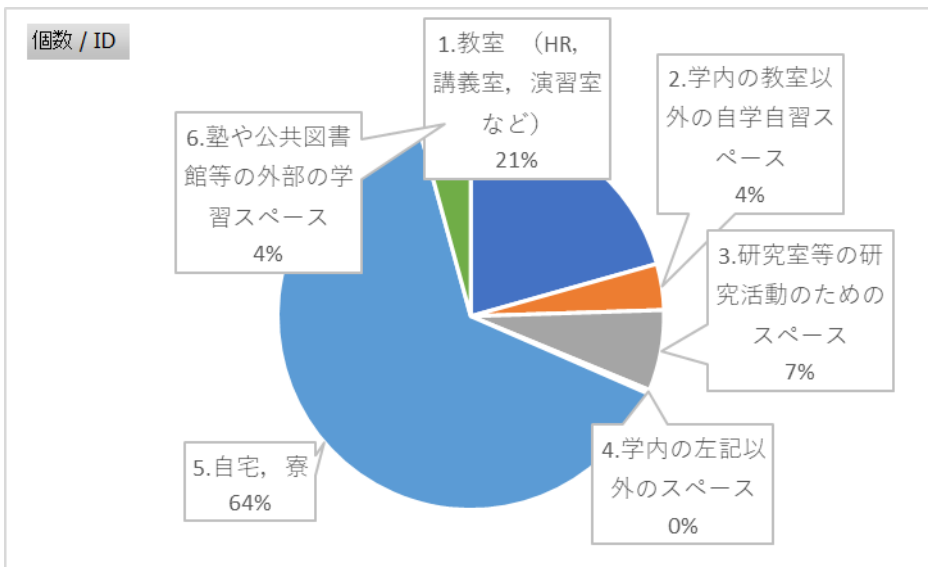
【授業に直接関わらない学習活動（資格取得等）】



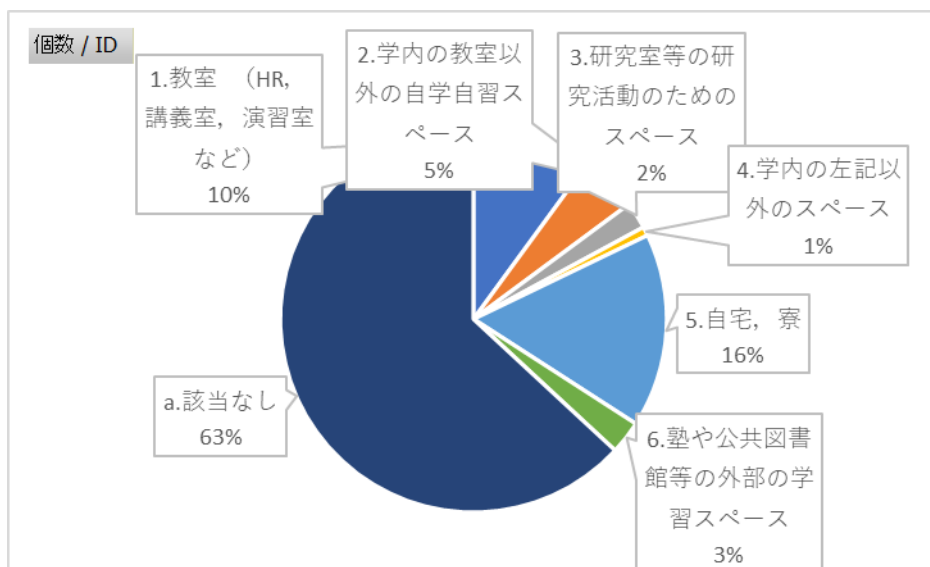
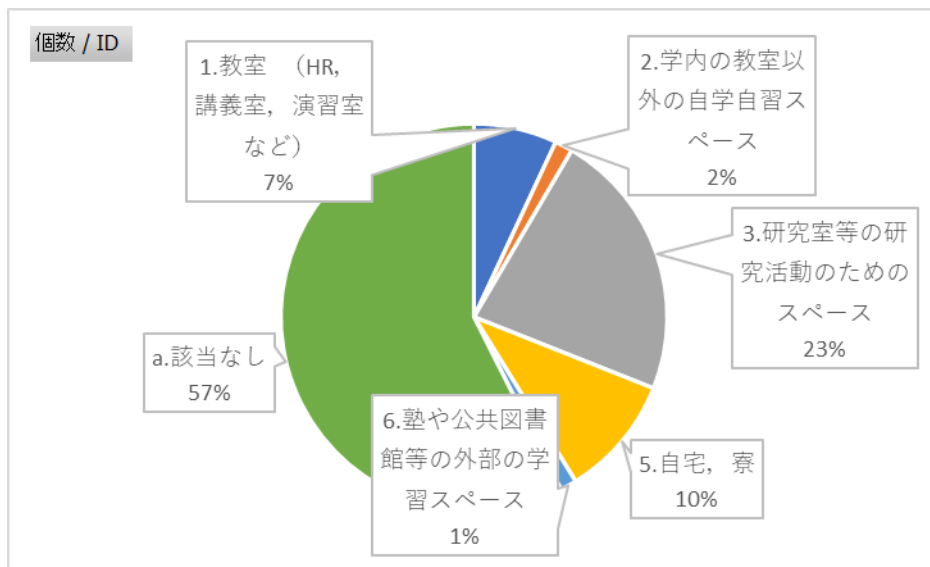
【課外活動（クラブや部活等）】



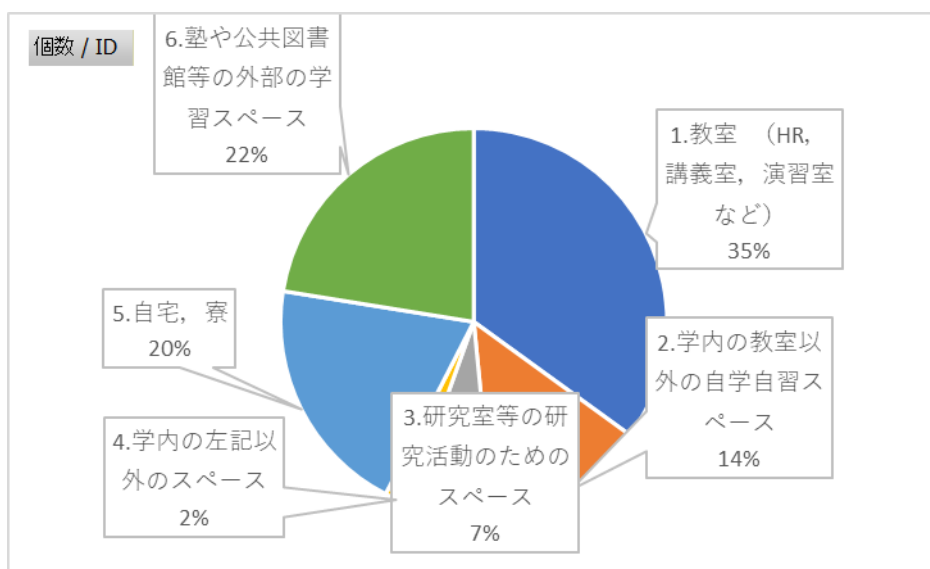
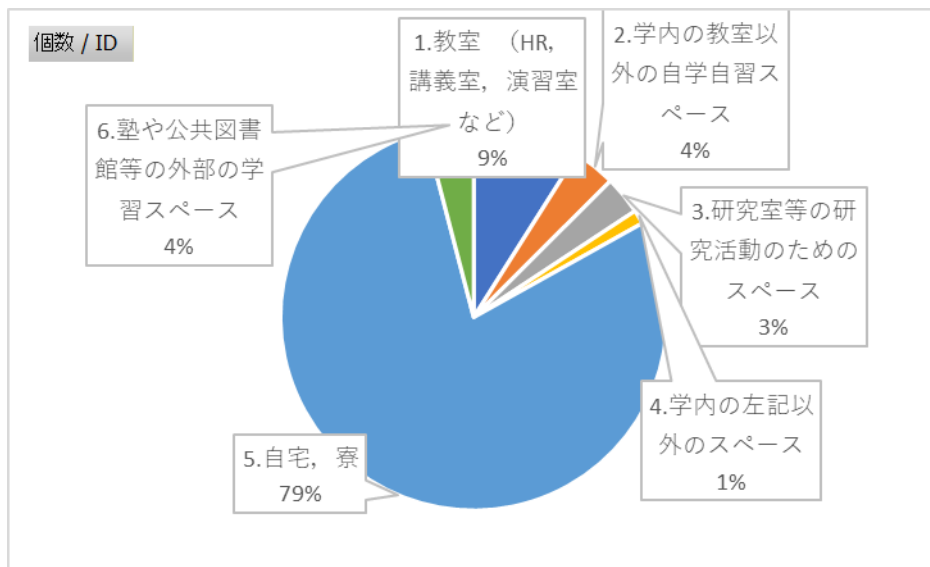
授業にかかわる学習活動（予習復習，レポート課題等の作業も含む）は，主にどこで行なっていますか。上位2か所に当てはまるものを選択してください。（1位、2位）



研究活動（卒業研究や特別研究）は、主にどこで行なっていますか。上位2か所に当てはまるものを選択してください。（1位、2位）



授業に直接関わらない学習活動（資格取得等）は、主にどこで行なっていますか。上位2か所に当てはまるものを選択してください。（左が1位、右が2位）



高専生活を振り返って、下記項目ごとの高専の満足度を5段階で評価してください。ただし、専攻科の場合は専攻科課程について評価してください。

【高専満足度-1】

(一般科目の授業／専門科目の授業／実験実習等)

【高専満足度-2】

(卒業研究や特別研究等での研究指導／就職・進学に関する指導や支援)

【高専満足度-3】

(授業外の学習支援／クラブ活動や課外での活動／学生生活の指導や支援／寮での指導や支援)

【高専満足度-4】

(学習環境・設備／図書館／ICT を活用した学習環境／福利厚生施設／実験・実習工場)

【自分自身の達成感】

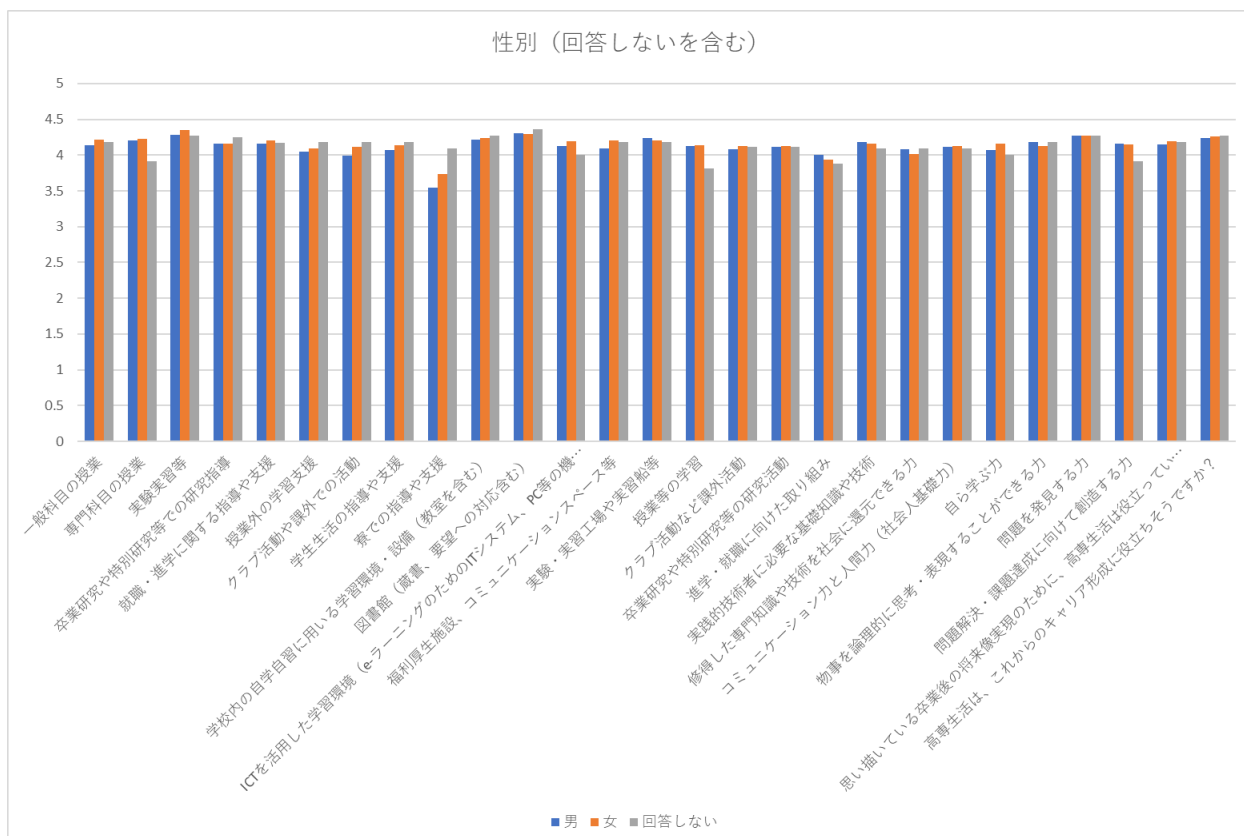
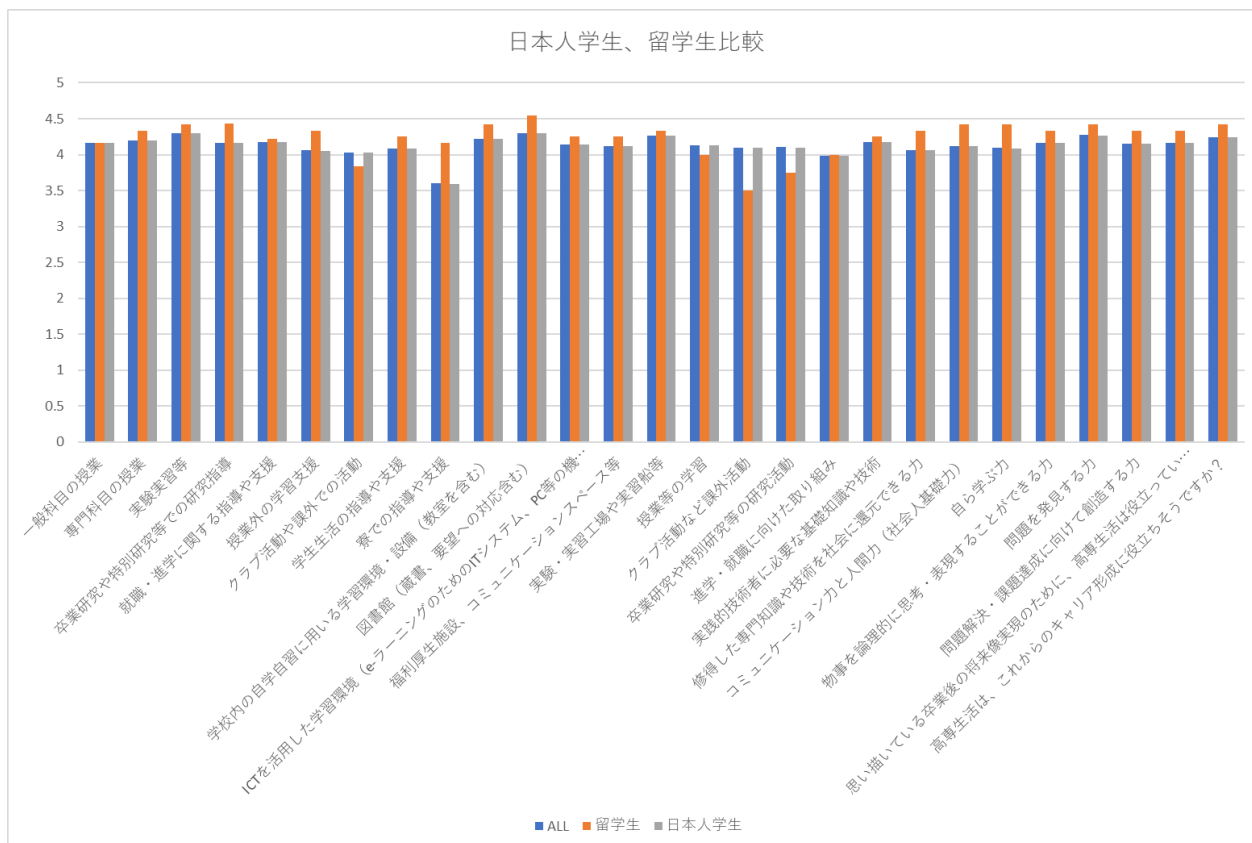
(授業等の学習／課外活動／研究活動／進学・就職に向けた取り組み)

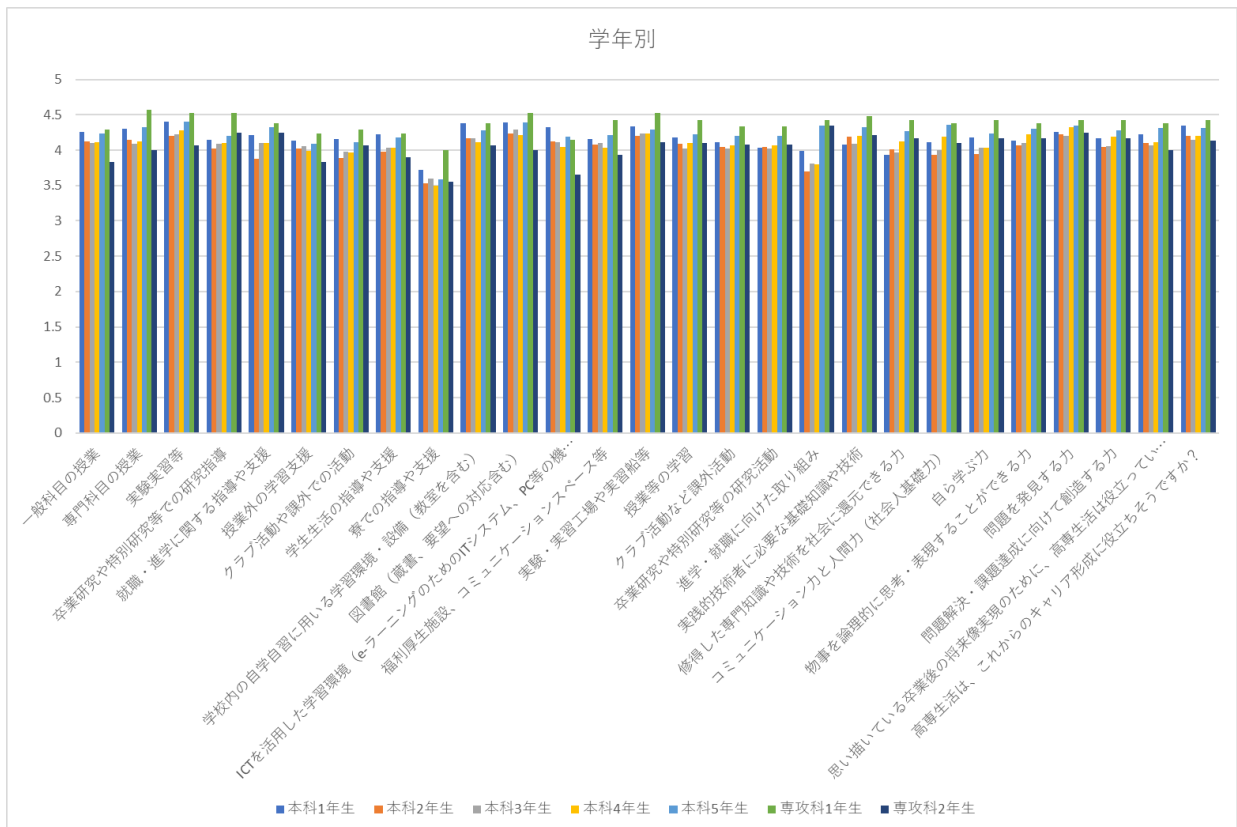
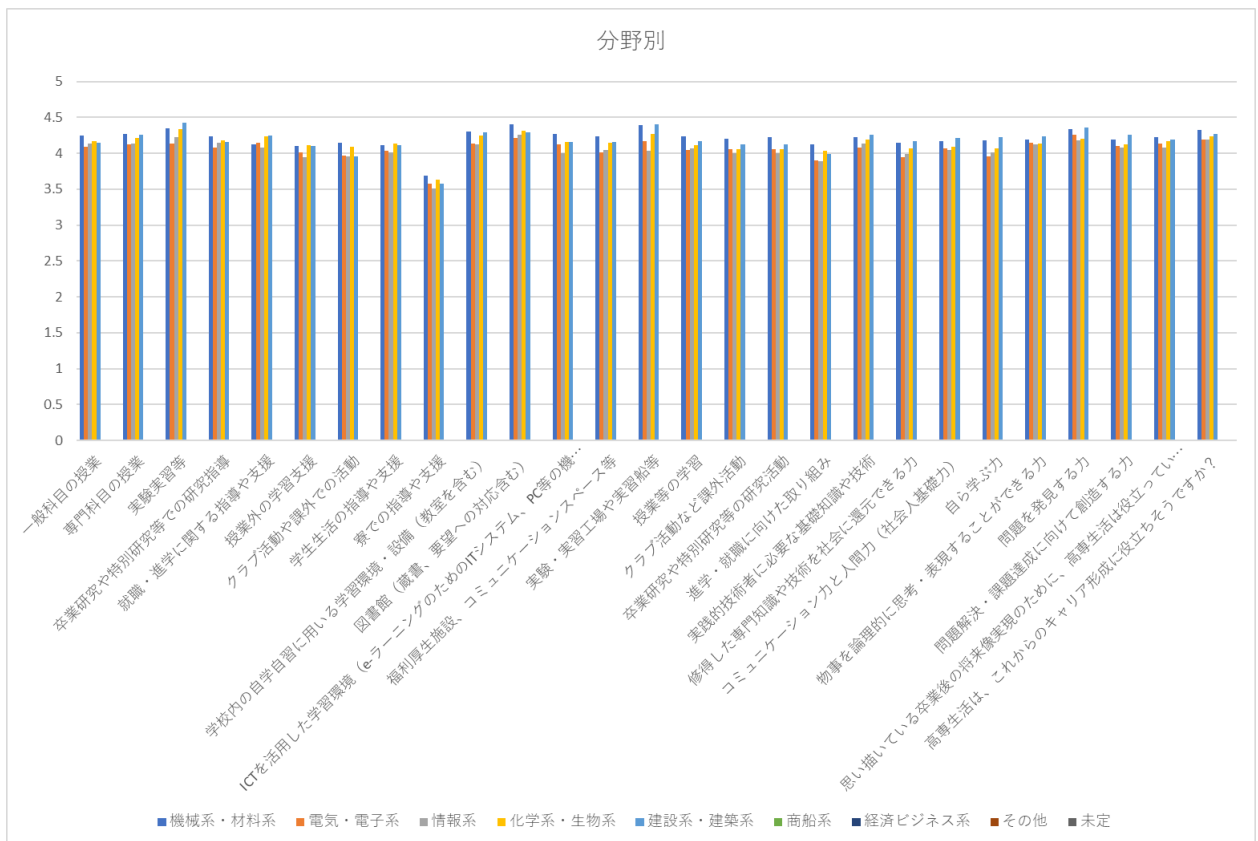
【自分自身の成長実感】

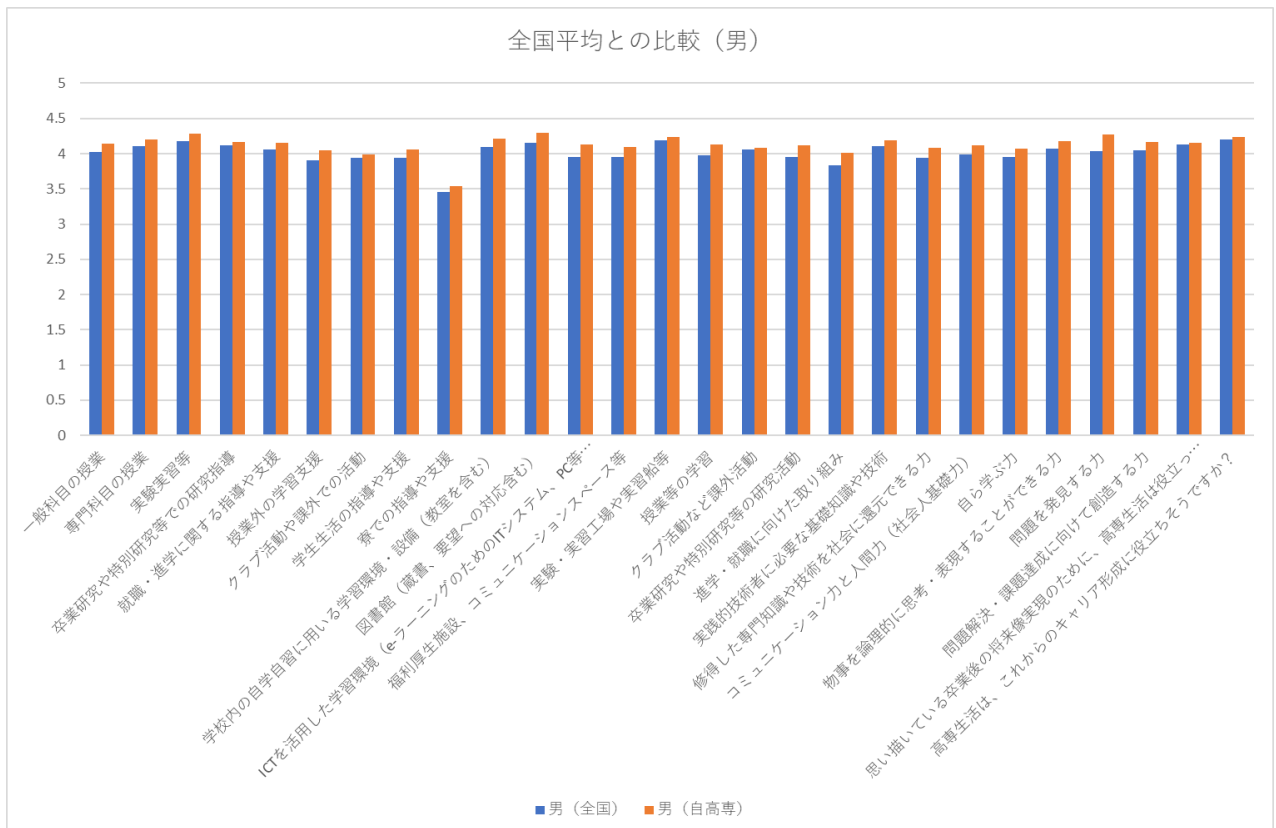
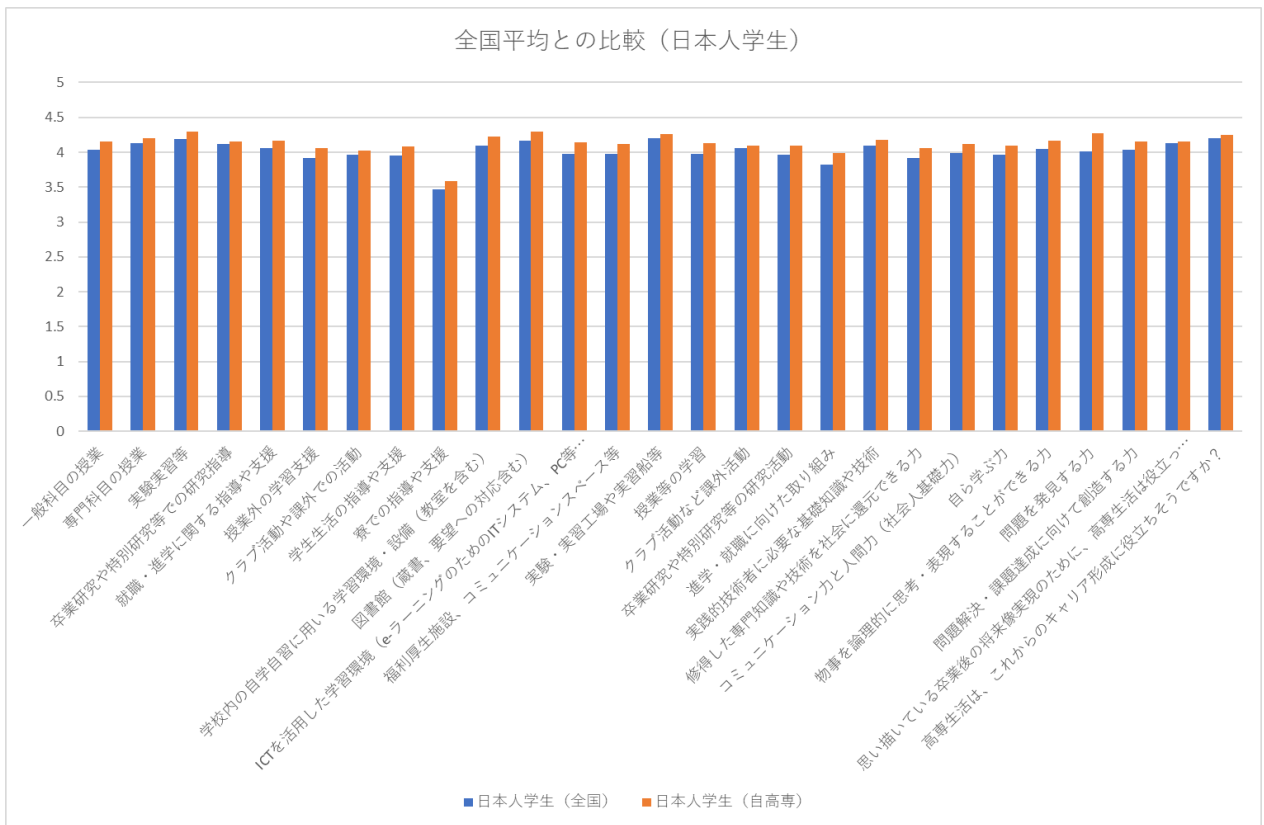
(基礎知識や技術／社会に還元できる力／コミュニケーション力と人間力／自ら学ぶ力／物事を論理的に思考・表現できる力／問題を発見する力／問題解決・課題達成に向けて創造する力)

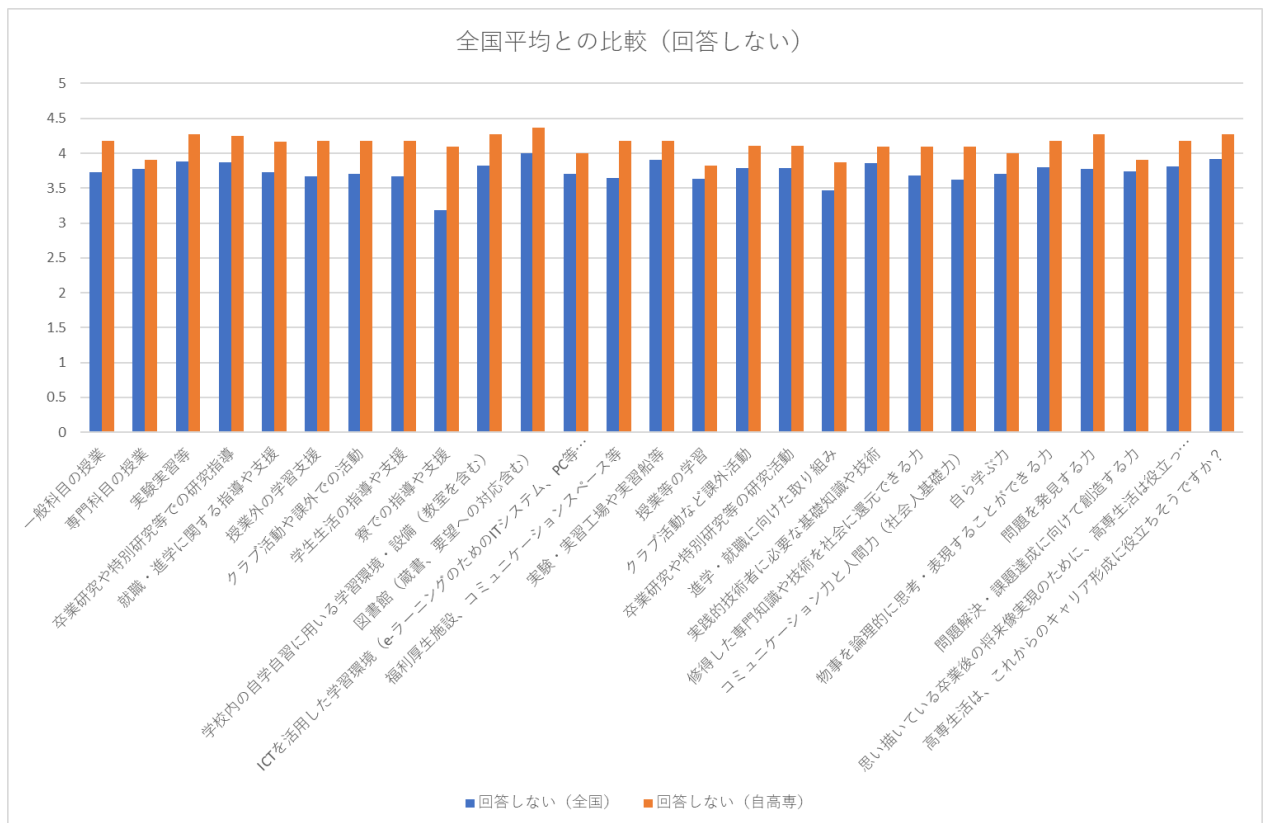
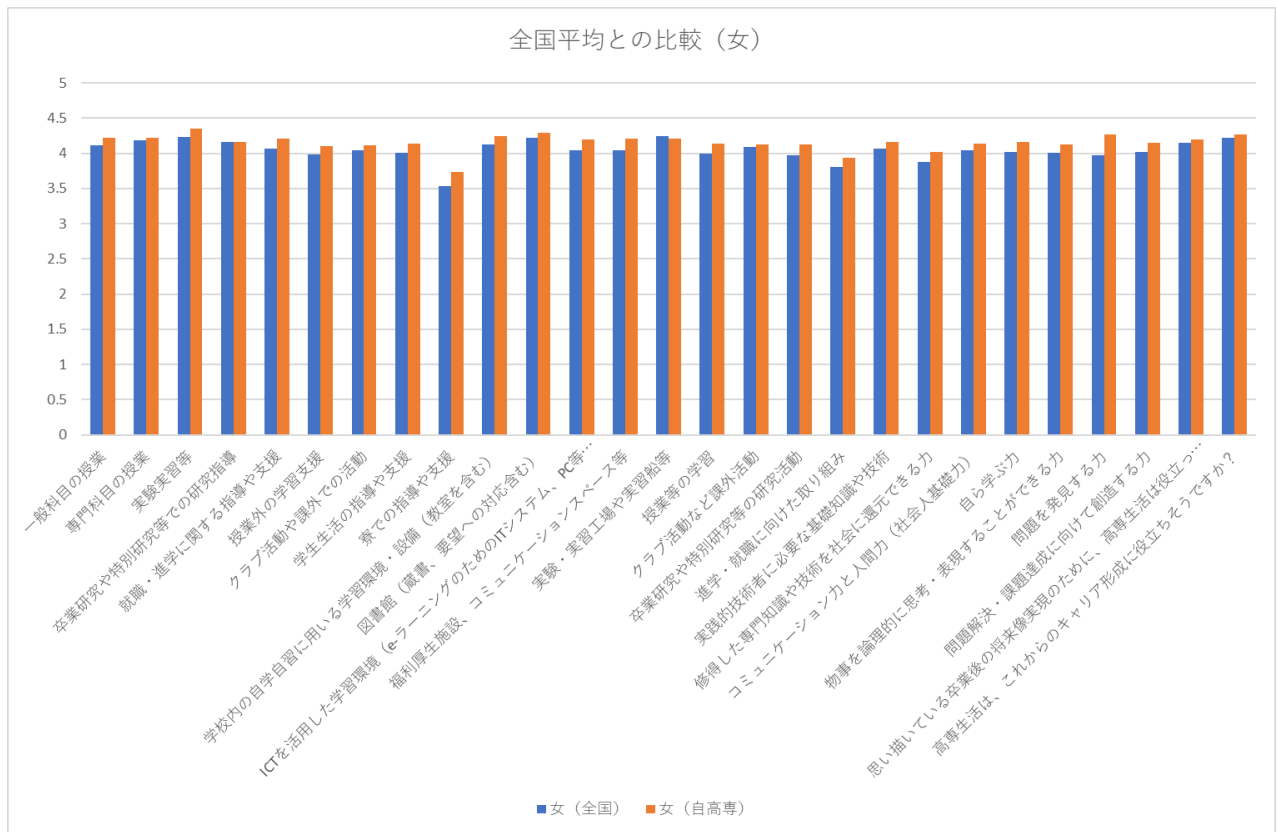
【総合満足度】

(思い描いている卒業後の将来像実現のために、高専生活は役立っているか／高専生活は、これからのキャリア形成に役立ちそうか)

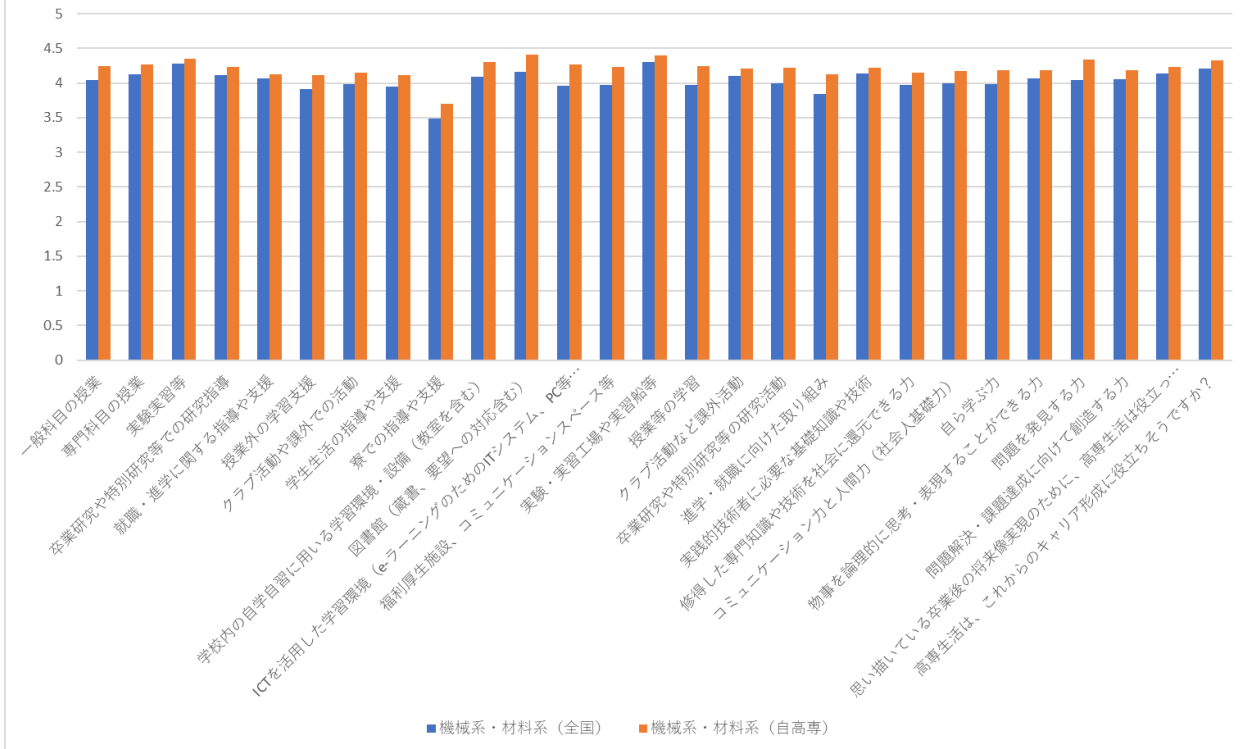




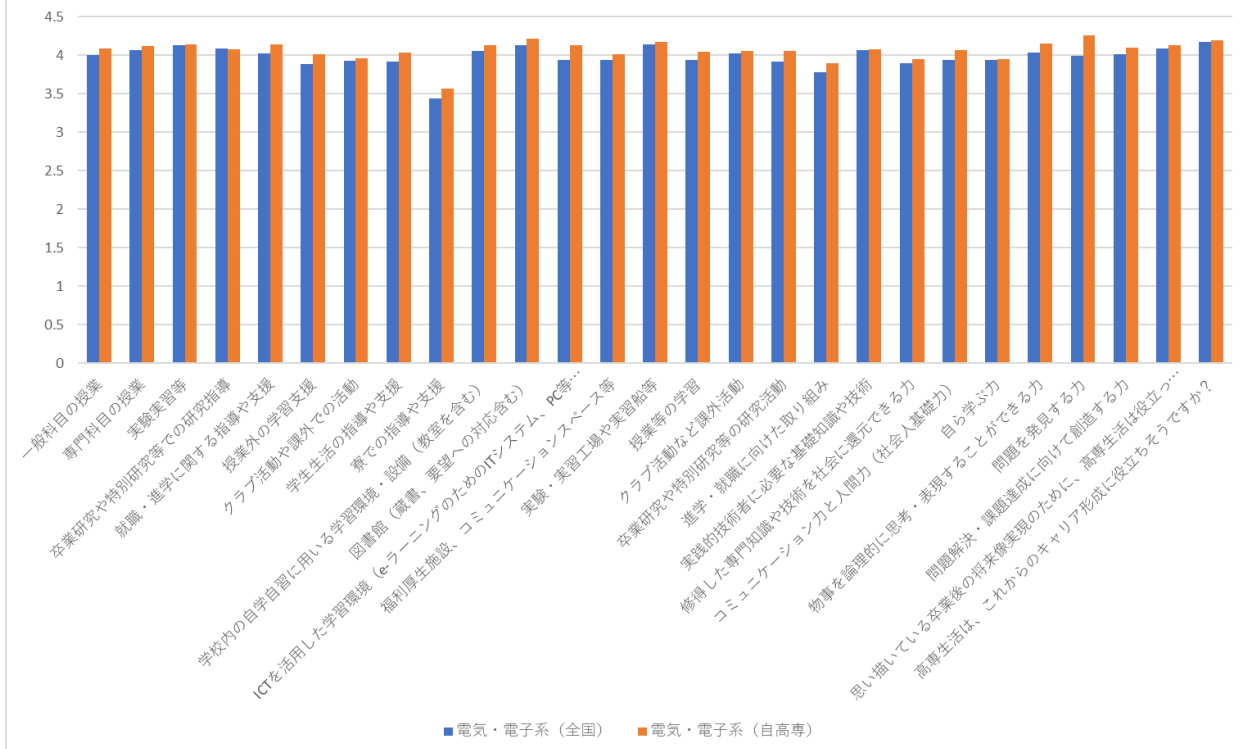


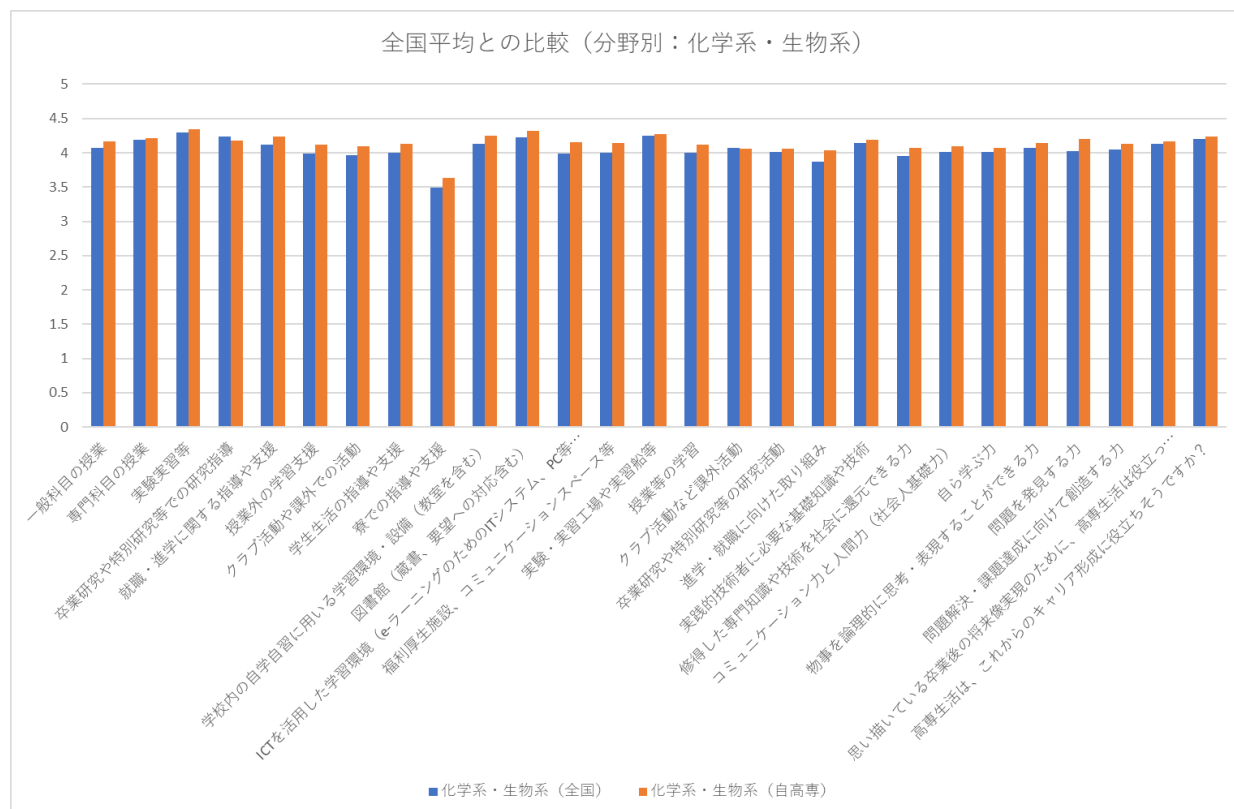
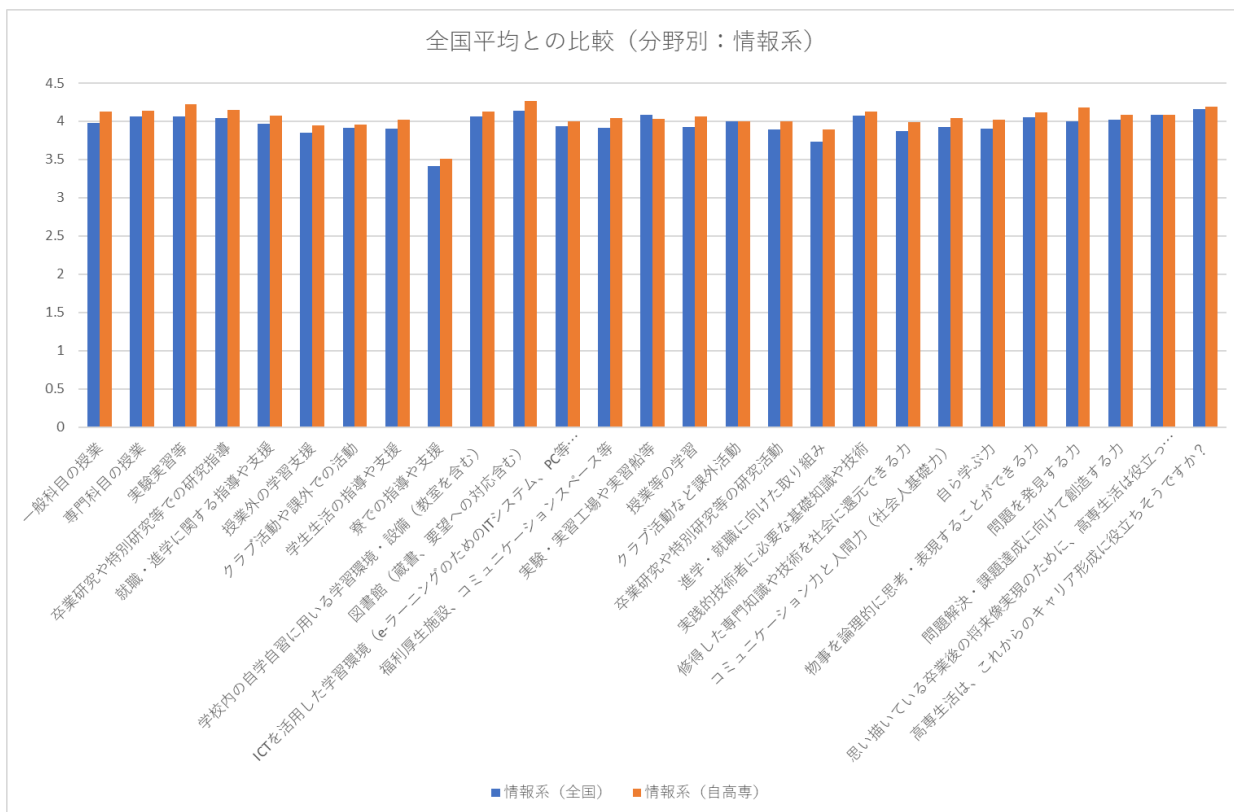


全国平均との比較（分野別：機械系・材料系）

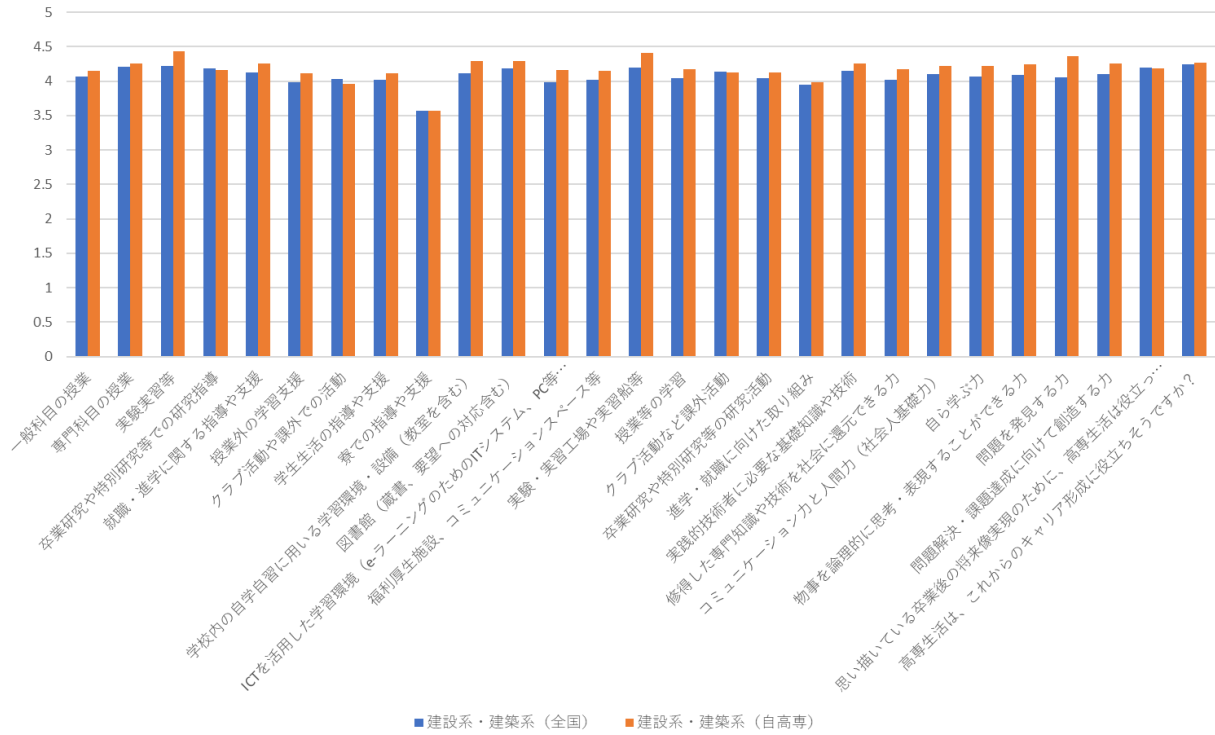


全国平均との比較（分野別：電気・電子系）

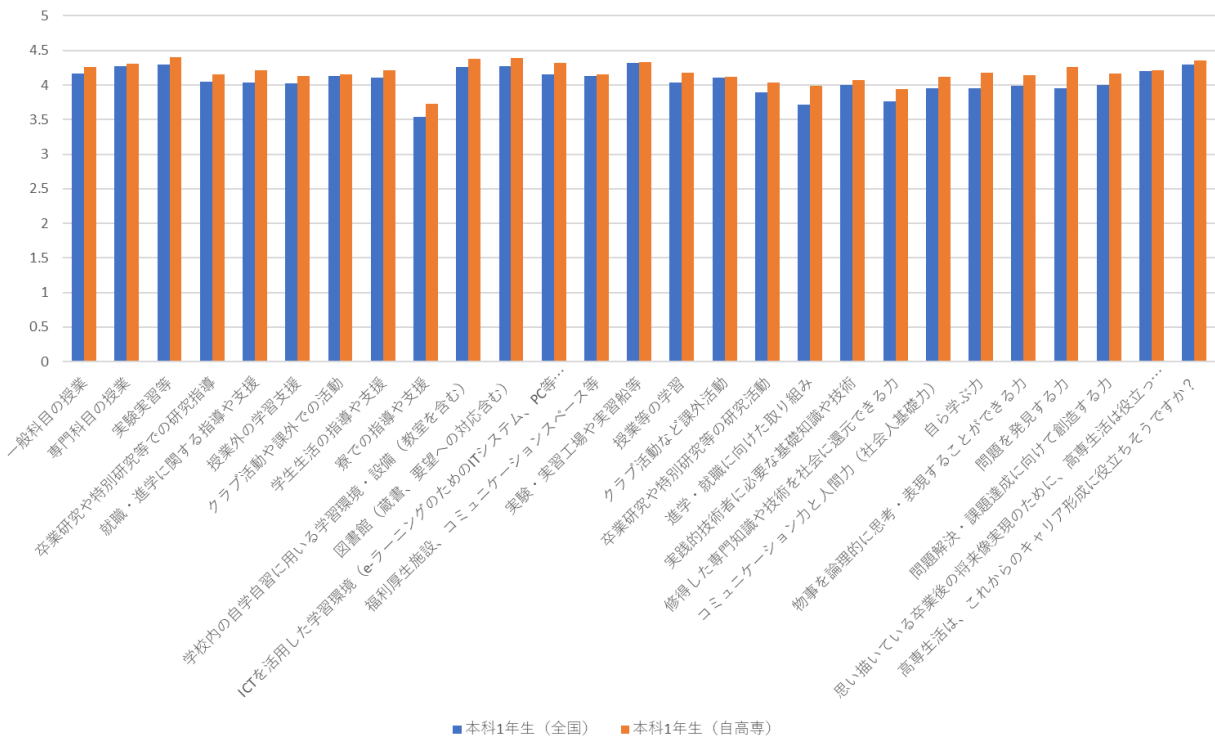




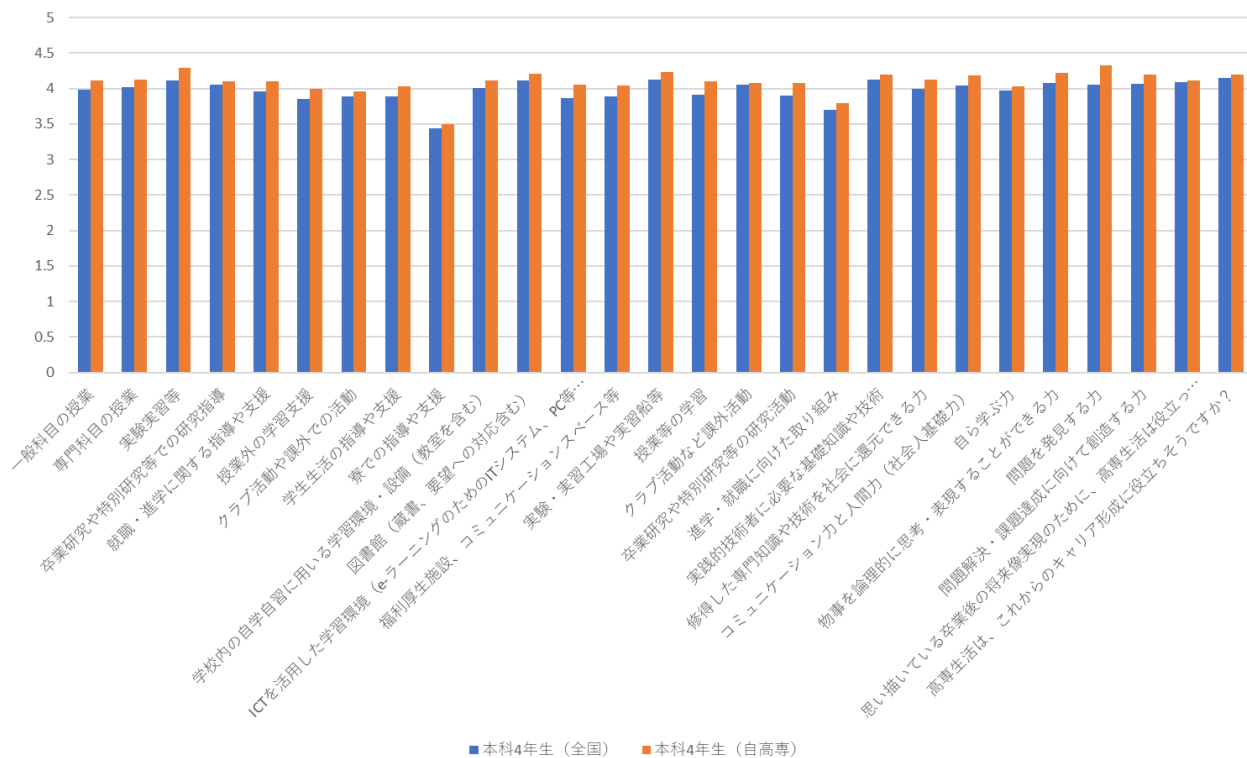
全国平均との比較（分野別：建設系・建築系）



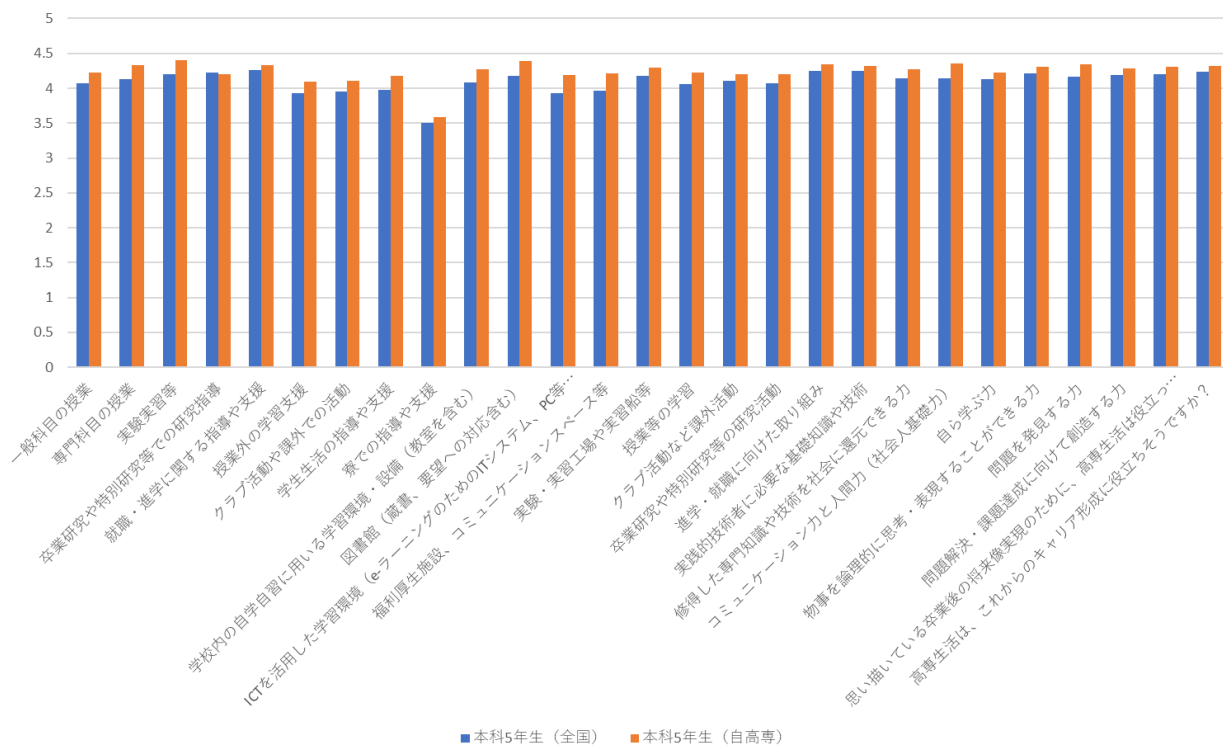
全国平均との比較（本科1年生）



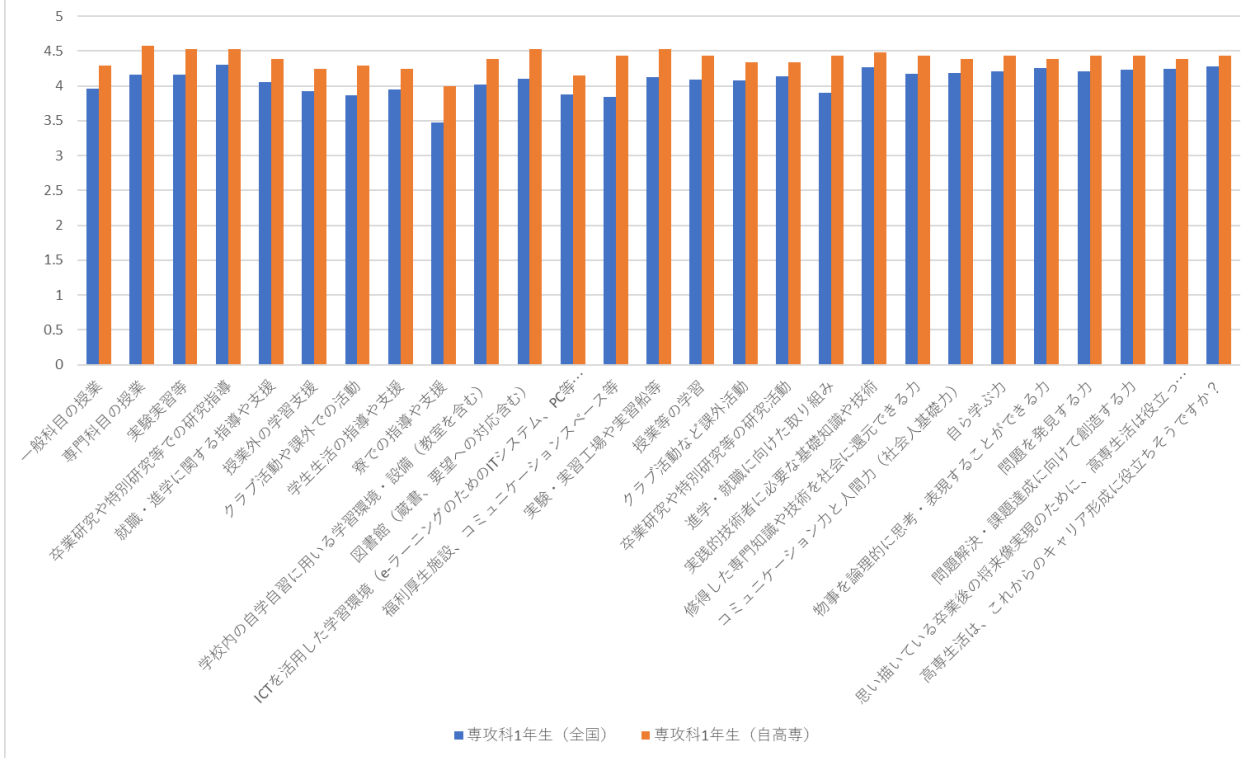
全国平均との比較（本科4年生）



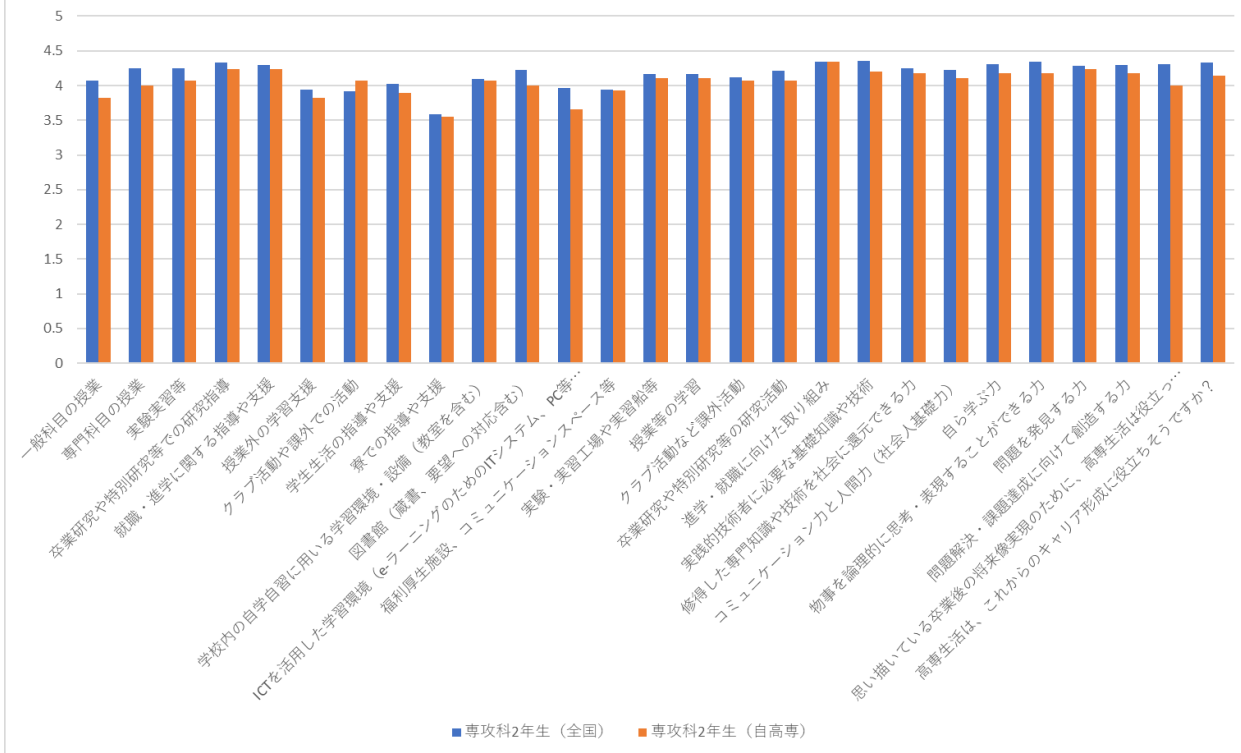
全国平均との比較（本科5年生）



全国平均との比較（専攻科1年生）



全国平均との比較（専攻科2年生）



発行日 令和8年6月

編集 独立行政法人国立高等専門学校機構 福井工業高等専門学校
創造教育開発センター

発行 独立行政法人国立高等専門学校機構 福井工業高等専門学校
〒916-8507 福井県鯖江市下司町
TEL : 0778-62-1118 <https://www.fukui-nct.ac.jp/>